【フォーラムを終えて（日本側学生）】

近くて遠い国を知る

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私たちのグループ発表のテーマは、「日韓交流を阻んできたもの」であった。慰安婦問題や靖国神社問題など、これまでの日韓外交を取り上げ、問題点を指摘し、解決方法を提案した。私は中国に住んだ経験があり、中国人の友人もいるが、こういった内容について積極的に話し合うことは今までなかった。そのため、今回この内容を取り上げ、大勢の韓国人学生の前で発表することは、緊張することだった。その中で、私が最も印象に残っているのは、発表内容についての質疑応答の時間のことである。靖国神社について、韓国人学生の１人が、「靖国神社について日本の学生はどう思っているか。私たちからすると、戦争を主導した戦犯を神様として祀っているところであり、そこへ安倍首相が参拝にいくことについて、悪い印象を持っている。」と質問した。その質問に対し、日本人学生からいくつか意見が出たが、「靖国神社に併設される遊就館は戦争を美化する場と感じた。そのため、靖国神社もまた美化する立場の神社だと考えている。」「Ａ級・Ｂ級戦犯だけでなく、たくさんの兵士が合祀されているので、なくしてしまうと家族が祈る場がなくなるため、家族にとっては大事な場所だ」など日本人同士でも学生によって意見が分かれた。私も一度大学で靖国神社に訪問する授業を受けたことがあるが、高校までの授業では、ほとんどまったく触れていなかった。靖国問題だけでなく、慰安婦問題などその他の日韓関係における問題についてもそうである。しかし、靖国神社の何が韓国人・中国人にとって問題となっているのか、また日本人はそれに対してどういう立場で、解決のためにできることは何かをお互いに話さないと分からない。知識がなければどういう立場かも明確にできないからこそ、偏った知識を持つのはよくないが、中高から意見を述べられるだけの知識を持つべきだと思った。

先生方の知識にも助けられて、Ａ級戦犯も一般の兵士もすべて一緒に合祀されていることが問題だが、靖国神社側としては１度合祀したものは分祀できないという立場でいることが問題点の１つとして指摘された。これは、韓国人にとっては理解できないことだと言っていた。では、日本人にとってはどうかというと、これは調査したわけではなく個人的な意見だが、大多数の日本人は、この合祀・分祀の問題についてそれほど大きな拘りを持っていないように思う。それで解決するなら分祀したらいいと多くの人は思うのではないだろうか。そう考えると、改めてこの問題は宗教の問題ではなく、政治的な問題であると認識できた。また、このように問題に対して無関心ではなく、お互いの立場を表明しあうことで、上辺だけの謝罪ではなく、本当の意味でお互い納得のいく回答を出せるのではないかと考えた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

正直、韓国人学生もそれほど日本人学生と変わらず、交流した相手が日本語を学習している学生ということもあり、言語・文化ともに、あまり大きな困難はなかった。あえて違いを挙げるとしたら、人と人の距離の近さである。観光中には韓国人学生の方から腕を組むペアが多く見られた。日本では女子同士であまり腕を組むことはないが、少しでも親しくなれたような気がして嬉しかった。

また、距離の近さの違いに関連して、夜の自由時間に、同徳女子大学の学生の１人から「日本人は大皿の食べ物をそれぞれの箸でとるのはいやでしょ？夕食の時、いやじゃなか

った？」と質問されたことが印象に残った。日本人でも人によるとは思うが、私を含めて一緒に食事していた日本人学生はみんな「まったく知らない人じゃなければ気にならない。」という答えで、質問をした学生は「そうなんだ。」と驚いていた。私も韓国では食事をする時お皿を持ってはいけないというマナーがあると聞いていたが、一緒に食事をしてバディにマナーを訊いてみるとそれほど気にする必要もないとわかった。

外国の文化はよく「ここが自分の国とはこんなに違う」という形でとりあげられるが、人や年代によっても違うため、一概に典型的なものが当てはまるとは限らない。しかし、相手の文化を知らないままマナーに反して相手の気分を害したり、自分の国の文化やマナーについて何も伝えないまま「マナーが悪い」と眉をひそめたりするよりも、彼女のように思い切って相手に文化を訊く・自分の文化を教えることで、お互い気持ちのいい交流ができるのではないかと思った。

3. 観光からの学び

観光では、各大学のバディから３都市の魅力・現代の韓国の魅力をあますことなく教えてもらい、とても楽しい時間を過ごした。

一方で、一般的な観光地だけでなく、タプコル公園や国連記念墓地なども回った。タプコル公園には、独立運動に参加する韓国の人々、それに対して銃を向ける日本人の官憲のレリーフがあり、韓国人ガイドの方がレリーフの説明書きの通訳をしてくださった。三一独立運動という言葉・内容は暗記したが、その中で何が行われたか具体的には学んでこなかった。レリーフに描かれるとイメージが具体的になったが、そこに描かれている銃を向ける「悪者」が自分と同じ日本人であるという実感はあまり持てなかった。しかし、自分の知らない「歴史」があることを学んだ。どの「歴史」が正しいかについては、ここでは議論しないが、自分と異なる立場の「歴史」を学ぶ人々がいること、そこで自分たちがどのように描かれているのか知ることは、相手とよい関係を築くために必要なことだろう。

また、国連記念墓地では様々な国の兵士たちの墓地があり、亡くなった兵士の家族たちが祈り、兵士を偲ぶ場所はどこの国にとっても必要だと思った。その意味では、ソウルで話したように、靖国神社も、特に靖国で会おうと誓って亡くなった兵士やその家族にとって、必要な場所ではあると思うが、政治的な意味を持ちすぎてしまったように思う。中国・韓国の人々を傷つけることのないような、中立的な祈りの場を作れたらと考えた。

戦争では敵・味方に分かれるので、敵の存在は無視してしまいがちだ。特に自分の国が関わった戦争では、自分の国の被害に目を向け、自国を正義と考えがちだ。国連記念墓地には、日本の墓地はない。朝鮮戦争では物資などの面で日本も国連側に協力しているが、直接的な被害はなかった。そのため、国連墓地について、私自身は、比較的客観的に見ることができたように思う。国連墓地は、朝鮮戦争で犠牲になった国連軍の墓地であるから、そこで見た動画は完全に国連軍が中心で、相手が悪という立場で描かれていたように感じた。日本人として日本の歴史を見るとそういったことはほとんど感じることはないが、おそらくはタプコル公園でも学んだように、偏った歴史を学んでいるのだろうと改めて思った。

4. フォーラムに対する総合的評価

フォーラムでは４都市をまわり、３大学の学生とお互いに発表・意見交換をした。４つの都市を見ることができた点、政治・歴史的な話から、現代のエンターテインメントにいたるまで様々な視点から見ることができた点で、近くて遠いと言われる韓国について、多面的に知ることができてよかった。一方で、10 日間という限られた期間の中で、３大学を回ったため、バディとの交流時間は短くも感じた。しかし、発表や観光の時間だけではな

く、自由時間があったため、短い期間ではあったが、親密になることができたように感じている。また、帰国後も度々連絡をしており、今回のフォーラムが一時的にとどまらない継続的な交流につながっている。この継続的な交流こそが、日韓がお互いを身近に感じることができるという点で、私にとって今回のフォーラム一番大きな収穫となった。

私の意識を変えた出会い

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私は、今回が初めての韓国訪問だった。二年前に日本で開かれた日韓セミナーへの参加や、オーストラリア留学中の韓国人フラットメイトとの生活を経て、韓国をもっと知りたいと思ったことが参加の理由であった。フラットメイトには、歴史認識や島問題で日本を批判されたことが何度かあった。私も韓国のことを学び、日本の立ち位置を把握して、彼女の意見そのものを理解できるようになりたいと考えていた。

フォーラムの発表や討論では、韓国の学生たちから日本に対するリアルな意見を聞くことができた。慰安婦問題への日本側の行動に対する、韓国側の懐疑的な受け止め。靖国参拝についての韓国人学生の批判的な語り。文化やメディアに形成される日本人の「戦争」イメージへの問いかけ…。直接の対話で投げられた問いはどれもストレートで、問題を真正面から考えさせられた。同時に、一生懸命語る韓国の学生たちの前で返す言葉が見つからず、自分の無知に気付かされもした。

自由時間に設けたディスカッションでは、ある韓国人学生が、植民地時代に幼少期を過ごした祖父母の話をしてくれた。またある学生は、「日本語を学んでいると「親日派」と批判の目を向けられることがある」が、「それでも勉強を続けて、そうした考えをなくしていきたい」と語った。日本で就職予定の学生は、「日本人の韓国人への見方を変えるために、日本で頑張りたい」と、熱い思いを抱いていた。

私が他人の過去と捉え、学んでいたことを、韓国の学生たちは、自分の中の記憶のように語っていた。日韓関係を改善したいという思いは固く、行動が伴っていた。その様子を目の当たりにし、最も強く感じたのは、日本側が誠実に歴史に向き合い、心からの謝罪の気持ちを抱かねば、彼らに申し訳ないということである。

2. 韓国人学生との交流からの学び

韓国人は日本人に比べて人間関係の距離が近い、とよく言われるが、会った初日から気軽に腕を組むなどの行動によく表れていたと思う。私にとっては、その距離感は二年前のセミナーや韓国人フラットメイトとの生活を思い出させ、安心感すら覚えた。周りを見てみても、数日のうちに日本人同士でも腕を組んで、「こっちの方がしっくりくるね～」などと話していたのは興味深かった。

どちらかといえば、韓国の学生が、日本の学生の行動に新鮮なまなざしを向けていたことが印象に残っている。例えば、口をつけて回し飲みする日本人を珍しそうに見たり、みんなで一つのピンスを食べようという時には、「日本人は、一緒に食べたりするの、汚いとか思う？そういうの、気にしないかな？」と気遣ってくれ、「気にしない人が多いと思う」と答えると、驚いている様子だった。彼らが思っていた日本人イメージが、共に過ごす中で変わりつつあることを実感した。

3. 観光からの学び

複数の都市を巡る中で、韓国の様々な側面を感じ取ることができた。

特に印象に残っている場所は、3.1 独立運動の出発点として知られるタプコル公園だ。独立運動の様子を伝えるレリーフを見ていくうちに、日本人であることに気まずさを感じ、公園に集まっていたおじいさんたちと目を合わせるのが、なんとなく辛く感じた。日本が

したことを自分の責任できちんと学んでいかなければならない、という思いが大変強くこみあげ、ただの観光客であってはいけないなという気持ちになった。

4. フォーラムに対する総合的評価

まず全体に関して、良かったと感じるのは、バディ制である。グループ制をとった二年前のセミナーでは、グループ内で「韓国」と「日本」の空間が少なからずあり、その居心地の良さに甘えながら、交流していた面があったように感じる。互いに扱いやすい部分だけを共有して、満足していたかもしれない。今回は、ペアによっては性格や趣味の違への戸惑いも見受けられたが、個々で向き合おうとする過程で学ぶことも多かったと思う。

個人的には、「誰々の住んでいる」韓国、という意識が強まり、だから韓国に親しみがわく、日本と韓国で仲良くしたい、と思うようになった。大切な友人たちとの出会いに感謝したい。私たちの帰国と時を同じくして、慰安婦問題への日韓「合意」が行われたというニュースを耳にしたとき、自ずと思い浮かんだのは、今回出会った韓国の学生たちのことだった。彼らがこのニュースをどう捉えるだろう、と考えるうち、自然と、植民地支配を経験した彼らの祖父母や、話に聞いた元慰安婦の方々の存在をも想像していた。韓国の学生たちとの出会いが、今までどこか他人事と思っていた物事を、学び、考えていく原動力になったと思う。また、同じ気持ちを共有しながら話し、過ごした時間は、心の中に温かいものを残してくれた。韓国の学生たちとの別れ際、「「またね」が「さよなら」にならないようにしよう」と誓ったときの気持ちを、いつまでも忘れない。

国を知り、国を超える交流

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

本フォーラムでは、同徳女子大学で日韓関係を阻んできた歴史的・政治的問題について考え、啓明大学で互いを理解する材料となる文化を学び、釜山外国語大学で未来に向けて日韓がいかに協力すべきかを議論するという過程を通して、日韓関係について政治、経済、文化、歴史など様々な側面から幅広く学ぶことができた。その中で、私たちのグループは「日韓の都市間交流の促進」について発表した。このテーマを選んだ理由は、国家間では互いの利害から対立が生じ、個人間では限定的な交流に留まるが、都市間であれば多くの個人を交流に巻き込むことができ、かつ共通の課題に対して協力が可能であると考えたからである。私たちは都市間交流の在り方として、都市内の学生が主体となって日韓間の問題の解決に向けて話し合う交流や、学生が互いの都市をリサーチして記事にし、地域に発信することを提案した。ここでのポイントは、実際の交流によって両国に対するイメージを改善すると同時に、歴史や政治、現代社会の問題を無視せず、共に考え解決を目指すというものである。この重要性は、本フォーラムの交流や討論を通して実感することができた。

本フォーラムで特に学びが多く強く印象に残っているのが、釜山外国語大学の学生と行った討論である。日韓の歴史問題や、反韓・反日、韓国と北朝鮮の関係、徴兵制、受験、自殺問題など様々な課題について話し合ったが、私にとって特に気づきが多かったのが日韓の歴史に対する認識の違いであった。

私はこれまで日韓の歴史に特に注意を払わず、韓国に関する報道を見て韓国は過去の出来事にこだわりすぎていると不信感を抱いていた。過去の出来事について今更責任を求められても現世代には実感の沸かないことであるし、もっと前向きになれないものかと。しかし、韓国の学生に話を聞き、韓国が過去を言及するのは、日本のこれまでの外交の在り方や歴史認識（とそれを形成する歴史教育）に問題があるからではないかと思うに至った。

韓国の学生からは、私を含む多くの日本人が知らないであろう歴史を聞くことが多かった。例えば、「731 部隊」や「マルタ事件」などはこれまで聞いたことのない言葉であった。日本の学校では、植民地時代に日本軍が韓国人に対していかに残虐な行為を行ってきたかを知ることは困難である。私の記憶を辿ってみると、確かに当時の状況を断片的には学んでいる。しかし、大方、何年に何が起きたかを覚えることの方が重要であった。また、日本国民の第二次世界大戦の記憶は、「お国のために若き命が犠牲になった」、「原爆を落とされた」、「だから戦争を二度としてはいけない」と、被害者意識の方が強い印象を受ける。

韓国も、日本の支配の被害を受けた国であるから植民地時代の数々の悲惨な出来事を記憶しているのかもしれない。韓国の学生によれば、ベトナム戦争の際に韓国軍にも日本軍と同様に慰安婦がいた事実もあり、必ずしも日本だけが悪いとは言えないようである。しかし、いずれにしても韓国の学生に「私は何も知らない」としか言えなかったのは心苦しかった。日本は「戦争を繰り返してはいけない」の反省だけでいいのだろうか。本来ならば、植民地化したアジア諸国に対し、形式的に謝罪するのみならず、それに伴い反省の記憶を留めておく必要があるのではないだろうか。そのためには、日本からの視点だけによらない多角的な歴史の教育が重要である。

こういった知見は、韓国の視点から話を聞かなければ得ることができなかったと思う。育った国の異なる学生と触れにくい問題について話して、自分の視野を広げることができ

たのみならず、お互いの理解をより深め、今後も一緒に問題について考えていこうと約束することができた。また、今回の交流のように、今後日本と韓国の民間レベルでの交流が広がっていけば、日韓関係を改善することができると希望を持つことができた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

韓国の学生との交流を通して強く感じたことは、日本と韓国の習慣や言語行動、考え方の違いよりも、むしろ共通点の方であった。特に、私は２年ほど前に本学で行われた日韓セミナーに参加して韓国人学生との共同生活を経験していたため、今回のフォーラムでは典型的な「日本人」を一度忘れて、自分から腕を組みに行ったり、初対面であっても遠慮なく質問したりするという姿勢を取るよう心掛けた。そのおかげもあってか、初対面の韓国人学生と、すぐに距離を縮めることができたと思う。

国という枠組みではなくその人個人を見てみると共通点は多く見えてくる。例えば、個人の悩みや感情は似通っているところが多い。あれが可愛い、これが嫌だといった個人的な物事の受け止め方は、日本人でも韓国人でも大して変わらず、「ああ、それわかる！」と返事を返すことが多かった。

また、文化は確かに人々の言動の根底にあるものではあるが、その影響は個人によって異なると感じた。同じ韓国人でも、例えばスキンシップの度合いも異なる。自分自身が「韓国人」らしい振る舞いをしてみたことで、韓国人の間にある違いを強く感じることができ、個人を尊重するコミュニケーションをとることができた。一方、こういった配慮は、同じ日本人同士の方が忘れてしまいがちである。日本人同士では「文化が同じで当然」、「知っていて当然」という意識が少なからず頭の中にあって、何でも質問することに対して難しさを感じる。どこの国の誰に対しても、相手の国のことを知った上で、それに囚われないコミュニケーションを取れるようになりたいと思う。

3. 観光からの学び

観光を通して感じたのは、日本と韓国は古くから交流があり、また、風景も似通っているということであった。例えば、天馬塚を訪れて韓国でも日本と同様に５世紀頃には古墳に埋葬する文化があることを知り、日本と韓国の歴史が交差する時があったことを再認識した。また、朝鮮通信使歴史館では、江戸時代に日本と韓国の間に信頼関係が築かれ、交流が行われていたことを再確認できた。歴史の授業で学んで知ってはいたが、実際に韓国という場所で韓国人学生と共に歴史館を訪れると、交流がいかに重要であるかを理解することができた。

また、ソウル・仁寺洞のパゴダ公園では、1919 年の独立運動の際の様子を描いたレリーフがあり、日本の警察が韓国の人々に銃を向ける様子や、韓国の人々がそれに立ち向かっていく様子を見ることができて、韓国の人々の意外と身近なところに日本の支配の記憶が残っているのだと知った。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムは、日本人学生にとっては快適で学びの多い旅であったと考える。まず、良かった点として２つ挙げる。第一に、韓国の４都市を訪れたことである。私は今回初めて韓国を訪れたが、ソウル、大邱、慶州、釜山と性格の異なる都市を訪れ、異なる地域に住む学生と接し、一言で韓国と言っても様々な文化や習慣が存在することを肌で感じることができた。

第二に、バディがいたことである。大学ではわからないことや疑問に思ったことを気軽に質問することができ、自由研修の時間には様々な場所に連れて行ってもらえて、常にそ

ばにいてくれる存在で心強かった。また、バディの友人とも交流ができ、寂しさを感じることもなかった。韓国人学生のおもてなしに感謝している。

改善点としては、以下の３つを挙げる。第一に、交流を深めるという観点からすると、一大学あたりの滞在期間が短かったことである。確かに、多数の都市を訪れることを考えると各大学にたくさんの時間を割くことは困難となるが、特に啓明大学とは１日しか交流できず、せめて２日は欲しかった。

第二に、釜山外国語大学以外の韓国人学生と議論する時間があまりなかったことである。確かに、日本側は、ソウルでは日韓関係を阻む過去を振り返り、大邱では互いを理解するための文化を学び、釜山ではこれからの日韓関係について語り合う、というように、過去から未来までつながりを持って学ぶことができた。しかし、文化なら文化だけ、未来なら未来だけというように、大学ごとに話せる内容が異なっており、私自身は、できればより多くの学生と過去と未来について話し合い、様々な意見を聞きたかったと思う。

第三に、フォーラムのツアー等を自分たちで計画しなかったことである。もちろん、本フォーラムは交流を第一の目的としており、自分たちで旅行する必要もなかったかもしれないし、安全面から難しかったかもしれないが、バスで連れていってもらうのでは、その国の人々の生活や環境を見る機会が少ない。実際に街を自分たちで歩き、自分たちでどこへ行くか決める機会があれば、より韓国について知ることができたのではないだろうか。

多くの日本人、韓国人学生と親しくなることができ、大変充実した 10 日間であった。

滞在を通して見えた韓国の姿

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私の所属するグループは「日本人の国民性−伝統文化の観点から−」という発表を啓明大学で行った。発表内容は以下の通りである。

まず、韓国人と対比して特徴的な日本人の国民性を「意見が曖昧・主張」「感情をあまり表に出さない」「親しい人とも距離をとる」と指摘した。その上で、そのような国民性のルーツを「日本人の信仰（八百万の神)」「日本の気候や風土」「自然環境」の観点から説明した。

「日本人の信仰（八百万の神)」では、日本では古くから神の存在や教示は一つではなかったために、意見を強く主張せず多様な考えを受け入れる姿勢が生まれたことを述べた。「日本の気候や風土」では、島国での閉鎖的な集団生活、稲作文化による効率的な共同作業が求められた、などの条件から、和を乱さず集団生活を円滑に行おうとする姿勢が生まれたことを述べた。「自然環境」では、地震・津波・噴火・台風などの自然災害が頻発する日本の環境において、災害を乗り越えるべく、互いに協力し合ったり助け合ったりするといった相手を尊重する姿勢が生まれたことを述べた。

以上から、日本の伝統文化・自然環境などから生まれた日本人の「多様な考えを受け入れる姿勢」「和を乱さず集団生活を円滑に行おうとする姿勢」「相手を尊重する姿勢」が、最初に述べた「意見が曖昧・主張」「感情をあまり表に出さない」「親しい人とも距離をとる」という国民性に繋がっているという結論を述べた。

この日本人の国民性に関する発表や、韓国滞在中に見た韓国人の姿を通して、どちらかの国の常識や文化が優れているという訳ではなく、互いの国の長年の歴史や環境に適応した常識や文化が育まれたことを学べた。

日本では周囲と協調し、過度に主張しないことが美徳・常識とされている風潮がある。一方で、今回韓国を訪問し韓国人の学生同士のコミュニケーションを見ていて感じたが、韓国では自分の意見を明確に主張し、相手と議論することが普通であり常識なのだと見て取れた。このように対照的な文化をもつ日韓だが、韓国にも日本と同様に、自然環境や歴史や文化など、何かしらの理由があり古くからそのような国民性が育まれてきたのではないかと考えさせられた。

韓国にはどのような背景がありそのような国民性が生まれたのかは今回のフォーラムでは明らかにできなかったため、その点について理解を深めることを今後の自身の課題としたい。

2. 韓国人学生との交流からの学び

バディや他の韓国人学生との交流から、日本と違うと感じた韓国人の特徴は「1. ３大学のフォーラムにおける学び」で述べたように「意思の主張が比較的強いこと」である。他にも「面倒見が良い」「行動が素早い」「積極的」「人懐っこい」「スキンシップが多い」と感じた。

一方で韓国人学生からは、私たち日本人に対する「日本人は建前を言って、本音を言わないのではないか」「スキンシップが多すぎて嫌がられないか」という警戒心や遠慮を彼らの態度や発言からやや感じた。

これらの文化の違いを克服するために、韓国人学生と交流する際には「本音」を見せる

ために率直に感情を出すよう意識したり、また、最初は戸惑ったスキンシップにも「日本人と違って、スキンシップが多いことで人と距離が縮まるのが早い」などと、日本と違う良い面を見出すことを意識したりした。

これらの意識をもつことで、何も意識しないより数倍韓国人との交流を楽しめたと感じた。相手の文化を真似てみたり、良い面を見出すことを意識したりすることで、本音で語り合い、親密に人と関る、日本にはない韓国の良い部分を実感・発見できた。

このように、相手の文化に歩み寄って交流したい・相手の文化を理解しよう、という意識や姿勢をもつことで、私の中では韓国人に対する心理的な距離は縮まった。韓国人学生もそのことを感じてくれたことを願う。異なる文化背景をもつ人と交流する上で、文化や習慣や考え方が異なることを理由に相手をはねのけるのではなく、歩み寄り理解しようとする心構えをもつことが重要だと学んだ。

3. 観光からの学び

観光した中で印象に残っている場所は、ソウルのタプコル公園である。三・一独立運動の様子が刻まれたレリーフが強く印象に残っており、日本が韓国に侵略を行った事実を突きつけられたように感じた。

韓国人の旅行ガイドの方からは、韓国人がその公園を独立運動とゆかりの地であることを意識して訪れることは、今日ではほぼ無いと伺った。しかし、現代の韓国の人々の記憶から薄れていっても、日本が韓国に対して犯した罪は消える訳ではないと考えられる。過去の日本人が侵略を行った事実から目を背けず、きちんと認識した上で、日本人としてどのように謝罪していくか考えていかなければいけないと、この公園を訪問して感じた。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムで良かったと感じられる点は、韓国の１都市ではなく、ソウル・大邱・慶州・釜山という４都市を訪問できた点である。

私は今までにドイツのヴォルフラーツハウゼン市に姉妹都市交流・文化交流のために、10 日間ホームステイや観光をした経験や、ベトナムのホーチミン市に孤児院や病院などの視察旅行で 10 日間滞在した経験がある。それらと同様に、今回のフォーラムも移動を含め 10 日間という短期間の海外滞在だった。

しかし、私が今まで経験したドイツやベトナムでの滞在と異なり、１都市ではなく４都市を訪問したことで良かったと感じたのは、多様な角度から韓国という国への印象を持てたことである。具体的に述べると、韓国と一口にいっても、地域によって人柄や町の特徴に違いがあることを感じた。ソウルは、学生の雰囲気も町も都会的で、大邱の学生や町はより素朴で温かみがあると感じた。

もし韓国の１都市しか訪問していなかったならば、その都市の雰囲気や交流した学生の印象のみで韓国の印象が決まり、判断していたと考えられる。そうではなく、４都市を訪問し多様な角度から韓国を見ることができた点が良かった。

もう１点、良かったと感じた点は、訪問した３大学によって「日韓の過去」「日韓の現在」「日韓の未来」という異なるテーマを掲げ、発表や議論をした点である。どれか１つを集中して議論するのも良いが、それら３つのテーマを扱うことで広い視野をもち日韓関係を考えることができたと考えられる。

改善すべきだと思われた点は、韓国の日系企業訪問に割かれた時間や訪問社数がやや少なかった点である。４年生という残り数ヶ月で社会人となる立場で参加したため、大学で学生同士で議論することも重要だが、企業を訪問し経済的な観点から日韓関係を学ぶことも、将来社会にでる私たち学生にとって重要なのではないかと感じたためである。

しかし、総合的には今回のフォーラムに参加して本当に良かったと感じている。４都市を移動し訪問するというハードな日程だったが、一方で非常に密度の濃い 10 日間であった。今回のフォーラム中に出会った韓国の人々との交流は今後も継続していきたい。また、今回得た経験を今後の日韓関係を築いていくために活かしていきたいと考えている。

日韓フォーラムを振り返って

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

３大学でのフォーラムにおいて、特に印象に残っているのは、同徳女子大学の李先生の講演と釜山外国語大学の学生の発表だ。

李先生の講演では、世界中で隣り合った国同士は『隣国の法則』ともいえるほど良好な関係を築きにくいものであるが、日本人と韓国人は感性や性格が似ており友人関係になりやすいという話題がとりあげられていた。私は講演を聞きながら、私自身の留学生との交流を振り返り、また日韓の友人達の留学生活の話を思い出した。その中で確かに、日韓関係は政治関係やメディアでは遠く異なる存在であるが、自分の周囲をの友人関係では非常に身近で、親しみやすい存在であるなということを再認識することができた。

また、異文化に対するステレオタイプはそれを相手に強要するべきではなく、相手を理解する手がかりとするならば有効であるという話、相手の文化を異文化として理解しながらも、その異文化の中にも個人差があるのだから、相手個人を個の文化として理解するのが異文化理解のゴールであるという話もあった。今回のフォーラムでは４都市、３大学で交流を行い、大学ごと３人のバディと出会った。私はこのフォーラムにおいて、都市や個人を自分の知っている韓国という枠から捉えながらも、少しづつ異なる点を楽しみ、また自分の知っている韓国という幅を広げることができたと考えているが、これは李先生の講演を３日目という訪韓してから時間の浅い段階で聞くことができたためであり、非常に重要な学びであったと感じている。

釜山外国語大学の学生の発表は、今後の日韓関係改善のための取り組みとして日韓のメディアがコラボし、例えば１つの作品に両国の俳優が出演するドラマなどを作成すること等が提案されていた。韓国では、海外に輸出するコンテンツとしての価値が高いため、芸能人達が他国のメディアに露出すること寛容なようであるが、日本では海外進出する芸能人に対して「国を捨てた」ような印象を持つことが多い。私は、特に、韓国で活躍した日本人は日本でバッシングに遭いやすく、日本のメディアの枠に韓国のコンテンツが入ってきた際に反発を感じる人も少なくないと感じている。また、そうした事情からメディア自体も、韓国で活躍する日本人を排除し、韓国のコンテンツが日本のメディアに入り込むことを極度に恐れる性質があるのではないかとも考えている。この点について、発表者の学生に伝えたところ、現在韓国では、web などの自由度の高いメディアにおいて良い作品があると、その反響からテレビなど大衆の触れるメディアにおいても取り上げられるという流れがあり、こうした形であれば日本人も日本のメディアも反発なく受け入れられるのではないかという回答をしてくださった。この発表は、日本のメディアの問題点に気づき、またその改善案を考えるきっかけとなった。

2. 韓国人学生との交流からの学び

韓国人の男性との交流は今回のフォーラムが初めてであった。会話の中で非常に興味深かったのは、兵役や軍隊に関する話である。辛く過酷で怖そうなイメージのある軍隊の話について、私は勝手に触れてはいけない話題なのではないかと考えていた。しかし、バディは「強い女性に対して、どこの軍隊に行ったの？という冗談があるんだよ。」や「この味は、軍隊でよく食べたお菓子に似ている。」などと自然と軍隊のことを話し、教えてくれた。こうした話題をきっかけに、軍隊について質問されることは嫌ではないかと質問してみた

ところ、入隊前は不安もあり触れられたくない話題だったが、終わってからは、良い経験としての思い出であり、聞かれても嫌ではないと答えてくれた。韓国において、男性が軍隊に行くということは当たり前のことであり、その話題は非常に日常的なものだということに気づかされた瞬間だった。

また、韓国の学生と日韓の問題について語った際に、日本語学科で日本語を学んでいるというと、「親日なの？日本の方が好きなの？」という偏見を持たれることがあるという話を聞いた。私は日本語教育を副専攻としてきたが、授業の中で、日本語を強制された歴史をもつ韓国人は日本語を学ぶ際に葛藤を抱える可能性があると習った。こうした葛藤は学習者自身が抱えるものだけではなく、周囲からの偏見や視線に悩む学習者もいるのだということが分かった。

3. 観光からの学び

特に印象に残っているのは、パゴダ公園である。バスの移動中、引率の森山教授がバスガイドの金さんに「この公園について説明してください。」と求めたが、顔がこわばり、説明するのに積極的ではないように見えた。このような姿勢を見た後、この公園を訪れた訳であるが、公園内にいる多くの年配の韓国人を見て、私は、何か言われてしまうのではないか、怒られるかもしれないと、不安を覚えた。しかし、実際に訪れてみると、そんなことはなく、そのように考えた自分を恥ずかしく思った。私は、この時同時に、以前日本で行われた日韓フォーラムにおいて韓国人の学生と靖国神社へ行き、彼女たちも今回の私と同様の不安を持っていたなということを思い出した。

歴史的な経緯から、日本と韓国の間に多くの問題があるのは確かである。しかし、日本人も韓国人も実際の状況以上に警戒しすぎてしまっているという現状があるのではないだろうか。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムでは、韓国人学生だけではなく、日本人学生同士での交流機会も多く非常に良かったと感じている。私は４年間、自分の学部以外の学生と議論を行った経験がほとんどなかったが、今回、私自身の専門分野として学んできた日韓関係や異文化理解などについて、専門でない学生たちが一般的にどういった意見をもっているのかということを知ることができた。

また、特に専門外の学生の多くが「無料であった」という点に惹かれ参加しており、今回のフォーラムをきっかけに日韓関係等に興味を持ったと話していた。フォーラム内でも度々話題に上ったが、日韓関係に興味のない人を巻き込み、１人でも多くの人がこの問題を考えるということが、今後の日韓関係改善のためにはでは重要である。そうした面からみても、今回のフォーラムは価値があったように思う。

また、今回３大学を周り、それぞれの大学にバディがいた。一人一人と交流できる時間は少し短かったが、韓国人にも様々な人がいるということを肌をもって感じることができた。また、３回の交流を重ねる中で、どうやったら仲良くなれるのか、どんな日本語が学習者にとって分かりやすいのか、韓国人学習者がどんな日本語を話すのかということが分かるようになり、だんだんと交流スキルが上げることができた点が良かったなと感じている。

交流・共感・異文化理解から日韓関係の構築へ

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私のグループ発表（ソウルＡ）は日韓関係を阻むものとして「教育」を取り上げ、中でも「慰安婦」問題の教科書記述について言及した。また、相互理解を増やすための交流事業などの紹介をして教育から日韓関係を変える努力は為されていることを明言した。しかしその努力は十分ではない現状を受け、私たちは日韓関係に関心を持っていない人々を巻き込んで相互理解を増やすためのプロジェクトを提案した。これは教育を通じた相互理解の場を増やすことが現状困難なのであれば、無関心の人々を巻き込む取り組みが増えれば日韓の相互理解は更に深まると考えたからだった。聴衆からは「面白そう」という声もあった反面、そのプロジェクトにより本当に相互理解が生まれるのかという疑問もあった。このような反応を踏まえた最終的な考察は、「教育」の内容や方法などのシステムを両国が変えていくことが最重要であることを確認しつつ、教育機関に頼らない相互理解の推進は自分の周りでも十分に可能であり、私たち青年もその担い手になれるということである。

同徳女子大学での大きな収穫は、慰安婦問題や靖国神社参拝について互いの知識や意見を交換したことによって生まれた相互理解と共感であった。特に慰安婦問題に関する一番の問題は、日本政府の真摯さが見受けられないことであると強く認識することができた。私は大沼保昭（2007）の書籍を読んでから「女性のためのアジア平和国民基金」は当時の政府にできる限りのことを実行したのではないかと考えていた。本基金の４本の柱のうち、「慰安婦」問題を歴史の教訓として政策に反映し、歴史資料を整理するという柱は不十分であったが、内閣総理大臣からのお詫びの手紙を送ったことによって被害者救済のために一定の役割を果たしたのではないかと、半ばこの基金への肯定感はあった。そして基金からの償い金を受け取れなかった背景には韓国社会の強固な反日キャンペーンも影響していたという大沼（2007）の主張を読んでから韓国国内にも元「慰安婦」を本当の意味で救済する土台は欠けていたと認識していた。それを討論で発言したところ、基金が非公式に行われたものであり日本政府の誠意を感じることができないために韓国では非難が強いということが改めて明確にされ、納得した。このことによって、国民一人ひとりが「慰安婦」問題や日帝による植民地支配の歴史を自覚することは重要だが、日韓の相互理解のためにはやはり政府間でも公式に「解決」されなければならない問題なのだという認識が強まった。しかし逆に政府間で「解決」されてしまえば、その歴史が忘れられてしまうという懸念もあることに注意しなければならない。よって、政治問題としての「解決」と歴史の教訓としての継承を両方達成することが重要である。今回の討論を通じて冷静に「慰安婦」問題に対して多様な立場と意見に触れることができ、何が重要なのかを再考する機会となった。

啓明大学では伝統的な歌や踊りについて韓国側から発表があり、日本の歌舞伎との類似点が伺えた。また、様々な種類のチマチョゴリを着てバディと共に写真を撮影したり、釜山外国語大学ではバディと共同で仮面を作ったりしたことは、韓国の文化体験だけでなくバディとの絆をも深めることができ、大変有意義だった。

2. 韓国人学生との交流からの学び

韓国人学生との人間関係は総じて良好であり、韓国人の振る舞いから学ぶ点が多かった。日本人はよく「おもてなし」をすると言われるが、その程度を越える「おもてなし」を韓

国の学生はしてくれたと感じた。一緒にご飯を食べに行けばおごってくれたり、韓国の化粧品を長時間一緒に選んでくれたり、心のこもった贈り物をしてくれたりした。私は国際交流が好きで日本でも継続的に活動してきたが、ここまで時間をかけて一人一人におもてなしをすることはあまりなかったように思う。数日間しか共に行動できなかったものの、彼らの愛情深さと優しさを十二分に感じた。そして私の日本での留学生との関わり方を振り返り、改善したいという気持ちを持たせてくれた。

一方で、日本人がよく重んじる「和」を彼らはあまり気にしないように思えた。何故なら最初はグループで一緒に行動していても、途中から何も気にせず自分たちの好きなように和から外れたからだ。最初はグループ行動しなくていいのかと戸惑ったが、私のしたいことを逐一聞き、周りを気にせずそこへと案内してくれたので、これが韓国流の「おもてなし」なのかと疑問に思った場面であった。私はこの異文化に触れたとき、いつもより開放的で心地よく感じた。それは韓国の学生たちが自分のことを第一に考えて接してくれたからであろう。そして逆に捉えれば、もしかすると韓国人は日本人の「おもてなし」の在り方に物足りなさを感じるのかもしれない。同徳女子大学ではしきりに「日本人は何を考えているかわからない」と強調されていたが、「和」を意識するあまりそのような不安や不信感を持たれるような文化を私たちは持っているのかもしれない。私は日本人の「和」の文化も大切であると思うが、「目の前にいる相手」を最高にもてなすという韓国人の姿勢から学ぶことも多かった。

3. 観光からの学び

観光を通じて、日本が韓国にもたらした被害を実地で学ぶことができた。例えば景福宮は文禄・慶長の役で日本によって焼かれ、その後 250 年以上放置されていたことや、韓国併合が起きてからは総督府庁舎が建てられたという歴史を学んだ。またタプコル公園では三・一独立運動の当時の様子がわかるような銅像を見ることができ、大変印象に残っている。実際に現地に訪れ、視覚的に歴史を学ぶことにより歴史が「自分の経験」になる。このことから、日韓の和解のためには互いの歴史を知るための訪問が極めて重要であると再確認した。

一方で、韓国の建造物からは日本のそれとの共通性を感じ、MBC World では韓国文化の特異性を見ることができ興味深かった。啓明大学での文化紹介でもそうだったように、韓国と日本の文化様式の類似性は少なからずあるのだが、日本にいると気づくことができなかった。互いの親近感を高めるためにも国家間で更に強調されてもよいことなのではないだろうか。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムの一連の流れ、すなわち日韓の過去を見つめ、共通点に目を向け、今後の日韓関係を考えるという流れは、期待していたよりも多くの気づきをもたらした。特に日本にいれば日韓の相違点にばかり目が向いていたが、今回文化交流も十分に行ったことで日韓の共通点が多く見受けられた。そのおかげで韓国に対する親近感を強く持てたと実感しているため、政治問題の討論だけでなく文化についても互いの理解を深められたことは大変良かった点である。

一方同じ学生と更に長い時間を過ごせたならば、または日本でも交流ができたならば、韓国や韓国人に対するまなざしがまた異なっていたと推測する。私はイギリスでの留学時、韓国人と一緒に住んでいた時期があったが、そのときは韓国人に対して愛情深い性格の持ち主というより、韓国人同士の絆が強くクールな印象が強かった。すなわち、今回の韓国人学生との交流とは印象が異なっていた。自分が今まで関わった韓国人たちの印象が「韓

国人の全ての像」とはみなさないが、今回のフォーラムを通じて韓国人のローカルな振る舞い方、新たな韓国の一面を垣間見ることができたと考えている。その意味で、同じ学生たちと日本でも交流できていれば、彼らの違う一面がまた見られたかもしれないし、韓国人側も日本人の様々な層を見ることができたのではないだろうか。そして自分たちの振る舞い方や、先述した「おもてなし」の文化を見つめ直す絶好の機会となったかもしれない。

最後に、このような実地教育や交流から生まれる学びは座学よりもはるかに大きな意味を持っていると実感したことを述べたい。2015 年 12 月 28 日に「慰安婦」問題について日韓政府で合意がされたことにより、国際関係としての慰安婦問題は解決に向かっているのかもしれない。しかし、日本は歴史研究や教育を通じてその歴史を重く受け止め、語り継いでいかなければならない。その実践は必ずしも学校教育の場だけでなく、家庭教育やノンフォーマル・インフォーマルな実地教育などによっても可能である。今後このような思いを持つ人や実践の機会が増加し日韓関係が良好になるよう期待したい。

参考文献

大沼保昭（2007）『「慰安婦」問題とは何だったのか』、中央公論新書

“ちかさ”への気づき

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

日韓関係に関心があったが、私は今まで韓国を訪れたことがなかった。イギリスへの留学中に、イギリスやドイツ、またポーランドのアウシュビッツなど第二次世界大戦を記録したところへ足を多く運んだ。そのことで、韓国や中国などが日本との戦争をどのように記録し伝えているのかを知りたいという気持ちが強くなった。その点、今回のフォーラムでは、日韓関係について普段は触れにくい政治や歴史の問題などについても、韓国の学生と一緒に語り考えることができた。その中で、特に印象的だったのが次の２点だ。一つ目は同徳女子大で靖国神社について意見を交わしたこと、２つ目が釜山外大において、日本語を学んでいるということで、親日派というレッテルを貼られると聞いたことだ。１点目については、そうした歴史の問題に関して、韓国の人とだけでなく、日本の友人とも意見を交わす機会がこれまでとても少なかったことに気付かされた。また、私自身もある意味偏った考え方をしているかもしれないことも改めて感じた。「靖国神社に首相が公式に参拝していることに対してどう思うか。」、という質問に対して、私自身は宗教に関係のない、また戦前の天皇崇拝に関係のない施設を作って欲しいと考えていることを話した。それに対して、様々な異なる意見をお茶大生からも聞き、こうした議論の場は日本のなかでも必要なことを実感した。また、釜山外大では、「日韓関係の未来の理想」への釜山外大の学生の「それ、偏見だよと言えるようになってほしい。」という意見がとても印象に残った。自分が言わないから、やってないからいいやというのではなく、周囲の人に対して、それは偏見だよだとか、もう少しこういった考え方もあるよということを伝えることの必要性を強く感じ、私自身もそのように行動できる人でありたい。

2. 韓国人学生との交流からの学び

10 日間のフォーラムで多くの韓国の学生に出会った。もし、自分が受け入れる側だったら、これだけの歓迎をできるだろうかと思うほどの歓迎で、特に釜山外大の学生とは、過ごす時間が長かったこともあり、多くの話をすることができた。ひととの距離など、違うなと感じることもあったが、受験勉強や就活、また社会のなかでも自殺やうつの問題など、共通して話すことがたくさんあり、いくら時間があっても話題がつきなかった。その中から、感じたのは韓国において、兵役があることが想像以上に生活に大きく影響しているということだ。バディの友達から、「兵役は韓国の男性にとって、とっても怖い大きな山なんだよ。」と言われたり、たくさんお菓子を買っている理由が軍隊にいる弟に送るためだったりと、軍隊がある、休戦中であるということがどういうことなのかを考えさせられることが多くあった。また、普段話さないことも話そうとお茶大と釜山外大の学生 10 人以上で、カフェで意見交換もした。国といっても、それはあくまでひとりひとりの個人がいてこそ成り立つのだから、私たちが何もしなければ今のような関係は続くし、もし変えたいのならば何かしなければ、動かなければ始まらないよ、という友人の言葉が強く心に残った。自分ひとりだと思ったら大変に思うけれど、今回出会った何人もの学生たちが同じ思いを持っていると思えばいろいろなことができるなと楽しみになった。

3. 観光からの学び

バスガイドの方が道中とても丁寧に説明してくださったことで、学生での交流とはまた違う世代の肩の個人的なお話を聞きながら、それぞれの場所を知ることができた。国連墓地では、墓石に、それぞれの兵士の年齢が刻まれていたが、その大部分は自分とほとんど年のかわらない20歳前後だったことが、衝撃だった。日本では朝鮮戦争というと、歴史の授業では、「朝鮮特需」や「警察予備隊」などの単語と結びついて、ある一つの歴史上の出来事という感覚だった。けれど、朝鮮特需という言葉の裏では、本当に多くのひとが命を落とし、移動を余儀なくされたことを意識させられた。ただ、国連墓地で観た映像では、中国・北朝鮮が悪く、いかに国連が韓国を救ったのかという点が強調されていた。これを、中国や北朝鮮のひとが見たら、もしくはそちらの国が作ったらどのような映像になるのかと考えながらみた。また、どうしても、世界の平和を守る、作るためという言葉と、銃をかまえた兵士、戦車のイメージが矛盾しているように感じ、なんとも言えない気持ちが残った。それによって、歴史を考える際には、それはどの視点から書かれたものなのか、そこに書かれていないことは何なのかを想像しながら学ぶ必要性を強く感じた。

また、韓国の学生が一緒にいつもいてくれたことで、ごはんを食べに入ったレストランで隣に座った方が「どこからきたの。」「横浜、横浜ブルーライトだね。」といって、歌を歌って教えてくださるなど、人との近さを感じることもできた。フォーラムというカタチで行っていながら、このような日常に触れることができたのは、ずっと一緒にいてくれる韓国の学生がいて、日本語でいろいろと説明をしてくれたからだと思う。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムでは、同じ年の大学生と議論する場が設けられていたことで、私たちのグループとしてもポイントとしていた、今まで話してこなかったこと、国同士では避けがちな話題に関しても意見を交換することができた。釜山外大で、全体討論ができなかったのは残念だったが、自主研修の時間を使って、自分たちで話す時間を設けることができたのはよかった。私の祖父は朝鮮半島で中学生まで過ごした。その祖父が、次のように言っていた。「日本が敗戦する迄自分たちが植民地に住んでいるという自覚はなく、敗戦後今迄住んでいた所は植民地だったのだという思いを深くしました。当時私は子供（未成年者）でしたので植民地として支配したことの直接の責任はありませんが、朝鮮半島の人々に対して日本人としての責任はあると思います。」ソウルの朝鮮総督府のあった場所、独立宣言の行われたパゴタ公園、韓国戦争（朝鮮戦争）の跡を残す国連墓地、そうしたところをまわる際、歴史的な事実と、自分の祖父がそのすぐそばで暮らしていたということが重なりとても不思議な気持ちになった。また、バスガイドさんが自分の家族のストーリーを織り混ぜながら説明をしてくださったことで、韓国戦争のことなども、歴史上の事実の一つというより、ガイドさんの家族にとっての韓国戦争の影響、友達の家族にとっても影響というようにとても身近なできごととして感じた。ただ、日本語を学び日本で働くことの決まっている友人でも、「小学生のころは日本が大嫌いだった。日本という言葉に対して嫌悪感があったと語っていた。」と話していた。このときにも、また、ガイドの方の話を聞いている際にも、私自身が日本で育ってきたということもあり、植民地にしていた際の、また韓国戦争（朝鮮戦争）に関して知識がないことを痛感した。そして、互いに本当に話し合いたいのならば、韓国においてその歴史がどのように語られているのかを知る必要性を感じた。その点、ソウルにおいて西大門刑務所のような場所を訪れることができなかったことが心残りだ。日本で育っている人にとっては、かなりショッキングな内容なのかもしれないが、そういったことを学んだ上で話すのと、日本の視点からの歴史観のみで話をするのではかなり感覚が異なると思うからだ。

韓国と日本は本当に地理的にはとても近い。その利点は簡単に行き来ができ、また時差もないことだ。これは、交流を続けるにはとても好条件だろう。今回のはじめて韓国を訪れ、10 日間過ごした。その中では、日本語を使っていたこともあり、あまり“外国”にいるという感覚がなかった。社会の仕組みなど、異なる点はあっても、日本の中にだって、韓国の中にだって、さまざまな違いがあることを考えれば、国で区切って考えることのもどかしさを感じ、日本・韓国という「国」の間にある異なる点よりも、そこに住むひととの近さを意識させられることの方が多かった。フォーラムを通じて出会った友人たちと、ここで終わらせてはいけないね、次につなげたいねという話をした。今年、大学を卒業して働き出す友人、まだこれから学問を続ける友人と、それぞれが置かれている状況は異なる。けれど、簡単にできることをひとつずつ増やして、行っていくことで先につながる関係を作っていきたい。近いからこそ国同士では、さまざまないざこざが起こりやすいのかもしれないが、“ちかさ”を生かすことで濃いつながりを作ることができるのではないだろうか。

今回のフォーラムに参加したことで、日本のなか、お茶大のなかにも様々な考えを持つひとがいることを知り、考えさせられる点も多くあった。せっかくできたこのつながりを今回限りで終わりにしてしまうのではなく、どうすれば次につなげることができるのかを課題として考えていきたい。また、韓国に行く機会を持つことができた自分が、それを内にとどめてしまうのではなく、発信していくことを意識していこうと思う。

韓国で得た様々な学び

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

今回のフォーラムでは、ソウルで同徳女子大学と「日韓関係の過去」について、大邱で啓明大学と「日韓両国の文化」について、釜山で釜山外国語大学と「日韓関係の未来」について、学生の発表や先生方の講義、意見交換会が行なわれた。恥ずかしながら、今まで日韓問題について深く学ぶことが無く、情報源はテレビや新聞だけであった私にとって、今回のフォーラムは日韓問題や韓国文化に関して新しい視点を得ることのできる貴重な機会となった。具体的にフォーラムで得た学びについて、まとめたいと思う。

まず、日韓関係の過去を振り返ると、日本と韓国は地理的に近い隣国であるにも関わらず、近いからこそ互いの交流において様々な問題が生じてきた。例えば、領土問題や慰安婦問題、歴史問題などである。そして現在、それらの問題の解決が試みられているが、国レベルでの話し合いでは、互いの立場などの問題からなかなか相互理解が進まない状態にある。私は今まで、このような日韓関係を自国のことであるにも関わらず、どことなく自分には関係のない話であるような気がしていた。もしも私がこの問題を解決しようとするならば、政治家になるか世界的な有名人（俳優や芸術家など）になるしかないのではないかと考えていたぐらいである。しかしながら、今回のフォーラムを通して、たとえ大規模でなくとも草の根の交流をはかり、少しでも多くの人が互いの価値観や文化を正しく理解することが重要であるということを学ぶことができた。実際、政治家の人や専門で日韓問題について学んでいる人、あるいは偏った思想を持った人以外の国民は、日本と韓国ともにあまり日韓問題について知らない、特に考えを持たないという事実も今回のフォーラムを通して学ぶことができたため（実際に、日本語を専門に学んでいる今回交流した学生の多くも、アニメやＪ－ＰＯＰなどに興味があるだけで、歴史や経済などを含む日韓問題について深く考えたことはないと言っていた)、そのような人々に日韓関係に興味をもってもらい、価値観の相違点を知ってもらうことで、これまで以上の相互理解が期待できるということを知ることができた。一方で、日韓関係について無知だからこそ、何の障壁もなく交流できるという意見もあるであろうが、それではやはり、長期的な友好関係にはつながらず、いつかまた再び同じような問題を抱えることになってしまうため、現実に向き合い、可能な限りはやく問題の解決を図るべきであると考える。私個人の話をすれば、今回のフォーラムは日韓問題について興味をもち、日韓の歴史等実際にあった真実を知りたいと考えるきっかけになったため、今後積極的に日韓関係やその歴史、韓国語を学んでいきたいと考えている。

2. 韓国人学生との交流からの学び

今回のフォーラムでは、各大学において、日本人学生１人に対し韓国人学生１人がバディについたため、積極的にコミュニケーションをとり、交流を深めることができた。その中で、感じた日韓文化の違いは、他人（友人）との距離のとり方である。日本人は「親しき中にも礼儀あり」とよく言われるとおり、親しい人とでも気を使ったり、遠慮をしたり、ある程度の距離をとろうとするが、韓国人は仲良くなればなるほど、意見やその他物事をはっきり言ったり、スキンシップを多くとったりと、違いが見られた。最初は、女性同士で手を組んだりすることに抵抗を覚えたが、もともと異文化を体験することは好きな方なので、フォーラムの期間中徐々に慣れ、良い韓国文化を楽しむことができた。

しかしながら、やはり韓国人はその他の国の人と比べると、日本人とよく似ていると感じる場面も多かった。日本語を学んでいる学生だからというのもあるかもしれないが、よく話が合い、笑いのツボが同じであったりしたため、会話を楽しむことができた。

このことから、日本人と韓国人の個人同士、特に若者同士は互いに知り合うことで、非常に仲良く交流していくことができるということを身をもって実感することができた。実際、フォーラムから一ヶ月経った今現在も、連絡を取り合っている韓国人の友達が多数できたため、これからも長期的に交流をはかっていきたいと考えている。多くの若者が今回のようなフォーラムに参加し、友人をつくることで、互いに友達がいる身近な国として交流促進につながるのではないかと感じた。

3. 観光からの学び

今回のフォーラムでは、大学での学びや現地学生との交流以外にも韓国の文化や歴史を学ぶことのできるような観光も充実していた。ソウル、大邱、慶州、釜山の四都市をまわり、韓国を縦断できたことは、実に貴重な経験である。

中でも、仏国寺や石窟庵の世界遺産をはじめ、景福宮やパゴダ公園、国連墓地などでは、韓国の歴史の一部を学ぶことができ、「百聞は一見に如かず」というが教科書等で知るよりも深く印象に残る学習となった。

MBC world や明洞、南山タワーなどでは、韓国の現代文化や流行を学ぶことができ、特に化粧品やファッションは人気のある韓流スターをモデルとして起用し、韓国人だけでなく日本人などの海外からの観光客からも注目されていることが分かった。日本からの観光客はピーク時よりも減ったと言われるが、それでもなお観光客を引き付ける要素や日本語の看板が多数存在していたことが印象深かった。その他にも、今回は新幹線や地下鉄を利用する機会もあったが、観光客がスムーズに利用できるよう案内看板などが充実していて、非常に分かりやすかったことも印象に残っている。

また、食事の面も、韓国の有名な食事をほとんど網羅したのではないかと思われるくらい多様な韓国料理を味わうことができ、韓国の食文化を学ぶ良い機会となった。予想はしていたように辛いものは多かったが、副菜（キムチや野菜など）はおかわり自由など新しい韓国文化に触れることができたのも、現地での研修だからこそできる経験だと思った。

4. フォーラムに対する総合的評価

私事であるが、今回のように海外の学生と交流し意見交換を行う機会は今までほとんどなかったため、総合的に考えて、今回のフォーラムは私にとって非常に充実した楽しい思い出であるとともに、これからの私の生活に影響を与えるターニングポイントになったことは間違いない。しかしながら、反省点もある。はじめは正直気軽な気持ちで参加したため、日韓関係や韓国語などをほとんど勉強していない状態でフォーラムが始まってしまったことである。参加者の中には、私のような理系学生から日韓関係を専門としている学生など幅広かったため、事前の知識に大きな差があったことは事実である。そのため、フォーラムが始まる前に、知識を共有できる勉強会等があればよかったと感じる。もちろん自主的に学習をすることが適切であるため、私自身もう少し積極的に日韓関係や韓国語を勉強するべきであったと思う。特に、現地の学生とコミュニケーションをとるときにはやはり言語の壁が大きいと感じた。今回のフォーラムでは、日本語を専門に勉強している学生との交流であったため、その点に関してはあまり不自由がなかったが、それでもやはり多少なりとも韓国語を知っておくことで、より親しく交流をはかれたであろう場面は多数あった。機会があれば再び日韓フォーラムに参加しようと考えているため、それまでには、韓国語を勉強し、スムーズな会話ができるよう、また日本語を専門としていない一般の韓

国人とも話し合いができるよう励みたいと思う。

遠そうで近い韓国

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

今回の 10 日間に渡って開催された日韓フォーラムにおける主軸はやはり、３つの大学(同徳女子大学、啓明大学、釜山外国語大学）で行われた３回のフォーラムにあったと思われる。これらのフォーラムでは、日韓関係の過去・現在・未来とそれぞれにテーマが設定され、一連のフォーラムが連続性と一貫性の中にあったと感じた。

私自身のグループ発表は、啓明大学で日本の伝統文化として「衣食住」についての発表を行った。発表は日本語で行ったが、スライドには韓国語訳も付け加えた。日本での事前準備の段階で、相手が外国語としての日本語話者であるから、その点に気を付けるように指摘を受けた。韓国に行って相手の言語ではなく自分の言語で発表できることは、外国語を使用するよりも楽ではあったものの、逆にどれほど伝わるのが不安で発表のための現行内容を何度も見直した。また、理解してもらうとはどのようなことであるか、ということを真剣に考えた。結局、一方向的な説明には限界があるのだと学んだ。

フォーラムのうちの特に同徳女子大学と釜山外国語大学におけるものは、日韓関係の歴史的・政治的な問題に関しても表面的に曖昧にせず、学生同士で踏み込んだ内容の討論が行われた。スケジュールの都合上、討論のみの時間が設定されてはいなかったが、グループ発表の質疑応答時には鋭い意見が飛び交っていた。ほかの人たちの多くの意見を聞いて感じたのは、日韓関係に絡む多くの問題は、それぞれ多面的で重層的な問題点をはらんでいるということだった。つまり、一方では政治的に歴史上「事実」とされていることがあり、他方には誰かの記憶に基づく「事実」があり、日韓の二国間では解決できない国際的なパワーバランスの中で「事実」とされていることがあり、その噛み合わない「事実」を突き付け合うことで外交的な拗れがあったということだ。この多面性と向き合うためには、より多く語り合うこと、対話をすることがとても大切なことだと感じた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

今回、私には３人のバディがいた。３人とも大学で日本語を学んでいる学生であり、日本に対してとても理解のある学生たちであった。

まず、私のバディはみな、とても距離感が近かった。普段私が学友たちととる距離とは異なり、見えない「間」を探り合うようなことはせず、彼女らが思うままと思われる距離感で接してくれた。語弊があるかもしれないが、彼女らには遠慮がなかった。しかし、そのおかげで、私は素直に自分のバディに頼ることができたのも事実である。韓国に滞在している間は、集団行動する時以外は自分一人では（というよりも日本人だけでは）なにもできなかったので、バディに助けてもらうシーンも多々あった。そのような場面で、もし日本人同士の他人行儀な距離感でいたら、相手の好意に甘えることはできなかったと思う。特に釜山では、自主研修の時間にバディに市内を案内してもらった。休日ではあったが（向こうの大学は冬休みに入っていた)、迷える日本人学生の我々に場所を教えてくれたり、韓国語との通訳をしてくれたり、街で見かけるいろいろなものが何であるかを教えてくれたりした。

ただ、写真撮影が多いことには戸惑った。観光地のシンボリックな場所だけではなく、あらゆる場面において電話機内蔵のカメラで自分自身を（そして一緒にいる私を）撮影していた。「ここはさすがに撮影しなくてもよいのでは？」と言おうとは思ったが、本人が楽

しそうにしていたので結局私は何も言わなかった。近い距離感で接してくれた相手に対して、私は同じだけの距離を詰めることができなかったのかもしれない。相手との距離感というものについて私は考えさせられた。

3. 観光からの学び

今回のフォーラムは机上の話し合いだけではなく、観光を通して現地についての見聞を深める機会が多かった。

ソウルと慶州では、昔の建物の復元したものを見る機会が多かった。日本では、古い建物の復元には是非があり、例え費用が嵩んでも昔と同じ方法でつくることにこだわり、結局復元が叶わなくなったりすることもあるが、韓国では見た目やたたずまいを復元して、近代的な建築方法をとっている建物が多数みられた（鉄筋コンクリート造）。

古い建物を復元したり保存したりすることは、歴史や文化の面からみてもとても重要なことだと言われてはいるが、実際にその空間を再現して体験できるようにすることは、私のような外国人が訪れてその文化や歴史の雰囲気を理解するのにとても有効な方法だと思った。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムは、日韓関係について考えるにあたってとても良い機会となった。まず、期間が 10 日間あることによって、韓国という土地に順応する十分な時間があり、見聞きしたことについてしっかりと考える心理的な余裕があった。

一方で、事前準備の期間が短かったことを、韓国に実際に行ってから痛感した。韓国語はまだわからないし、知識も十分ではないし、何より、相手の韓国人学生が我々を知っているよりも全然こちらは相手のことを知らない。もう少し色々なことをわかってから来れば、理解が違ったのかなと感じることが何度かあった。また、ＳＮＳ等を通じて事前に相手と連絡が取れる状態であったにも関わらず、あまり連絡もしていなかったことも後悔した。現地では、バディの学生といられる時間も限られており、お互いに馴染むまでの時間が少しもったいないような気がした（けれどそれも貴重な経験だったと思っている）。そう思ったのは、別れの時にもう少し一緒にいられればと感じたせいかもしれない。

今回のフォーラムについて、たらればを言えば切りがないが、日韓関係について考え理解を深めるという観点においてはとても意義深いものであった。もちろん、相手のことを知るためには長い時間が必要である。しかし、限られた時間の中で、最大限の経験ができたのではないかと思う。

フォーラムでの学び

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私にとって一番学びがあったのは釜山で行ったグループ発表です。10 月から週に一度集まり、現地についてからも「日韓関係の未来」についてメンバー間で話し合った時間は有意義なものでした。皆が真剣だったからこそ発表準備は大変でしたが、そういった中でもメンバーの得意分野を生かしながら役割分担をし、なんとか進めていきました。韓国の学生に対して発表をしたのは初めてで、どうすれば相手を尊重する形の提言ができるか、また母語の違う相手にどのようにすればうまく伝えられるか等、試行錯誤の連続でした。こういった経験は、今後社会に出てからも生きてくると思います。

2. 韓国人学生との交流からの学び

３人のバディと交流したのですが、その中で「日韓の違い」を感じたことは一度もありませんでした。それは私自身が韓国人との交流を継続して行っていたことや、バディも日本滞在歴があり、日本文化に精通していたことが理由だったのではないかと振り返って思います。このように、お互いの文化を理解し、違いを認識した上で交流することで、誤解や偏見が生まれることなく、相手を「日本人である〇〇さん」「韓国人の〇〇さん」ではなく、「一個人」として見られるのではないかと考えます。

3. 観光からの学び

一番印象に残ったのは、釜山の在韓国連記念公園です。大規模で綺麗に整備された墓地を見て、ここに埋葬されることのなかった人びとに思いを馳せました。「敵」軍の一員として亡くなっていった人々は、その後どのように扱われたのでしょうか。今なお分断状態の続く朝鮮半島で、北と南が「敵」として対立している悲しい現実に、日本はもっと目を向けなければいけないと改めて感じました。

4. フォーラムに対する総合的評価

日程は非常に良かったです。10 日間で４都市をまわり、３大学の学生と交流すると聞いた時はスケジュールが過密すぎるのではないかと心配でしたが、杞憂でした。４都市それぞれの特色、地域性を知り、違う地域の学生たちと交流したことで、首都であるソウルだけを訪れるのとはまた違った「韓国」を体験できたのではないかと思います。

残念だった点は、それぞれの大学との交流時間が限られていたことです。４都市を周ったので仕方のないことですが、時間と交流の密度はある程度比例していると考えているため、そこは残念でした。観光はいつでもできますが、大学間交流は大学生のうちしかできません。日程を増やす、もしくは訪れる都市を４つではなく３つに減らし、その分学生間の交流時間を増やせば、もう少し密度の濃い交流ができたのではないかと思います。しかし、総じて質の高い、よく構成されたフォーラムでした。

日韓のつくってきたもの、いま、そしてこれから

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私のグループでは、衣食住の３パートに分けて日本の文化について紹介した。私の担当したパートはその中の「住」で、日本固有のＬＤＫ表記やマンション、コタツについて発表した。この中で私の周りの韓国人学生に最も反響があったのはコタツである。発表のあと、「日本でコタツを使っているか」聞かれた。そして、「使っていない」と答えたときに非常に驚かれた。ドラマなどで描かれるステレオタイプの中で、コタツに入ることが潜在的に当たり前だと思っていたのだろう。

韓国人学生側の発表で最も印象にあるのは、アジア共同体についてのものである。国家も単なる共同体に過ぎず、アジアを一つの共同体としてみて協力していく、という考え方は私にとって新鮮なものだった。グローバル化の進む今、国同士での政治的、経済的、文化的な競争がある。日本は戦争からアメリカとの結びつきが強いが、近隣の諸国とできる範囲で協力していくことで、日本をスイスのような永世中立国（私はこのような国家のあり方が日本にとっても最善であると考える）に近づける一歩になるのではないか。

2. 韓国人学生との交流からの学び

最も驚いたのは、男子学生達が兵役について日常会話として普通に語っていたことである。食事の際に、翌日どこを観光しようか決める話の延長線上で何気なく兵役の話をする。一時期韓流スターの兵役が日本のメディアで取り沙汰されたが、韓国人の男子とは縁がなく、兵役とはこうも自然な流れなのか、とびっくりした。死体を見た話だったり、死にそうになる経験だったりを笑顔で食事中に語る学生を見て、就職活動を控え「働きたくない」と不満をもらす日本の学生達（自分も含め）との差異を感じざるをえなかった。また、釜山外国語大学では日本人とのハーフの学生もおり、韓国にいても日本国籍ならば兵役を免れるようだった。以前は兵役へ行くことが男の勲章と見られたが、今の学生達はできれば兵役を逃れたいものらしい。「同級生は兵役中だから、自分はその間日本でワーキングホリデーして帰ってくる友達と学年を合わせる」と言った学生は、日本国籍のため友人からは「神の子」と言われるようだ。どうすることもできない自分達の生まれを、各々がすごく自然に受け入れていることには、文化や教育の差異があるのだろう。

3. 観光からの学び

まず一つは、ロッテ傘下の企業が多い。ロッテ百貨店、ロッテマート、ロッテホテル、ロッテ製菓、ロッテＪＴＢ・・・。並べるときりがないロッテ〇〇だったが、もとは日本の株式会社らしい。在日韓国人である重光氏が日本で大手の菓子メーカーとして成功させた資金を、1965 年の日韓国交正常化を受けて母国韓国にロッテグループを発足させ、現在ではロッテ財閥を形成するほど大成功を収めた。この成功は日本と韓国の経済格差を利用したり国交回復の波に乗ったりと、経済や政治の側面からも裏付けられている。

二つ目は、黙っていれば韓国人に見られない。韓国人と日本人にもとの見た目の差異はあまりないということである。ミョンドンなど、観光客の多い通りでは客引きが多いが、友人とおしゃべりしていなければ韓国人だと思われているらしかった。たまに「こんにちは」と話しかけられることはあったが、「こんにちは」で反応しなければ「ニーハオ」と中国語に切り替わったので、反応でどこから来たのか推測しているようだ。あとは、日本人

のメイクには頬のチークがあるが、韓国人のメイクは口紅のビビットな色を目立たせるためにチークがなく、顔を首の色と分けるくらい白くすることも判断の要因だったろう。

4. フォーラムに対する総合的評価

よかった点

・各大学の学生と関われた
・バディ制度が韓国人の面倒見のよさと合っていた
・韓国企業の方の話を聞けたのが、就職活動前の身としてはためになった
・座って発表を聞くだけではなく、チマチョゴリやお面の絵付けなどの伝統文化体験ができた

改善すべきだと思った点

・発表が一方的だったので、面白みに欠けた。五人くらいの少人数のグループディスカッションの時間を設けたほうが、より学生同士の意見を聞けてよかったのではないか
・観光のための自由時間が少ない
・ホテルの空調がききづらかったので、温度調節できるようにとか加湿器を持ってくるようにとか事前注意が欲しかった

参考文献

・Wikipedia「ロッテ」
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%83%83%E3%83%86（2015 年 1 月 10 日）

まず、互いに歩み寄る努力を

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私たちのグループは、日韓両国民が‘音楽’をキーワードに、日韓の国民が交流し相手を知ることのできる場を作り出すためのイベント開催を提案した。よりイベントが有効なものとなるように、普段では考えたことのないようなところまで想像力を膨らませ意見を出し合い、グループみんなで頭を悩ませていた。その準備段階で強く感じたことは、いくら政治や歴史問題という最も敏感な部分を抜きにしたイベントであったとしても、やはり壁となるものは政治や歴史問題から影響する、互いに対する不信感やマイナスのイメージであった。日韓関係の悪化がより深刻化し、両国の間にある問題について詳しく知らない人々でも、なんとなく互いに対するイメージが悪くなってしまっている。そのような現状において、政治や歴史問題が日韓関係に大きく影響するといえるからこそ、難しい問題を一切抜きにして人々が一から交流を始められるような場を作ることが必要と思い音楽イベントの提案をしたが、発表の準備をしながら、真正面から問題に向き合い意見交換をする場も同時に行うべきだと考え、どちらも双方向で影響を及ぼしながら有効な方法を用いて開催することが重要だと考えた。

同徳女子大学でのグループ発表の時間では、日韓の溝を深めている歴史問題を共に考える時間が持つことができた。そのときに感じたのは「互いに対しての誤解の深刻さ」であった。また、その誤解を解いていく必要性を強く感じた。例えば靖国神社参拝問題一つをとってみても、その背景にあるものや、それが日韓両国民にとって意味するものが全くと言っていいほど違う。日本人は韓国人の視点で、どうして問題となるのか、どうしてそこまで反感が強いのかを考えてみること、そして韓国人は、靖国神社は一体どのような意味が込められているのか、その背景を知ろうとしてみることがいかに重要であるかがわかった。それを通じて、相手の言い分を心から理解し、そこから和解の一歩へと進むことができるということを改めて感じることができた。

相手のことを知ろうとしないまま、自分のことを理解してもらおうと求めたり、相手を批判だけすることは簡単で誰にでもできることだ。そこで留まるのではなく、そこから一歩進み、問題の核心へと迫っていくことが問題解決の糸口につながり前に進むことができるのだと思う。当然なことでありながらも、それが非常に難しいことを改めて感じる時間となった。だからこそ、相手を自分の枠に当てはめようとせず、相手の立場で物事を考えてみることの重要性を感じ、そのためには相手に一歩自ら歩み寄ろうとする姿勢が大切だと感じた。

２．韓国人学生との交流からの学び

韓国人学生との交流の時間は大体２、３日という短い時間で、特に大邱の学生とは１日しかなかった。しかし、別れるときには寂しく名残惜しい気持ちでいっぱいだった。韓国人の友達と付き合うたびに思うことだが、仲良くなるスピードが非常に速いと思う。それは、初めて会ったタイミングで話す内容がより深い点や、相手に向ける関心の強さがこちらからも感じ取れる点にあると感じた。

韓国では日本語学習者が以前より少なくなっている印象だ。私の韓国人の友達でも、今現在日本語を学んでいる人はいない。昔は日本のアニメや歌手が好きという理由から日本語を勉強したいと言っていた友達もたくさんいたが、冷え込んだ関係がひとつの原因とな

り、学習者が減っているという現状は非常に悲しいものである。
釜山外大の学生と話しているときにも、「日本が好き」「日本語を勉強している」などと周囲に言えば、今の両国の複雑な関係の影響から、「親日だ」などと冗談交じりに言われたという経験や、「日本語を勉強して何になるんだ」と、将来を見据えての助言であったとしても、悲しい気持ちになるような言葉を親戚から言われたという経験を聞きながら、日韓の間に入り架け橋となっていく仲間たちが厳しい環境に置かれていることに心が痛んだ。互いに歩み寄り理解していくことで生まれる新しい関係がここで閉ざされてしまったらと歯がゆい気持ちでいっぱいになった。日本には韓国語学習者が以前より増えている印象を受けるなか、韓国では関心がないような印象を受けるというまさに逆の現状を改めて突き付けられたような経験であった。

3. 観光からの学び

韓国といえば、首都であるソウルを知れば大体の韓国の姿をつかめると漠然に思っていた自分が恥ずかしくなった。釜山に行き、ソウルとは違う釜山ならではの韓国の姿を見たことで、歴史都市として有名な釜山はもちろんのこと、韓国と海外をつなぐ釜山の姿、そしてどこか懐かしさのあるような釜山の姿を感じることができた。また、朝鮮通信使の博物館へ訪問した際に、深くは知らなかったが、朝鮮通信使によって日韓の交流が盛んであった時代はかなり長い年月の間、平和で良好な関係であったことを知り、過去の歴史から交流のもつ力を改めて感じる時間となった。
ソウル、大邱、釜山において、夜の自由時間にはグループで遊びに行き、韓国人の学生に案内してもらい、韓国の学生と行動を共にすることで、より仲を深めることができたと思う。人間関係を築いていくためには、ある程度時間が必要であるとは思うが、短い時間でも濃い時間を共に過ごし、色々な話をしながら相手を知ることのできた時間となったと思う。日本とはまた少し違う友達との時間の過ごし方は新鮮で楽しむことができた。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムでは、時間の制約など難しい部分はあったと思うが、韓国をより知るためにも、韓国の歴史を知ることができる場所を何か所か訪れるべきだと思った。韓国に旅行で行く機会があったとしても、そのような場所にはなかなか旅行のコースから外れてしまいがちで行くことは少ないと思うためである。今回のような貴重なフォーラムの機会を活かして、普段赴くことのないようなスポットに行けると良いと感じた。
また、グループごとで話してみる時間をさらに設けるとより深い話ができると思う。今回釜山での自由時間では、より深い話がしたい人はカフェに集まろうということになり、自由時間の度に集まって話したが、話したい内容は絶えず、時間が足らなかった。そのため、数日間のフォーラムでかけがえのない学びや発見を得られたのにも関わらず、そこで終わってしまわないためにも、今後も交流を続けていこうという意味で、常に自身の考えを共有できるようなグループを作ることになった。このように何か次につなげていけるようなきっかけづくりが非常に大切であると感じた。そうすることで全体の意見交換の時間だけで終わらず、もっといろんな角度の話ができ、個人的な考えの意見交換ができると思うからだ。同世代の大学生と他愛のない話から、深い話まで色々な話ができ、日韓が共通で抱える問題を知ることができ、より互いの国、互いの社会についての理解が深まったように思える。
戦後 70 年という歴史的な年に、より良い日韓関係のために私ができることは何があるのか、何か少しでも自分の中で、日韓関係について新しい発見や変化を見いだすことのできる年にしたいと思っていた。今まで、日韓関係の改善を自分なりに心から願ってきたつも

りであったが、今回のフォーラムに参加し、私は日韓関係に対して悲観的な考えをもっていたことに気が付いた。それは同じように日韓の平和を願う学生たちの熱い思いや熱心な姿勢に触れることができたからである。

今回のフォーラムを通じて、今まで以上に日韓関係の改善を心から願うようになった。そして、同じように願う大学生との出会いから、その希望を見出すことができた。先に述べたように、自分自身の 2015 年の目標として日韓関係の改善のために何かできないかと考えていたにも関わらず、目に見えるような成果は得られなかったかもしれないが、フォーラムに参加し、韓国の大学生の仲間たちとの出会えたことは、今後の自分の大きな財産となったと言い切れる。そしてその出会いを心から幸せに思う。

今は悲観的に見られがちで、日韓がわかり合うことなんて無理なのではないかと見られてしまう日韓関係であるが、日韓両国がこれからの明るい未来を共にイメージすることができるような未来へと前進していけるよう貢献していきたいと強く思う。また、今回のフォーラムで得た学びを未来につなげていくためにも、口先だけでなく行動を起こしていかなければと強く決心する機会となった。３大学で出会った韓国人学生の仲間たちと今後も力を合わせて協力し、明るい日韓関係を築いていきたいと思う。

日韓学生国際フォーラムを通して

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

今回訪問した同徳女子大学・啓明大学・釜山外国語大学ではそれぞれ異なるテーマのもとでフォーラムが行われ、「韓国と日本の関係」を複数の側面から考えてきた。各フォーラムの中で共通して盛んに言われていたことは「相手の価値観を理解しよう」という言葉だった。その重要性は自分でも理解していたつもりだったが、韓国・日本の歴史観について私は実はよく知らないと気づいた。改めて考えると、政治に影響されない歴史教育を望み相手の歴史観を理解したいと思ったとしても、それぞれの国にとって歴史観をどのように構築するかは民族のアイデンティティに関わるため非常に政治的である。私の価値観にも多分に日本国政府の意図が反映されている。韓国においても少なからず政策の意図が人々の価値観にも影響しているはずである。今回のフォーラムを通して、その価値観を理解するとはどのようなことなのか、そして何よりもまず「私の価値観が何であるか」を考えたいと思った。

大戦以降、新たな世界構造に組み込まれた日本はアメリカへの従属的関係を経験しながらも大国のプレゼンスを望んできた。そのような日本の歴史教育は「非常に強烈な帝国主義国家であった大日本帝国の歴史」を覆い隠し、戦争の記憶を再構築しようとしている。日本の戦争の記憶から「悪」であった「加害者の歴史」を消去し「原爆と敗戦国である被害者の歴史」を過剰に強調することで日本のプレゼンスは「正当性」に守られ経済復興と成長が達成されてきた。その再構築の試みは特に戦後 50 年経った 1990 年代以降顕著に見られる。90 年代から阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件、景気後退など中央政府を揺らがす出来事が重なったことにより、「正当性」の確保のための過去の再構築事業が急激に展開した。実際に第二次世界大戦中の日本社会に対する私のイメージは「戦争へと強制的に導いた一部の軍国主義者たちとその犠牲になる日本国民」のみである。このイメージの中で日本国民の責任の大部分は免除されている。さらに、この「記憶ブーム」は日本に限られた事象ではなく、グローバル化社会の流動性にさらされた多くの民主主義先進国の社会で起こっているという主張もある（エヤル・ベンーアリ 2010）。アイデンティティ危機の中にある社会ではこの歴史観の再構築が政治的に容易に行われる可能性が高い。

私たちは今後の社会を生きてく上でそのような政治的意図が歴史教育にも反映されていることを十分考慮する必要がある。歴史問題が火種となる韓日関係においては、自分の歴史観への「戦後記憶の再構築」の影響を批判的に見ることが特に重要である。日本で戦時中の帝国主義であったこと、朝鮮半島・中国・台湾・太平洋諸島を植民地支配していたこと、加害者であることの記憶が薄れていることを認識した上で韓国の価値観を考えるべきだ。日帝統治時代の終焉以降、過去の解釈方法の再構築が韓国人にとっても不可欠であり一概に「韓国人だから」という結論で価値観の構築過程はまとめられない。民族主義運動に加えて、韓国人のディアスポラ化問題などがアイデンティティの拠り所を求めていることも考慮すると、一面的ではない韓国の価値観形成の過程が見えてくる。

韓国の友人が韓日問題について語る時、韓国での価値観を無視して日本を正当化しようとする自分はいないか。振り返ってみると私は「慰安婦問題について韓国人は日本に謝罪しろっていうけど、日本政府は実は何回も謝罪していたんだよ」と言って韓国の友人を納得させようとしていた。この考え方こそ日本の国家権力が意図する日本像ではないか。「韓国」は、日本社会が忘れたがっている「加害者の歴史」を明らかにしてくれる存在である

こと、韓国では対日関係の歴史が韓国社会の文脈で理解されており「語り」のルールがあることを知った上で、相手の話を聞く必要がある。韓日関係において歴史問題を扱う際には、問題の棚上げや相手の歴史観を間違いとして説得することは有効ではない。最も必要なことは自分の価値観を批判的に自省することであると今回のフォーラムを通して気づいた。今後も「私の知っている日本」をより批判的に見て、韓国の人や社会をさらに多面的に知っていきたい。

2. 韓国人学生との交流からの学び

今回の日程では韓国の学生との文化の違いを感じるには短すぎたが、短かったからこそ互いに配慮し温かい交流になった。おすすめの小説、韓国の民謡を教えてもらったことで韓国が以前よりも身近になった。日韓フォーラムが終了した今もその小説を読み、暇な時には한강수타령や태평가, 밀양아리랑などの民謡を日常的に聴くようになった。男子学生との交流から韓国の兵役についても聞くことができた点でまた韓国の知らない一面を考えることができた。

バディたちとの交流から感じた一番の韓日交流の問題を挙げるならば、言語の壁である。３大学のバディと話している際、日本語で会話している時と韓国語で会話している時では親近感が少し違うことを感じた。やはり初対面の他人同士であるため韓国人学生との間には緊張感が当然あるものだが、その距離感を縮める手段の一つは言語だと考える。私たちは全日程で日本語のみを使って会話し、バディの日本語力に依存していた。相手のバディたちは日本語での会話を問題なく行えたが、話せないことも多いのではないかと感じた。これまで何回か日本でも韓国でも韓日交流のサポートに関わってきたが日本学生が韓国学生の言語力に依存するケースばかりであった。この構造では日本の価値観の押し付けが容易に行われる可能性があるため非対称な関係性しか築くことができない。海外留学や旅行ならば英語でのコミュニケーションでノンネイティブ同士でもある程度目的は達成される。しかしこの韓日交流においては、未来のパートナーとなる関係を築くことである。そのための交流でありながら相手の母国語を使って感情を共有できない人間関係のままでは、今後の民間レベルでの韓日関係も新たな段階を迎えられないのではないか。今回の韓国人学生との交流を通して大多数の日本人学生が韓国に対して親近感をもったと思うので、今後も韓日交流を率先していくならば各個人が言語的な面における壁をさらに越えられるように努力することが望ましい。

3. 観光からの学び

観光者として韓国を見たため、韓国に留学していた時には見えていた部分が見えなくなり、また新しく見えた部分もあった。新しく発見した点の中でも、最も印象的だったことは地方都市を訪問できたことだ。韓国の４都市の観光から従来の「韓国＝大都市ソウル」といったイメージが変わった。大邱、慶州、釜山を訪れたことで韓国の都市開発や韓国の地方分権について調べてみたいと思うようになった。韓国ではソウルに権力が一極集中しているイメージをもっておりソウルと釜山以外の都市が相対的に見えにくくなっていたため、地方都市がどのような発展をしてきたのか知らなかった。今まで韓日関係の中での韓国の外交や安全保障のみに興味を持っていたが、特に釜山で海雲台を訪れたことで 1994 年に観光特区化された背景や釜山という都市の歴史に興味を持ったので、韓国国内の問題にも関心を持っていきたい。

4. フォーラムに対する総合的評価

従来の韓日交流とは違い、議論・観光・学生交流が含まれており内容が充実していたフォーラムであったため今回のフォーラムは、韓国に留学し親近感を持っていた私にとっても新たな発見の多いものになった。一つ気にかかった点は、参加した韓国人学生たちに日本の文脈で見た韓日関係を押し付けすぎている印象を受けたことである。韓国人学生側に日本の言語文化を学ぶ学生が多かったため、どうしても日本人学生が日本の価値観を披露して韓国人学生に同調させているのではないかと感じていた。私が韓国に留学していた時に、相手の国の言語文化を学ぶ中で、相手の価値観をそのまま受け入れ同化したいと思う傾向にあったためそのように感じた。互いに交流を深める場で批判的なことを言うことは難しく、その中で日本人が母国の社会について批判的に見ることはさらに難しいと思うので、韓日交流においては日本人学生が韓日関係の歴史について自分の価値観を批判的に見る作業を事前準備として行っても良いのではないかと感じた。例えば日本の歴史教育が正しいと思っているかどうか、日本の歴史教育で見えなくなっている部分はないのか問い直すことだけでも良いと思う。釜山で発表したような未来の韓日関係を実現するためにも今後ともこのフォーラムを定期的に行い、従来のような互いへの一面的な認識・自省のない韓日関係を脱却したい。

＜参考文献＞

関沢まゆみ編 2010 年 『戦争記憶論　忘却、変容そして継承』、昭和堂
浅羽祐樹 2015 年 『韓国化する日本、日本化する韓国』、講談社

韓国人学生の積極性から学んだこと

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

自分にとって、積極的に取り組むことが本当に楽しいという学びがあった。正直、事前準備不足だったこともあり、同徳女子大学で行った自身のグループ発表は韓国人学生に伝わっていない部分も多々あったと思う。私達なりに日韓相互のイメージや教育の現状について当たり障りの無い言葉を使って発表していこうと努力したが、受験のための教科書レベルの勉強が中心と発言したことから、自由討論の際に「日本人はみんな第二次世界大戦の頃の韓国についてほとんど勉強をしていないのか」と指摘され、発表が上手く伝わっていなかったことが浮き彫りとなり、非常に悔しかった。本心とは異なる、建前上のような当たり障りの無い言葉を使っていることが韓国人学生にも伝わってしまったのではないかと反省している。しかし、その後自由討論中に韓国人学生や日本人学生の思いをお互いさらけ出す場が持てたことが本当に嬉しかった。そのような場を作るきっかけになったのであれば、自身のグループ発表は有意義なものになったのではないかと思う。

私は韓国に行く前まで日韓関係について考える機会が無かったため、あまり積極的にこのフォーラムに参加できなかった。国際交流や国際情勢に関心のある他の参加者に比べ、自分には日韓関係に対する明確な意見も無かった。また、自身のグループの発表にも自信が持てず、不安でいっぱいだった。しかし、今回の発表のために準備を重ねる中で日韓関係に対し、改めて理解を深めるきっかけとなった。

また、現地の学生との討論を通して、立派な発表をすることももちろん大切だが、相手の意見を汲みながら、積極的に自分の思いを伝えていくことも大切なことであると実感した。自分の思いを自分の言葉で素直に伝えることで相手に響くものがあるのだなと感じ、楽しいと思えた。

韓国人学生の発表はとても積極性があり、楽しかった。日本語があまり得意でなくても一生懸命伝えよう、積極的に発表しようという気持ちが伝わり感動した。私もまたこのような機会があったら、韓国語を習得して拙いながらも全力で発表していきたいと心から思えた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

韓国人学生と交流し、日韓で友達同士の親密さが大きく異なっていると感じた。特に女子同士で、仲良くなると腕を組み歩くことにとても驚いた。私は韓国人学生と初めて腕を組んだときに躊躇したが、実際に腕を組んで歩いてみるとなんだか照れるような嬉しさがあった。物理的な距離が近いことにより、心の距離も縮まったように感じた。さらに、韓国人学生はカカオトークなどで常に会話していることも驚いた。日本人学生では友達同士でのＳＮＳを通した関わりはこれほど多くはないと思う。以上のことから、韓国人学生は友達や家族を日本人よりも常に大切に思っていることが分かった。

バディと交流する中で、日本人学生のことを気遣いながらも、自身の考え方を言葉や行動ではっきり示すことに驚く場面が多々あった。自由行動の時間に食事をしようとなった際に、日本人であったら何が食べたいかを基準に考えることが多いが、私のバディは自分にとって絶対に食べたくないものや嫌いなものを最初にはっきりと伝えていた。私はバディの意見を聞いたとき、正直私と一緒に食事をしたくないのかと思ってしまった。当初は不安だったが、だんだん話をしていくうちにお互い良い思いができるよう考えた上での行

動だということが分かり、安心した。バディの意見を聞いたとき自分の中でもやもやと考えて誤解をしてしまう前に、どうしてそのように思ったのかなどを早いうちから積極的に聞いていくことで誤解を防ぐことができると思った。この経験以降は、バディと交流する際に素直な気持ちではっきりと自分の意見を持って過ごすことができるようになったので、本当に良かった。

3. 観光からの学び

私は、観光で特にパゴダ公園、仏国寺、明洞・南浦洞、釜山の国連墓地が印象に残っている。パゴダ公園では日本の歴史教育では深く学ばないような韓国の独立宣言の様子を展示で見て、日本人にとって少し肩身が狭いような、普段私達が避けてしまいがちな観光地に行き、歴史に向き合うという貴重な経験ができた。仏国寺は建物が日本の伝統的家屋に非常に似ていて驚いた。さらに南無阿弥陀仏や大仏など私達が寺院に行くと見るようなものが多くあり、韓国の文化に対して親近感が湧いた。明洞や南浦洞は新宿や渋谷、原宿を混ぜたような賑やかさがあり、若者が多く集まり本当に日本に似ていると思った。以上のことから、改めて日本と文化が似ている国であることを実感した。

今回のフォーラムは日韓関係について考えることが多かったが、国連墓地を見学したことで世界における韓国の位置づけや韓国から見た朝鮮戦争について知ることができ、非常に有意義であった。日韓関係について考え、自分の意見をさらに深めると同時に、世界における韓国についても今後詳しく知りたいと思うきっかけになった。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムは良い意味でも悪い意味でも私達学生にとって、至れり尽くせりであったと思う。良かった点としては、韓国語をほとんど話すことができないために、個人旅行では回ることができないような大邱や慶州などの都市に行くことができたことが挙げられる。また、日本語がとても上手なバディだったため、言葉の壁を感じることが無く、雑談や意見交換を多くできたこともとても良かった。さらに、バスガイドさんの解説を聞くことができ、私達と異なる世代の韓国の方から見た日韓関係や韓国について知ることもできたことも良かった。お茶大の学生は日本にいるときよりも現地にいるときの方が明るく、素を出している印象であり、一緒に過ごしている中でとても楽しかった。

改善すべき点は至れり尽くせりでありすぎたために、現地の大衆文化や生活を体感する機会が少なかったことである。バディとの自由時間で現地の大学生の生活を垣間見ることができたが、基本的にバス移動が多く、移動中にぼんやりする時間が多かったように感じた。食事も伝統的な韓国料理を食べる機会が多かったが、辛さが抑えられていたため本場の辛さを知ることができず、物足りなく感じた。少し辛い思いをしてでも韓国大衆文化や生活を体感すべきなのではと考える。

また、事前準備が不足していたことも改善点として挙げられる。事前準備にかける時間が短すぎたために、自分のグループの発表の完成度が低かった。授業時間以外でも積極的に集まり準備をしていたが、自身の発表に関わることしか調べることができなかった。自身が発表する日韓関係の過去だけでなく、発表に直接関係の無い日韓関係の現状や未来についてもグループでしっかり調べて共有すべきであった。同時に、他の班の発表内容を事前に深く知ることができていれば、さらに内容の濃い討論ができたのではないか。現地での発表後の自由討論の時間でようやく、お茶大の他の班の学生の意見を初めて知る場面が多かった。このことから、発表内容だけに限らずお茶大の学生のみでも事前に日韓関係について積極的に討論し、それぞれの考えを共有しながらお茶大の学生同士でも理解を深めるべきであったように思われた。

日韓フォーラムを通じて学んだこと

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

今回のフォーラムを通じて、韓国は歴史的にとても関わりの深い国であるということに、改めて気がつくことが出来た。また、歴史的事実をしっかりと認識し、その認識があるうえで、現在・未来の問題を考えることの重要性も感じた。

私は、日本の伝統文化紹介というテーマで、初めは神道について紹介しようと考えていた。しかし準備をしていく中で、神道が韓国で政治利用（神道強制など）されていたことを知り、軽い気持ちで紹介するものでは無いということに気がついた。実際神道は特に厳しい戒律も無く、個人的には日本独自の面白い思想（政治利用されている点をのぞけば）であると思っていただけに、そのような悲しい歴史があったことを知り驚き、とても残念に思った。これを初めとして、今回のフォーラムでは、自分がいかに日韓の歴史的関係について知らなかったのかということに何度も気がつかされた。

日本で暮らしていて、戦争が悪いことであるという認識はテレビ番組や道徳の時間などから得ることができる。しかし、戦争による日本人の被害や苦労話がほとんどで、日本も他の国に対して酷いことをしたことがあるというような情報を得る機会は少ないように感じる。わたしは歴史についてしっかりと学んだことが無かったせいか、戦争の話になるとどうしても「日本はたくさんの被害を受けてきた」といった被害者意識を先に抱いてしまっていたが、実際日本も他国に酷いことをしてきた歴史があることを忘れてはいけないと、今回のフォーラムで思うようになった。韓国の友人と戦争の話をしていて、「沖縄も昔日本に占領されてしまったんだよね？」と聞かれた時、とても身近なだけにすっかり忘れていたことを他国の人から思い出させられ驚いたのと同時に、改めて戦争において加害者でもあった日本の存在に気がつかされた。日本は戦時中に韓国へ酷いことをしてきた。この認識は、このフォーラムに参加する前から持っていた。しかし、実際に韓国へ行って色々な話を聞く機会に出会い、自分は何も理解出来ていなかったうえに、ちゃんと理解しようともしていなかったことに気がついた。パゴダ公園へ行った時に、日本兵が韓国人に対してしてきた酷いことが描かれている壁画を見た。文章だけで無く、絵と一緒に描かれているものを見て、初めて心から申し訳ないという気持ちが自然と生まれた。戦争中はどこの国も、お互いに酷いことをしてきたのだろうと思い、実際にあった出来事を直視することをなんとなく避けていた自分の存在にも気がつかされ、深く反省した。過去のことだからといってないがしろにするのでは無く、未来を考えるためにも、お互い一緒に過去を振り返り反省するという段階が、とても大切なことのなのではないかと感じた。

今回同徳女子大学で学生同士と議論をした時に、靖国問題の話題が持ち上がった。その時に、宗教観の違いから鎮魂という概念が理解されづらいこと、戦犯を神格化しているといった誤解があることなどを知り、お互いに正しい情報を得たうえで理解し合う必要性を強く感じた。このような理解の違いは、メディアの偏った情報の伝達や歴史教育の違いなどから生まれるのではないだろうか。韓国の学生達と話して、お互いの国民がメディアの偏った情報に踊らされ、政治に利用されているような印象も受けた。このような環境の中にいると、お互いの国との関わりが無い人は誤解を抱きやすい。実際私の家族も韓国に対してあまり良い印象を持っていなかったが、私が今回のフォーラムで素晴らしい体験が出来た事、親切で素敵な人達とたくさん出会えたことを伝えてからは、韓国に対する印象が良い方向へ変わったと言っていた。このことを通じて、まずは偏った情報に左右されずに

自分の目で見たもの体験したことを大切にし、自分の感じた韓国に対する印象を周りの人々にも伝えていくといった簡単な行動が、とても重要であることに気がついた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

今回の交流を通じて、韓国人の親切心やおもてなしの心、とても友好的な面を知る事が出来た。大人数で行動する時は、はぐれないように日本人を誘導してくれたり、足下を気遣ってくれたりなど、どこの学生も色々と細かい所にまで気を配ってくれた。女の子同士では、腕を組むことは自然なことで、初対面の私にも同じように接してくれた。初めは驚いたが、おかげで一度もはぐれることなく済んだ。研修の後半では自分からも腕を組むようになった程、韓国人の人との距離の近さに慣れ親しむことが出来た。また、みんなで同じ物を分けて食べるという韓国の文化も、この 10 日間で経験出来た。みんなでシェア出来るような料理がたくさんあり、お酒もみんなで分けて飲むという韓国の文化は、やはり人との距離が近くて良いものだなと感じた。年代も同じせいか会話の話題などもお互いに似ていて、文化の壁を感じることは意外にも無かった。今回出会った人たちは本当に良い人達ばかりだったと日本に帰って来てからも改めて思う。これからもこの出会いを大事にして、仲良くしていきたいと思う。

3. 観光からの学び

今回色々な観光地を回る中で、伝統文化や自然の景色において日本と似ている点が多いことに気づき親近感を持った。ソウルの町並みは東京の渋谷・原宿に似ていて、バディの付き添いもあり、韓国の若者の中で流行っていることなど多くのことを知ることが出来た。キョンボックンに行き、交代儀式や昔のオンドルを見られたことも面白かった。韓国にも古墳があることを知らなかったので、日本の古墳と同じようなものを大邱で見た時には驚いた。釜山は日本に近い港町であるせいか、たくさんの共通点を感じることが出来た。韓国で美味しいお刺身を食べられるとは思っていなかったし、味噌をつけて食べる文化も面白いと思った。映画の殿堂や新世界センタムシティ、ロッテ百貨店などの、規模の大きいものがある一方、小さい個人経営の店も残っている町並みも見られた。今回色々な所を回って一番印象に残った日本との相違点は、屋台の多さだ。日本ではお祭りなどの行事がある時にしか見かけられないが、韓国ではいつでもどこに行っても屋台が見かけられ驚いた。また、店員とお客の距離の近さなど、ここでも人との距離の短さを感じることが出来た。授業だけでは無く観光も出来たことにより、韓国の地元に住んでいる一般の人達にも接することができ、ありのままの韓国の姿を見ることが出来た。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムは本当に素晴らしいものだった。韓国へ行く初めての機会が、このフォーラムで本当に良かったと思う。ただ、いたれりつくせりの旅だったせいか、受動的な点も多くなってしまった。発表以外にも、自分達で観光の目的や予定を考える時間を取ることが出来たら、さらに実りのあるフォーラムになったと思う。

この先何十年につながる 10 日間

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

訪問第１校目の同徳女子大学（ソウル）では、「これまで日韓の友好関係を築く上で障害となったもの」について３グループから発表が行われました。

１グループ目は教育、２グループ目は先入観、そして３グループ目は外交について。どのグループにも共通していたのは、「相手国の意見を聞いていないために関係改善が遅れている」ということでした。戦争中の慰安婦問題（私個人は強制された慰安婦もいたと考えているので、「いわゆる」は不適切と感じます）も現在の領土を始めとする政治関係の問題も、お互いが「相手国は何が不満で何を求めているか」を理解することで解決が早まるのではないか、という発表でした。特に１・２グループ目は、教科書や報道は政治の影響を受けているため、日韓関係に無知無関心な人はステレオタイプなイメージを相手国にもってしまう、つまり「韓国」という国のイメージを「韓国人」という個人にも当てはめてしまっているという結論をあげていました。

訪問第２校目の啓明大学（テグ）では、「自国の文化」についてお茶の水女子大学から２グループ、啓明大学から２グループの発表がありました。

お茶の水女子大学の１グループ目は衣食住についての発表で、衣は着物、食は季節の料理（おせち料理）、住は現代の住居を取り上げました。２グループ目は私の所属班で、「日本人らしさ」を扱いました。１グループ目の衣では、ひとくちに「着物」と言ってもＴＰＯによって数種類を着分けることをそれぞれ写真付きで伝えており、見た目にも分かり易く印象深い発表となっていたように感じます。

啓明大学からは伝統音楽についてと伝統舞踊についての発表がありました。韓国の音楽というとリズミカルなＫ－ＰＯＰしか思い浮かばなかった私にとって、伝統音楽、特に一般市民により作り上げられた「アリラン」のどこか物寂しい雰囲気は衝撃的でした。地方によって様々にアレンジされていますが、あまりに耳に残りやすい曲調で、発表の２日後でもほとんどのお茶の水女子大学生が歌えたほどです。YouTube に多く動画が投稿されているので、ぜひ多くの人に視聴をおすすめします。また、伝統的な仮面舞踊の「グッタルノリ」は当時の社会の様子を現代に伝える役割もあり、その内容は堕落した僧侶や貴族への批判が多いようです。堂々と支配階級を批判する当時の韓国の人々の度胸や、鬱憤のたまり具合がとても伝わってきました。

訪問第３校目の釜山外国語大学（プサン）では、「日韓関係のこれから」についてお茶の水女子大学から２グループ、釜山外国語大学から２グループの発表がありました。

お茶の水女子大学の１グループ目は既存の「都市間交流」の促進を提案しました。なぜ都市間交流なのか、という理由が明確で、かつ相手国へ関心のない層の取り込みも実現できそうな良い提案だと感じました。とくに中高生を学生記者に任命し、自分の街と共通点のある相手国の街について発表したはどうか、というアイデアは次代を担う若者が中心でありながら現代を担う中壮年層の興味もひくことができそうな、魅力的なものではないでしょうか。２グループ目は日韓共同音楽フェスティバル開催を提案しました。過去に日韓W杯は開催されましたが、これは悪い意味でナショナリズムを強める可能性もあり、勝ち負けがつくという問題がありました。しかし提案された音楽フェスティバルなら、勝負事ではない上に、音楽ステージを中心に両国のお酒や食事の屋台をだしたり、近くに参加者交流ブースを設けたりと音楽プラスアルファの文化交流が期待できそうです。

釜山外国語大学からは貿易から見たこれからの日韓経済協力についてと、若者による民間交流についての発表が行われました。民間交流の案のひとつにペンパルが挙げられており、興味をひかれました。ペンパル制度は、たとえ顔が見えなくとも自分の言葉で一対一の交流をする、国の方針に影響を受けずに理解しあう良い方法だと感じました。

2. 韓国人学生との交流からの学び

とにかく驚いたのは、韓国人は年齢、さらに同年齢の場合は誕生日までも重視するということです。自由行動中、私のバディと他の韓国人学生のあわせて２人が、談笑していたかと思えば急に肩を叩いて爆笑したので「どんな面白い冗談を言ったのだろう？」と不思議でした。すぐに質問してみると、「僕たちは年齢の上下を勘違いしてた。年上だと思って先輩、と呼んでいたら僕の方が年上だったんだ！年は同じなんだけど、僕の方が３ヶ月先輩！」と教えてくれました。その後食事の時も年下と発覚した学生がお水を注ぎ、年上と発覚した学生はそれを当然の行為として受け取っており、韓国における上下関係の厳しさを目撃しました。

3. 観光からの学び

ほとんどのお店で、店員さんにまず韓国語、次に中国語、最後に英語で話しかけられました。街中に日本語の案内が多いのに、日本語で話しかけられることは少なく不思議な印象を受けました。偶然だったのかもしれませんが、韓国では日本人観光客はメインの顧客ではないのかな、と思いました。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムの一番良かった点は、各大学で一対一のバディがついたことだと考えます。いつでも横にバディがいたから、発表をききながらちょっとした疑問をすぐにたずねたり、自分の個人的な意見を伝えることを気軽に行えました。観光の時も同様で、いつでも横にバディがいるから服の話や化粧品の話など、年齢相応の会話も楽しむことができました。

改善すべき点は、参加者の意識のばらつきと発表準備の不足です。参加者全員が最初から日韓関係に強い関心をもっていたのではないため、２ヶ月という期間は、意識を高め、発表の準備をするには短すぎたのではないでしょうか。しかし意識のばらつきは、言い方を変えれば「日韓関係に無関心な日本人」にちかい（メディアの影響を受けた）意見を韓国の学生に伝える良い機会につながったとも言えます。

総合して、私は今回のフォーラムに参加できたことをとても喜ばしく思っています。初めて同年代の韓国人と交流したのがこのような実りある機会であったことは、アジアの仲間たちと今後協働していく上で、必ずプラスとなると確信しています。

年が明けて 2016 年になり、すでに３人の韓国の友人と日本で再会を果たしました。来月以降もさらに２人と会う予定です。これから先何十年も、今回の 10 日間のフォーラムで得た縁を絶やさずにいくつもりです。

分かり合うことの大切さ

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私の所属するソウルＢグループは、同徳女子大学で「日韓の越えるべき壁～日韓関係へのイメージから～」というテーマで発表を行った。我々のグループが問題意識として提示したことは、「日本人は日韓における歴史認識が浅く、韓国の人々の考え方や生活習慣を知らない結果、日本に対する政治的な発言を否定的に受け取り、メディアの情報に受け身となり、流されてしまう」ということであった。人々が学んできた環境によっても異なるが、実際、私がこれまで学んできた歴史教育は暗記することに重心が置かれ、なぜそういうことが起こったのかと考察することは後回しになっていた。グループの発表の後の質疑応答の中においても、同徳女子大学の学生から日本の歴史教育の在り方に対する質問があったが、今回のフォーラムのようになぜ今、日韓関係がうまくいかないのか意見を出し合い、それを知り、理解することは本当に重要なことだと感じた。

同徳女子大学のフォーラムでは、質疑応答の中での靖国神社参拝に対する質問が強く印象に残っている。その質問は「なぜ日本人は、戦争に関わった悪い人々を祀る神社に行くのか」という趣旨の質問であった。日本においては靖国神社参拝について、特に首相の参拝となると賛否両論があるが、一般人の参拝の場合、「戦争で犠牲になった人（家族）が、靖国神社に眠っているから参拝に行く」という人が少なからずいるということを、日本人は認識している。しかしそのような面を韓国の人々にはあまり知られていないということを今回のフォーラムにおいて、私自身初めて知った。このようなお互いの国に対して知っているつもり、分かってくれているつもり、ということがいたる所にあるのではないかと今回のフォーラムを通して痛感した。相手国を詳しく知らず、メディア等の情報に触れているだけでは、お互いのことを本当にわかり合うことはできない。今回のフォーラムに参加したことで、メディアの日韓に対する報道を見ても本当にそうなのか、その問題に対する極論を切り取って報道しているだけなのではないのか、とその内容を素直に受け取らないようになった。日韓両国の国家レベルの話になると、解決することが中々難しい問題もあるが、お互いの国に対する認識の違い、齟齬を改めることは可能であると今回のフォーラムを通して感じた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

以前韓国へ行った時にも感じたことだが、韓国では人と人との距離が日本と比べ近い。日本では街中で女子の友達同士、腕を組んで歩いたりするのは恥ずかしいという思いがあり、躊躇しがちだが、韓国では特に女子大学と言うこともあり、同徳女子大学のバディたちと腕を組みながら行動をすることが頻繁にあった。始めのうちは戸惑いを感じながらも、韓国での日々を送っていく中で、韓国スタイルに馴染み、日本の学生の方から、バディの腕に自分の腕を回すことが多くなっていった。バディがいない場面での行動でも、日本人同士で腕を組んで街中を歩くことも増えていき、「こうして歩くのが普通になったね」と日本の学生同士の会話の中でもよく出るようになった。韓国では、コミュニケーションにおいて、打ち解けるのにかかる時間が短いと感じることが多々あったが、人と人との距離の近さが少なからず関係しているのではないだろうか。

また、今回の日韓フォーラムでは、共学の大学である慶明大学と釜山外国語大学のバディたちから、軍隊の話を聞く機会が何度もあった。日本にはもちろん徴兵制はないため、

何気ない会話の中に「軍隊」というワードが出てくることに対し、初めは若干の驚きを覚えた。これから軍隊へ行く人には、どんな心境なのかを聞き、既に兵役を終え、復学した学生には、軍隊での生活がどのようなものだったのかを聞いた。これから入隊する学生は、軍隊へ行くことに対する不安を語っており、また兵役を終えた学生の中には、「死ぬかもしれないと思った」、「軍隊は辛かったけれど、人間そんな簡単に死ぬものではないと思った」、「兵役があったことで、親に感謝の気持ちが芽生えた」と語っていた人がおり、印象に残っている。韓国に徴兵制があるということ自体は知っていたが、実際にこれから兵役に行く人、兵役を終えた人の話は、聞いたことがなかった。今回、韓国の男子学生たちと交流し、兵役に対する「不安」や「辛い」、「大変」など様々な感情を実際に聞けたことは、日本と韓国における違いをただの文字や概念として認識していた今までとは違い、違いについて知り、理解することに繋がった。今回のフォーラムにおける韓国の学生との交流で特に印象的だったのが、この「軍隊」の話であったが、日本と韓国、両国における違いをただ単に「違う」という言葉で片づけるのではなく、今回のフォーラムでの経験のように、実際に交流し相手の国についてその国の人から聞き、理解することがどれほど大切なのか実感した。

3. 観光からの学び

パゴダ公園、国連墓地へ行くことができたこと、そしてガイドの韓国人の金さんから様々な話が聞けたことは、今回のフォーラムの中でも貴重な時間の一つであった。パゴダ公園も国連墓地も今回のフォーラムのような日韓問題に向き合う機会の無いただの旅行では、絶対行かない場所である。そして、ガイドの金さんがそういった場所について我々日本人に説明することに対し、始めはためらいを感じながらも我々が今回韓国へ来た目的について理解を示し、上記の２か所を案内してくれたこと、そして離散家族の問題など、金さんの身内の話などを我々日本人に話してくれたことは、とてもありがたいことであった。

「百聞は一見に如かず」という言葉があるが、韓国での経験はまさにこの言葉を実感させられた。日本で本を読み、ニュースを見たりや新聞を読めば、その問題に対して分かったつもりにはなるが、本当に理解しているとはいえない。日本で見聞きしたことは、やはり日本の立場から書かれたことなのだと韓国での滞在を通じて改めて感じた。パゴダ公園へ行き、そこにある石碑に描かれた当時の様子をこの目で見られたこと、その石碑に刻まれた言葉を通訳してもらい、聞けたこと、そして国連墓地へ行き、朝鮮戦争で犠牲になられた方がどれほどいたのかをこの目で確認することができたことは、貴重な経験となった。歴史の教科書でただ文として、「何年に何が起こった」というのを暗記するのではなく、この目で見て学ぶということの大切さを感じた。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムは、お茶の水女子大学の３学部（文教育学部、理学部、生活科学部）の学生が参加し、私自身もそうだが国際関係を学んでいる学生以外も多く参加した。国際問題を学んでいないからこそ、日韓関係に対する感覚は日本人の一般的なそれと共通している。今回、様々な専攻の学生が参加したからこそ様々な意見が生まれ、フォーラム自体が充実したものになったのではないだろうか。また、女子大学の同徳女子大学、キリスト教系の慶明大学、外国語大学の釜山外国語大学と韓国の３つの大学に赴き、雰囲気も大学によって少しずつ違う、多くの学生たちとフォーラムの期間中に交流できたことは、本当に貴重な経験であった。また、上記でも触れているが、普通の旅行では行けないパゴダ公園や国連墓地に行けたことも忘れられない経験となった。

今回はフォーラムの準備期間から韓国への出発までが短く、フォーラムの段取り等を先

生方に全てお任せしてしまっていた。自分自身の今回の反省点としては、フォーラムの内容に関して、あらゆる面で受け身になってしまったことだ。今後、今回のようなフォーラムが開かれるのであれば、学生主体で一部分でも運営するような形態にしてみてはどうだろうか。また今回のフォーラムは、それぞれの大学の学生が個々に発表をする形式であったが、もし時間が長くとれるようであれば、日韓両国の学生が共同で発表することもできれば、よりフォーラムが充実したものになるのではないだろうか。

韓国の訪問での学び

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私たちのグループは、日韓交流を阻んでいたものを日韓のイメージから考察を行った。交流を阻むものは、日本人、韓国人が互いに、互いの国に対し、あまり良くない歴史的、政治的イメージをもっているためであり、今あるイメージを見直すきっかけを与える、そして両国の関係を改善し、発展させる原動力になるものとして、特に互いの文化を理解することが重要であると考えた。しかし、３大学でのフォーラムを通し、自分たちの考えがいかに狭い視野にあったかということを身に染みて感じた。

日韓関係は３大学、本学の発表でもあったように、相互に影響しあいながら、過去から現在に至る。確かに、相互に影響しあっているが、日韓どちらの国、国民が全く同じアイデンティティーをもっているわけではなく、それぞれが自分自身のアイデンティティーを確立しているのである。それゆえ、文化を理解するといっても、自分の国の文化を基準にして、比較しながらある国の文化を理解しようという姿勢ではなく、自分がまだ出会ったことがない、知らなった新しいものとして他国の伝統や大衆文化、地域言語、ステレオタイプなど広い範囲の文化を積極的に吸収していこうとする姿勢が大切なのではないかということを学んだ。この行動が、自然と相互理解に繋がるだろうと考える。このような行動に至るためには、３大学のフォーラムでもあったように互いの国において、たくさんの人が関心をもつような民間・地域レベルの文化交流を考え、実施していくべきで、これからのより良い日韓関係を構築するには重要な鍵になるだろうと感じた。民間・地域レベルの行動が進んでいくうちに、地域内の共生の実現に向けＥＵのような共同体などが確立することを期待したい。また、私自身、韓国の情報は週刊誌やインターネットやテレビなどの偏った情報に惑わされた部分もあることが今回の発表でわかった。

韓国に実際にいかなければこのような学びはできなかったので、今回韓国へ行き、３大学のフォーラムに参加できたことは、私にとって多くの学びとなった。

2. 韓国人学生との交流からの学び

韓国人学生とは、長い時間一緒に過ごすことができたので、想像以上の学びや新たな発見をすることができた。特に今回の交流で大きな違いを感じた点は三点ある。

一点目として、韓国人学生は日本人学生に比べ、何か気づいたことや疑問があると遠慮せずに、相手に問いを投げかけるように感じた。最初にあった時から、バディは年齢や大学の専攻、恋愛事情、家族や友人のことなどプライベートな質問をしてきたので、正直なところ、日本人のように少し遠慮しながら質問をする環境に慣れていたこともあって韓国人学生の積極性には驚きを感じた。しかし、韓国滞在中にたくさんの韓国人学生と触れ合ううちにこのような行動は、私たち日本人が他人を気づかって行動することと同じように、一般的な習慣であることを理解できた。確かに、韓国人の積極性が失礼にあたる部分もあるかもしれないが、建前ではなく本音で私たちと対等に向き合おうとする姿勢は、日本人も少なからず見習うべきことがあるのではないかということを学んだ。

二つ目として、一点目に少し類似する部分があるが、どんなに小さなことでも、そのことをよく考え、自分の意見をしっかりともっているという点だ。フォーラムでも、韓国人学生は、質疑応答の時間がもっとあってもいいのではないかと言うぐらいに質問が飛び交っていたこと、また発表中にバディが私に、「自分はこのことに対し、こういう意見をもっ

ている。」というように話してくれることが多くあった。どんなに小さいことでも、自分の中で納得がいくまで考え、自分の意見を強く持つという姿勢は、自分自身にも欠けていたことでもあったので、韓国滞在中にどんなことに対しても、自分なりの考えを持ち、韓国人学生、そしてお茶大の学生と議論しようと奮い立たせてくれ、四日目ごろからそれを心掛けて行動することができるようになった。

三点目に、韓国人学生は、日本人学生に比べ、過去から現在における自国の政治や歴史についてよく知っている点は非常に印象的であった。もちろん、試験のために勉強する日本の教育と異なり、理屈や理論を考えることができる韓国の教育方法や、両国の教科書の中身が異なっているということも考えられるが、私が今回関わった韓国人学生は教育だけではなく、ニュースやインターネット、さらに書籍といったように自分から自国について学ぶという行為をしているように感じた。韓国人学生に日本の文化や礼儀、政治などについて質問されても、明確に答えることができなかった自分に恥ずかしさを覚え、韓国人学生のように、受け身の姿勢だけではなく、自分も知らないこと、逆に曖昧なことがあれば、納得のいくまで調べて、自分なりに吸収していかなければならないということを考えるきっかけになった。

ここには書ききれないことがまだあるが、トイレの習慣（トイレットペーパーは水に流してはいけない)、韓国人は辛いものを当たり前に食べる、挨拶の種類が日本ほど分けられていない（おはようございます、こんばんは、こんにちはなど）など日本とは異なる文化がたくさんあり、新たな発見になった。

3. 観光からの学び

ソウル、大邱、慶州、釜山それぞれの訪問を通し、楽しみとしての観光という意味だけではなく、私たちが知らない、あるいは忘れかけていた文化や歴史などに触れるということができ、十日間が充実したものになった。

国連墓地では、今まで感じることのできなかったような朝鮮戦争の悲惨さを思い知った。朝鮮特需によって、日本は景気が徐々によくなっていったということを歴史で学んだが、それだけではなく、たくさんの国の人々が朝鮮戦争で犠牲になったことによって今の私たちがあるということを感じた。平和、共生というのは言葉で表現するのは簡単なことであるが、私たちの世代がしっかりと平和、共生というものの意味を考え、二度と戦争を起こしてはならないということを伝えていかなければならないということ考えた。

また朝鮮通信使に関わる資料や、土器や石器、馬具や墓など教科書で見たようなものを実際に目にすることができたことは非常に印象的で、自分自身が忘れかけた、受験だけに使っていた知識を思い浮かべることができ、実際にそのものを見るという大切さを改めて実感することできた。三・一独立運動に関係の深いタプコル公園といった、歴史を忘れさせないような公園などが身近にあることは自国の歴史を知るという意味で重要なことであり、何人かの韓国人の方も私たちと同様に記念碑や銅版を見ていたことは今でも忘れられない。

さらにいくつかの寺などを見て気が付いたこととして、韓国の寺は、日本の寺に比べて、朱や緑、赤など目を引くような色を基調とし、色とりどりの花や龍などの模様や装飾品もたくさんあるように感じた。

最後に、実際にその地にいって、自分の目で見て確かめることの重要さというものを発見できたことは、今回の観光の中でも、大きな収穫になった。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回の韓国への訪問は、自国とは違う国に身を置くということで、学びや発見が多くあり、とても貴重な経験となった。

良かった点としては、観光を通して歴史や文化を考えることが出来た点、同じ世代の韓国人学生と政治や歴史、プライベートな話といった幅広いことを議論することが出来た点、バディと長い時間過ごせた点などたくさんある。韓国に行く前は、週刊誌やニュース、新聞などで韓国に対し、良いイメージはもっていなかったが、韓国人と接していくうちに、彼、彼女らは、自分の国をより理解していて、私たち以上にこれからの日韓関係について考えているように感じ、メディアなどに流されていたためか、国が違えば何もかも異なっていると勝手に考えていた自分に対し、反省するきっかけになった。また、実際に現地にいくこと、自分の足で一歩外に踏み出してみることの大切さを学ぶことができた。過去はもう変えることはできないが、過去を踏まえ今自分たちになにができるのか、相互理解をする上で重要なことを考えるヒントを得る機会として非常に有意義な時間を過ごすことができたと考えている。

改善すべき点としては、韓国に対する事前学習がもう少し出来ればよかったのではないかと感じた。他学科の方に比べても、個人的に韓国に関する知識（慰安婦問題や領土問題など）があまりないまま韓国に訪問してしまったので、授業だけではなく、自分でも韓国について学ぶ必要があったのではないかと思う。また韓国に関わる授業についても、積極的に履修するべきであったと反省している。さらに、今回は日本語学科の韓国人学生ということで、大部分は日本語を使って話をしていたが、韓国語での発表や韓国語で話すということを心がけていくことによって、韓国人学生ともう少し距離を縮めることができたのではないかと考える。個人的には、自国について、知らないこと、忘れていることを思い出し、知識を習得していく必要もある。

今回の韓国訪問は、もちろん反省はあったが、本当に意味のある訪問になった。実際に韓国に行かなければ、発見、学ぶことができなかったことも多くあったと感じているので、このような機会を与えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいだ。今回得たことをこれからも忘れず、今後は私が日韓の架け橋となれるような存在になり、日韓関係のこれからを築いていきたいと強く思う。

日韓フォーラムを終えて

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

同徳女子大学では、「これまで日韓交流を阻んできたもの」として日韓関係の過去を振り返りました。日本側の発表では、「歴史教育」「日韓関係のイメージ」「外交問題」の３つのテーマから日韓関係の壁となっているものを討論し、歴史問題、慰安婦問題、領土問題など、日韓の間でかなりセンシティブな問題になっていることを扱いました。特に討論が白熱したのは靖国問題で、韓国人は、靖国神社に参拝する人は皆Ａ級戦犯をあがめに行っているというイメージを持っていることを初めて知りました。日本側が決してそうではないということを伝えると、韓国人学生は、日本の歴史的背景を知らないのでメディアからの報道や韓国の教育だけでずっとそう思っていたと話していました。このことで、日韓両国のメディアが偏向報道をしていることを痛感しました。同時に、いくら「こちらの言い分はわかっているだろう」「こちらの歴史的背景を理解してくれるだろう」と思っていても、このように腹を割って話し合う場を作らなければ、決してすれ違いはなくならないと感じました。

啓明大学では、「互いの文化を学び、理解しあう」として、韓国の伝統文化と日本の伝統文化・国民性を発表しました。韓国の伝統音楽であるパンノリやアリランの演技・演奏の映像を見て、その中に表れている韓国人の民族的感情である「恨」について学びました。「恨」は単なる恨みや辛みだけでなく、無念さや悲哀や無常観を表す概念で、日本人の「もののあはれ」に似ているそうです。パンノリの代表的演目『春香伝』やアリランの歌詞からも、韓国人と日本人に共通する人生観を学ぶことが出来ました。私たちのグループの発表では、日本人の国民性のルーツを風土や文化の観点から紹介しました。ステレオタイプ的な日韓両国の国民性の発表でしたが、韓国人学生からも日本人学生からも「あるある」「わかる」と言ってもらえたのが嬉しかったです。同時に、現在では変わってきている性格や文化もあり、日韓の国民の多様性も発見できました。

釜山外国語大学では、「日韓関係の未来を考える」として、日韓の共生に向けた都市間交流、音楽フェス、経済、民間交流などのテーマで発表が行われました。各チームの発表で共通していたのは、政府間のやり取りよりも民間の草の根交流で日韓関係の改善をめざしていくという姿勢でした。いずれ両国を担う人材である大学生や高校生が日韓交流を進めて行けば、日韓関係の将来はきっと明るくなるだろうと感じ、このようなフォーラムで日韓の若者同士が意見を交換し合うことによって、無知と無関心をなくし隣国をより身近に感じることが出来るようになるのではないかと思いました。

2. 韓国人学生との交流からの学び

私は最初、韓国人は気が強く自分の意見をはっきり言う性格だから、日本人は流されないように気を付けなければならないというイメージを持って訪韓しました。確かに性格については、自分の意見をしっかり言うため最初は少し怖いと思いました。また、日本人独特の「空気を読んで行動する」という概念が通じず、なんでも口に出して言うバディの性格にとても驚きました。しかしバディと一緒に行動し話す中で、自分の意見をはっきり言うのは決してこちらを軽視しているわけではなく、誤解を招くことを避けるからこその積極的な行動なのだと気づかされました。そのことに気づいてからは、情に厚い韓国人の性格が好きになりました。幸いにも私はとても親切なバディたちに恵まれ、韓国人を深く理

解するきっかけをいただきましたが、韓国人に勝手な偏見を持っている日本人も多いと思います。それはすごく勿体ないことだと思うので、ぜひ韓国に行って韓国人と交流してみてほしいと思います。

3. 観光からの学び

ソウルでは景福宮・ＭＢＣワールド・タプコル公園を訪れました。景福宮はソウルの街中にあるのに敷地が広大で驚きました。また、宮殿へ通じる石畳がボコボコになっていて足元をよく見て歩かないと転びそうだったのですが、これは足元を悪くすることで頭を下げて歩かせることで王様への敬意を示すためだそうです。

啓明大学はキャンパスが広く綺麗で、特にチャペルが綺麗でした。また私たちのために特別にパイプオルガンの演奏もしていただき、おもてなしの心を深く感じて、心がとても温かくなりました。

慶州では新羅時代の古墳を見学し、博物館に行きました。新羅時代の王朝が攻められたときに、大切な物品を投げ込んだという池から発見された数々の品物を見ることが出来て感慨深い体験でした。その後、世界遺産の石窟庵・仏国寺に行き、古代の建築技術のすばらしさに魅了されました。

25 日～28 日は釜山で釜山外国語大学の学生と交流しました。釜山は日本に一番近い場所でもあるので、どことなく日本に近い雰囲気を感じました。釜山では体調を崩してしまい、観光がほとんどできなかったことが心残りです。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回の研修では、日韓関係の過去・現在・未来について現地の大学生と話し合いました。日本人と韓国人の間にある歴史認識に関する見解の違いを、メディアを通してではなく同年代の学生から聞けたのが一番の収穫でした。

当初わたしは韓国という国が好きではなく、今回の研修も不安しかなく、こんな人間が行ってもいいのかと悩みながら参加しました。しかし実際に韓国を訪れてみて、バディと率直に日韓関係について話したり、学生生活のことを話したりする中で、日本人と韓国人の間に感じていた隔たりがだんだんなくなっていくのを感じました。それは、住む国は違っても、人間の根本的な性格は変わらないことを実感したからです。異なるものに触れたとき、自己との間で常に葛藤し、対話することを諦めないことが、他者を理解するうえで本質的に大事な要素ではないかと思います。逆説的なようではありますが、葛藤と対話という構図を持ち続けることで、罵り合いではない、建設的な提案ができるのはないかと思いました。

0を100にする交流のありかた

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

韓国についてほとんど学んでこなかったのですが、今回のフォーラムへの参加を機に、３学期のテレビ会議の授業を受講しました。釜山外大とのテレビ会議を通して、歴史問題への認識の違いを強く感じました。韓国の人がいかに日韓関係において歴史問題を重視しているかをきちんと認識しないと、議論が噛み合わないということがテレビ会議での学びでした。現在の阻害要因について議論したソウル、伝統文化を紹介しあった大邱、そして未来について話した釜山という三大学でのフォーラムを通し、やはり過去の問題を踏まえて話すことはとても大切だと思いました。ソウルの全体討論はとても盛り上がりましたし、釜山は全体討論の時間はありませんでしたが、未来へ向けた発表も未来の話しかしないと実のある議論にならない感じがしました。またテレビ会議の大連理工大との発表で交流のありかたについてすごく考えたのですが、これはフォーラム全体で実際に交流に参加してわかったことがたくさんありました（詳しくは４に記します)。

伝統文化は、日本と類似するところが多くあり、親近感を感じました。日本とはいろいろ違うところがあり近くて遠い国だと思っていましたが、近くて近い国だと思える一つの要因になりました。

2. 韓国人学生との交流からの学び

フォーラムに行くまでの韓国人に関する経験で、とても気になっていたことがありました。オーストラリアに留学していたとき、「韓国人は旅費を踏み倒す」という評判が一部の留学生の間で広まっていたのです。私も実際、仲のよかった友達の間でそのようなトラブルが起こるのを目の当たりにし、「日本人とは感覚が違うところがあるのだろうな」という思いと「そのような行動はどのような価値観から生まれるのだろう」という（怒りなどではない）純粋な興味がありました。これが、今回フォーラムに参加しようと思った理由の一つです。

フォーラムで多くの韓国人学生に出会って感じたことは、みんなすごく親切で温かい人たちでした。バディとして本当に親切に面倒をみてもらい、日本人が思う以上に近い距離で接してくれて、短時間で仲良くなれて嬉しかったです。前述のような印象もありましたが、実際に接してみて韓国人に対する印象が変わりました。また、驚き感動したのが、日韓関係を本気で改善しようとしている学生が多くいたことです。「日本語学科にいて、日本びいきだと言われることもある」とか、テレビ会議では「親日派（戦時中の裏切者を指した言葉）と冗談で言われる」とか、彼らが韓国の多数派ではなく、時には周囲からの偏見があることも率直に告白してくれました。しかし、「そう言われたときに、他の人がそれ偏見だよって注意できる世の中になってほしい」と一人の韓国人学生は言いました。彼らは私たちに日韓関係に対する意見や韓国に対する印象などをかなり突っ込んで聞いてきましたし、日韓の懸け橋となるべく日本で就職したり、フォーラム後に交流ページを主催してくれるなど、韓国の学生のほうが熱意も行動も上回っていて、私たちも彼らの思いに応えなければならないと強く感じました。

3. 観光からの学び

韓国の観光の魅力をあまり知らないまま参加したのですが、露店や釜山の国際市場など活気のある場所が多く、日本にはないワクワク感があり、韓国に魅せられ何度も旅行に行く人の気持ちがわかりました。自由時間の観光は、バディの学生がコスメショップ以外におすすめのカフェやスーパーに連れて行ってくれて、韓国人の生活により近い観光ができたのは良かったと思います。全体での観光は国連墓地や三・一独立記念運動の記念碑がある公園にも訪れ、楽しむために韓国に来たのではなく、真剣な学びを得るという意味でとても気が引きしまる場所でした。

4. フォーラムに対する総合的評価

交流が「１を 100 にする交流（＝関心のある人たちが更なる学びを得る交流)」と「０を１にする交流（＝関心のなかった人が興味を持つきっかけとなる交流)」の２種類に大きく分けられるとすれば、今回の日韓フォーラムは「０を１にする」という面においてとてもよかったと思っています。全日程無料で、観光の時間もたくさんあり、現地で関わる人は全員日本語が話せました。日本に好意を持っている学生が多く、また日韓関係についても率直な意見を述べてくれました。日韓問題を考えるにあたって、問題への入り口としてかなり入りやすい環境がととのっていたと思います。観光の時間が多い割に議論の時間が多く取れず、もっと話したいという意見もありましたが、先生の判断で全体討論の時間をさらに取ることはせず、自由時間に有志でという形になりました。その討論はとても実りあるものだったようですが、やはり一部の学生に限られていたという点でこのフォーラムはやはりどちらかというと入門向けだった気がします。

グロ文生はある程度「交流慣れ」しているところがありますが、今回は他学科の学生も多くいて、「韓国あんまり知らなかったけど無料だから来てみて、韓国すごくよかった」という意見を耳にして、これもまたいい交流だなと、私も満足してしまっていました。だからこそ、反省会でグロ文でない学生の多くが口にしていた「知識があまりなくて、議論に参加できなかった。もっと勉強してフォーラムに臨みたかった。」という言葉を聞いて、反省の念に駆られました。私たちがもっと教えてあげられることがたくさんあったはずだと思いました。理学部の子が言っていた「知らないということに気づいていない」とは本当にその通りで、韓国が指摘するような慰安婦問題のような歴史問題は、私たちが気付いていない、気づかされていないというだけのことも多くあります。テレビ会議での学びを共有しておくべきでした。日韓交流の裾野を広げるのは本当に大切なことだと思うので、興味を持ったところから、問題意識を持って、意見をぶつけて成果や学びを得るところまでフォーラムを通してできれば、参加した学生にとってより意味のあるものになると思いました。

具体的な提案として、事前学習を２単位の必修授業として、講義やディスカッションを通して日韓関係の現状や課題について学び、その代わりグループワークは各自準備で済む程度の、討論のイントロダクションとしての位置づけにすること。また、韓国滞在中に中間ミーティングを行い、疑問点の共有や要望を伝える場として、意見を翌日以降の行程に反映させること、などが挙げられると思います。今回のフォーラムは個人的に非常に濃い交流ができて楽しかったので、またこのようなフォーラムが開催され、多くの学生が日韓関係に関心を持ったり、韓国との直接のつながりを持つきっかけになってほしいと思いました。

草の根の交流から相互理解へ

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

大学での研修では、日韓関係の過去・現在・未来について現地の大学生と講演会、発表会を通じて討論を行った。

同徳女子大学では、「日韓交流を阻んできたもの」をテーマに、過去に焦点を当てつつこれからの日韓関係のあり方について講演会、発表、討論を行った。ここでの学びは歴史認識に関する見解の違いを、討論を通して感じたことだ。慰安婦問題や領土問題等はすでに解決していると考えている日本と、解決に至っていないと考える韓国とのギャップがかなり大きいと感じた。それは日韓関係の歴史問題に関して、教科書で扱っている分量の差や双方の自国主義的な教育が今もなお残っているからであり、双方改善が必要な重要な問題であると感じた。また、外交関係の悪化が直接反日・嫌韓感情につながってしまったり、インターネットの普及によって起きた連鎖的な反日・嫌韓感情は、私たちのステレオタイプや偏見の目が固定化されてしまったりしているからではないだろうか。白熱した討論になったが、日韓の良好な関係を目指そうという思いは同じだと感じた。

啓明大学では、「日韓伝統文化の理解」をテーマに学んだ。日本側からは日本の「衣食住」と「価値観や信仰」についての発表、韓国側からは韓国の「民族舞踊」と「音楽」の発表と「韓服」の試着をした。啓明大学側の発表から、私は伝統文化「仮面踊り」について興味を持った。仮面踊りは日本の能と狂言を組み合わせたようなどこか日本文化に似た雰囲気があるが、観客を巻き込んで行うという部分に関しては、韓国人の親しみやすさを表現しているように感じた。日本側の発表からは、隣国なのに日韓間で価値観がかなり違うことに関して興味を持った。例えば、誘いを断るとき、日本では曖昧で遠回しな言い方をするのに対し、韓国では嫌なことは嫌、好きなことは好きとはっきりものを言う。しかし、会社で上司に支持された内容が酷な場合、日本ではできないことはできないと言う代わりに代替案を出すとった方法を取るが、韓国では上司は絶対的存在で、必ずできると示さなければならない。このような２つの例から見ても真逆な価値観を持っていることが分かる。

文化や価値観の違いから来る文化摩擦はどこの国でも起こりうることであるが、それはその国の文化を知らない無知な場合で多く起こる。互いの文化を理解し、認め合うのはそう簡単なことではないかもしれないが、少しでもその国の文化について知り、理解しようとする姿勢が大事であると思った。

釜山外国語大学では、日韓関係のこれからをテーマに未来に焦点にあて、発表と討論が行われた。両国とも、異文化交流、異文化理解の促進のための多様な提案がなされた。ここでの発表から、日韓関係の未来は、若者を中心とした活動が重要であると改めて思った。また、中高生のようなできるだけ早い段階からの草の根の活動や自主的な交流が相互理解を求めるにあたって重要であると感じた。これからも日韓の発展につながる建設的な交流について考えていきたい。

大学での研修での一番の収穫は、メディアを通してではなく、フィルターのかかっていない現地学生の意見や考えを直接聞くことができた、という点だ。他国の人は、その国の代表の発言が国民の考えだと思い込んでしまう。私自身も、韓国に悪いイメージを持っていたわけではないが、こういったマスコミからの影響は少なからず受けていたと思う。しかし今回は現地の学生一人一人の言葉でその人自身の意見や考えを聞いたことで、多様性を学んだとともに自分の視野の狭さを痛感した。

2. 韓国人学生との交流からの学び

今回のフォーラムでは大学ごとにバディが付き、ほとんどの時間を共有した。一緒に行動して感じたのは、日本人よりも韓国人の方が「おもてなし」の心がある、という事だ。日本人の「おもてなし」は接客や接遇でのサービスで、韓国人は一人ひとりに対する心配りを大事にし、相手のことを常に優先的に考えて行動する「おもてなし」だ。気持ち的距離も近くて、初対面ながら私自身の気持ちや考えをしっかり受け止めてくれるような親しみやすさが常にあって、日本人とは違う近くて深い優しさを感じた。また自由時間に一緒に行動している中で、互いの文化や流行、さらに政治や外交関係まで広く深く話し合えたことが友人としての仲を深められた理由ではないかと思う。さらに、韓国の学生は常に問題意識を持っており、「なんで？」「どうして？」と質問されたり、私自身の意見を求められたりすることが多く、同じ学生としてとてもよい刺激となった。

私は訪韓前、日本人と韓国人との間に緊張感があり、理解し合うことは難しいかもしれない、と考えていた。しかし、実際に交流してみると、緊張感など全くなく、違う国に住む同じ大学生として同じ視点で交流できたことがうれしかった。また、タブーとされている日韓の歴史問題や政治についても深く話し合えたことはとても良い経験になった。ある国の名前が出たときに、その国の大切な友達や人ひとりひとりを思い出すことができることこそ、一番平和につながると私は考えているが、それを改めて考えさせられた交流となった。今回は日本語が上手な韓国の学生が日本語で話してくれたためコミュニケーションできたが、もっと相手のことを理解するためには言葉の壁は大きいと感じた。

3. 観光からの学び

印象に残ったのは慶州での観光だ。仏教寺院は荘厳としており、しかし日本と似ている部分が多かったし、どこか親しみやすさを感じた。だが、寺院の色合いは緑とオレンジを基調としていて日本にはない韓国らしさを感じた。また、大陵苑では初めて古墳を目にしたり、博物館を訪れたりしたことで韓国の歴史を感じることができた。

また仁寺洞のタプコル公園も、三・一独立運動が始まった歴史的な場所で、かなり印象深かった。そこに建っていた独立運動の流れを示すレリーフを見て、私たち若者も歴史から逃れず、また忘れずに、日韓の未来を考えていくことが使命であると改めて思った。

韓国は隣国なのに、違う文化が存在し、でもどこか安心するような親しみやすさを感じさせる場所であった。

4. フォーラムに対する総合的評価

このフォーラム中、３都市の各大学で組んだバディの存在は本当に大きかったし、バディを組むことによって距離が近くなり、友達として本当に深いかかわりができたと思う。この交流から、これからもつながっていきたいと思える友達がたくさんできて、本当にいい出会いをし、いい経験ができた。また、現地の学生との個人と個人の関わりによって韓国の印象がガラリと変わり、韓国という国も人も大好きになった。戦後 70 年、国交回復 50 年となったが、まだまだ両国の関係は良いとは言えない。しかし、このような草の根の交流こそが日韓関係を発展させるとこのフォーラムを通して実感した。

最後に、このような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

日韓フォーラムに参加して
３大学との交流を通じてこれからの日韓関係を考える

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私のグループの発表では、今までの日韓関係を振り返ったうえで外交における互いの国に対する理解・尊重不足を指摘し、日韓女性議員による会談の開催を提案した。これは日韓両国が抱える女性に関わる問題について協働することで、国を超えた女性同士のつながりを持つことを目指すものであるが、その議題の一例として慰安婦問題をあげた。慰安婦を歴史・政治的障碍として捉えるのではなく、被害者の声に耳を傾け女性の人権問題として捉えることで和解の道を探るという提案であり、メインではなかったものの、これに対して日韓両生徒から非常に多くの質問や意見を貰うことができた。それは両国の生徒たちが普段から興味を抱いている、そして解決したいと強く考えているテーマだということの表れだと思った。今回のフォーラムでの発表の場は、日本人側からのみの短時間のものであり、慰安婦という非常に込み入ったデリケートな話題を扱ってもよいのだろうか、興味を持って聞いてもらえるだろうかと不安だったが、発表後の反応の大きさをみて、あえてこの話題に触れみてよかったと感じることが出来た。心的距離を広げる原因となっているこうしたデリケートな問題に関しても、両国の学生が互いの率直な意見を聞きたがっているということを再認識することができたというのは大きな学びであり、勇気にも繋がる。
一方でやはり話題・説明が少し難しかったかもしれないとも感じた。第二外国語として日本語を学習している生徒に向けてということで気をつけたつもりではあったが、バディに聞いてみた所難しかったという意見を多く聞いたので、扱う話題や提案に至るまでの経緯をよりシンプルにまとめる、ゆっくり話す、言葉をより慎重に選ぶといったことを徹底するべきだった。外交での尊重不足を指摘しただけに、自身の発表で配慮不足を痛感させられたのは説得力に欠けるのではないかと反省した。その他の発表でも、日韓合同インターンシップの開催や都市間交流、日韓合同音楽フェスの開催など交流の提案が多く出されたが、多くの日韓両学生が興味を持っていた。交流の目的とは、良い所も問題についても互いの理解を深め、関係の発展を図ることであると思うが、残念ながらそもそも国という変えようのないものに悪印象を持っている人に交流は広がりにくく、目を向けてもらえにくい。　苦手な人に参加してもらうには国への苦手意識を解消するか、苦手意識を超越するほど魅力的な交流を行うしかない。そのような交流の実現は可能なのか、はたまた興味のある人がより興味を持つトリクルダウン式か苦手な人も興味を持つボトムアップ式の交流か、どのようなものが広がるべきなのかということも考えさせられた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

韓国の学生と交流する際には、行きたいと行った場所を地図と首っ引きで探して連れて行ってくれたり、寒い日にはカイロをくれたりと、気を使っているというより、あくまで自然な思いやりを節々に感じることが常である。日本人も「おもてなし」の心があるなどと言うが、韓国の人々の方がよりスマートな気遣いをしてくれるような気がする。ＳＮＳでの連絡が日本人よりも頻繁であるとも感じたが、それもそうした相手を思っていることの表れなのではないかと思う。そうした彼らの思いやりが圧倒的すぎて、どのようにお返ししたらいいのか悩ましいほどだった。一方でよく日本の学生に対して「それは建前？」

と日本人の「本音と建前」に関連して冗談で聞いてくることがよくあった。この冗談対して気を悪くすることはなかったが、やはり海外の人にとって「本音と建前」は日本人の特徴としてよく知られており、苦手に思われているのだなということも実感した。

またアイドルや漫画などポップカルチャーから日本に興味を持ち、日本語を勉強するようになったという人がほとんどで、日本の学生に関しても音楽やドラマを通して韓国を好きになる人が多かった。文化に興味をもってもらうことで前向きな印象につなげることが出来る。文化をより積極的に売り出すことも意義深いということを再確認した。

3. 観光からの学び

新羅の古都・慶州のような伝統地域や解放運動の地などを巡ったが、ガイドさんの説明のおかげもあり、その地が韓国の人々にとってどのような場所なのか、歴史やアイデンティティに関するところまで聞くことが出来たことで、表面的な理解だけでなく少し深く捉えることができたのではないかと思う。ＭＢＳ見学では、私は韓国のタレントやドラマに詳しくないが、今韓国では何が流行っているのか、特にどのようなバラエティ番組が人気で、日本の番組との違い等を知ることができたのはとても面白かった。バディや交流校の学生には繁華街や市場などで普段学生たち自身がどのように遊んでいるかを教えてもらったり、食事に連れて行ってもらったりして、韓国の学生の生活を感じることが出来た。

4. フォーラムに対する総合的評価

４都市も回れるというのは韓国の全国的な風土を知るうえでとても良かったと思う。交流大学も３校と、各地に友達もできたことも大変嬉しく思っている。言語の面では常に日本語での会話であり彼らに頼りきりであるのは本当に不甲斐無く感じたし、日本語を学習してくれていること、日本語を話してくれることだけで胸がいっぱいになるほどだった。私は韓国語を話せないので、日本語で話してくれる彼らに対してできることはといえばなるべく分かりやすい言葉で、積極的に会話をすることだと思った。楽しかったと感じてくれていたら幸いである。

多くの場所を回ることが出来たが、そのため一校一校との交流が短かった。これはふたつにひとつであるので何とも言えないが、私にとっては各地での交流が短いと元々分かっていた分、初めから積極的な心づもりで向かうことができたところもあると言える。

夏の日韓セミナーでは１校との交流をじっくり行なったが、それと比べるとすれば発表は日本側からだけだったので、一方的なものにはなっていなかったか不安な点もある。発表の後すぐ質疑応答の時間だったので、その前に周囲の人と自由に意見交換をするフリーディスカッションの時間がほしかった。そうすることでより意見が出やすかったのではないかと思う。またセミナーではともに生活したことが、そこで得られた信頼感、共感はとても強かったと思う。語弊はあるが言ってしまえばセミナーは狭く深く、フォーラムは広く浅くという交流だった。どちらが良いというわけでもないし、どちらでできた友達ともずっと繋がりを続けたいと思う気持ちは変わらない。個人のつながりは国や政治は関係ないものであるはずだ。もし今後日韓関係が悪化してしまったとしても、彼らとのつながりは続けたいと強く思う。今回出逢った友達で、既に日本に来る予定がある人もいるので、彼らが来た際には私たちにしてくれた以上に歓待し、日本を楽しんでもらいたいと思う。

渡航先での交流と韓国への認識変化

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

同徳女子大学で日韓の歴史について質疑応答・討論をした際、韓国の歴史認識が日本と大きく違うことを実感した。渡航前は、韓国国民がなぜ歴史に対して感情的になるのか、日本の謝罪を受け入れようとせずにいつまでも過去の出来事を掘り返すのか、全く理解することができなかった。むしろ、韓国に対して怒りを感じていた。メディアに取り上げられがちなのは極端な意見を述べる人々であり、韓国国内でも人によって意見は違うということは承知しているつもりであったが、想像しているのと、実際に目の前の韓国人から意見を聞くのとは全く異なる。無意識のうちに自分の中で「韓国」という固定概念を作り上げていたことに気づいた。韓国と日本の差異を肌で感じたのが、ソウルでの私の一番の学びであった。

反対に、釜山外国語大学では日韓共通の希望を確認することができた。両国は未来に対して前向きに考えており、互いに必要な存在であると感じた。しかし、日本は　“共通事項”つまり、“未来志向の関係性構築”にばかり焦点を当てがちで、以前から韓国はそのことを指摘していたのだと気づかされた。韓国が主張しているのは、“認識の差異”を日本が認め、歩み寄ることであったのではないか、と考えるようになった。

啓明大学での発見は、韓国国民には「恨」の感情がある、ということである。韓国の学生が伝統芸能の発表をした際、「この踊りには“恨”の感情が表現されている」との説明があった。後に先生から韓国語で言う「恨」の感情とは、日本語の「もどかしさ」に対応する感情である、との補足説明を受けた。韓国は被害国であるがゆえに、その過去を政治に持ち込み利用している、と認識していたが、それは韓国の歴史を無視した一方的な偏見であった。以前の自分は韓国を最初から悪者扱いし、周辺国や国の政策に振り回される韓国国民のことを考えようともしていなかった。

2. 韓国人学生との交流からの学び

10 日間で３人のバディと行動を共にして感じたのは日韓の文化差異よりも、人間としての共通点である。渡航前、バディは韓国人であるから積極的で攻撃的な性格に違いない、と身構えていた。しかし、実際に各バディと一緒に時間を過ごすと、それぞれ年齢相応の女の子であるとの印象を強く受けた。友人間で流行しているもの、休みの日にすることや好きな食べ物、どれも日本人と大差がない。韓国という国に対する印象は、その国民性とは相容れない部分があり、国境を超えても同世代の人々はインターネットを通じて情報を共有し、無意識のうちに交流していることを実感した。

バディとの自主研修の時間には、彼女達の懐の広さと優しさを感じた。渡航前から連絡を取り合い、事前に私の興味関心に合わせて行き先を調べてくれたバディは、ソウルの寒空の下、クリスマスイルミネーションを見るために、私を川沿いの散歩に連れて行ってくれた。半日しか一緒にいられなかった大邱でのバディは、お昼休みの短い時間を使って、身振り手振りを交えながらキャンパスを案内してくれた。釜山でのバディは人見知りな性格で、他の２人よりも大人しかったが「私は果物が好き。」と伝えると、別れ際に袋一杯のみかんをくれた。韓国の学生と話しをしているうちに、私の中での解けた誤解が一つある。それは、韓国人は攻撃的だという固定観念である。ここには、日本人は温厚だ、という前提が隠されているのではないだろうか。しかし、実際のところはどうであろう。日本人は

表立って波風を立てることを避けるが故に、水面下において互いに足の引っ張り合いをしてはいないだろうか。周囲を蹴落として自分を優位に見せる、そのような傾向があると私は考える。これは私が北海道から上京して２年、東京に住んで肌で感じたことでもある。一方、韓国人は競争力がある。周囲を蹴落とすのではなく、自分より上位にいる人に対して、追いつけ追い越せの貪欲な精神力を備えていると感じた。“受験戦争”という言葉からも連想される韓国、そのような環境で育ったがゆえの性向であるのかもしれない。

韓国で一番私が戸惑ったのは、自分一人の時間が作れないことである。常に団体での移動し、その後は一人一人にバディが付き、夜の自主研修もそのままバディと共に行動。食事や休憩時間、その他の行動を振り返ってみても、自分一人になった時間は就寝前のホテルでの数時間しかない。日本ではそのような体験がなく、一人っ子の私にとっては大変貴重で、新鮮な経験となった。韓国語の全くできない私をずっと隣でサポートしてくれた３人のバディに感謝している彼女たちとの交流がなければ、今回のような発見や学びはなかったであろう。

3. 観光からの学び

タプコル公園で独立宣言の記念碑や当時の様子が描かれた壁板を見学したことが一番印象に残っている。個人的には国立慶州博物館の展示物が美しく、目を奪われたが、観光を通して強く印象づけられたのは、韓国の戦争の歴史である。国連墓地の訪問もその印象を色濃くしたことは間違いない。韓国独立宣言に関するものが、公園内にあることからも、戦争は韓国の歴史の大部分を占める出来事であり、忘れ去ることの無い事実であると認識するようになった。そのようなことを理解せずに、「平和な世界をつくるためには未来志向でなければならない。」と言っていた以前の自分の考えの浅はかさを思い知らされた。

遠い昔、大陸の文化を日本へと伝えてくれた韓国とそれを積極的に吸収した日本。かつて日本が植民地化した韓国。それらの歴史に正面から向き合うことなくして、今後の関係構築は実現し得ないと痛感した。日本人は無意識的に平和ボケ状態に陥っているのではないか、と考えるようになった。

4. フォーラムに対する総合的評価

バディとの自主研修時間が多く与えられ、有意義な時間を過ごすことができた。また、日本側・韓国側の両方からの発表があり、質疑応答の時間や討論の時間が予定に組み込まれており、フォーラムとしての内容も密であった。交流相手の韓国人は全員日本語を学ぶ学生であったため、日本人学生は10日間大変恵まれた環境の中で過ごした。

改善点として、２つの点を挙げたい。１つ目は、全体討論の時間拡大である。質疑応答から全体討論への自然な流れが見られたが、制限時間のために打ち切りになってしまった論題があった。実際に顔を見て意見を交わすことができる貴重な時間であるため、時間を確保して欲しいと思った。また、小グループに分かれてでは無く、全体討論としたことにも理由がある。多少言語の壁があったとしても、隣のバディとの会話でその問題を解消することができる。また、全体討論ではより多くの人の意見を集団全体で、同時に共有することができる。

２つ目は渡航前語学学習の充実である。日本側参加者の中には韓国語学習者もいたが、私のように全く韓国語に触れたことのない学生もいた。一方、韓国の学生は皆、日本語学習者であった。語学レベルには差があったが、交流の中で日本語への強い学習意欲を感じた。私たちは日本のことを一方的に発信するためではなく、韓国からの情報を直接受信するために渡航したが、そこには言語という大きな壁があった。相手が日本語学習者であることに甘んじることなく、事前に相手の母語を学習する必要があったと反省している。事

前研修の中では韓国語講座の授業紹介があった。昼休みを使用した学生同士の韓国語勉強会もあり参加したが、実際はそれ以上の学習時間と意欲が必要であったと感じた。言語学習の重要性を感じたきっかけは、韓国での発表・討論の時間にもある。日本側は母語での発表のため、早口になりがちで、難解な用語を平気で使用する傾向にあった。特に質疑応答の時間にはその傾向が色濃く現れていた。ソウルでは訪問大学の先生が通訳をして下さったが、その際の苦悩は想像に難くない。自分たちの考えを述べるにあたって、日本語を第二外国語として学ぶ学生達のことを十分に配慮した語りであったか、と振り返ってみると日本人にとってさえも、主旨の不可解な発言があったことは否めない。母語使用での発言であったことが大きな理由であろうが、相手の言語を学んでいれば、このような事態は多少回避できたのではないかと考える。

韓国で得た大きな学び

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

自身のグループ発表のテーマは日本の伝統文化であったが、この発表を通して自国の文化を再認識できたと同時に、同時に韓国学生による韓国伝統文化の紹介を聞いて、両文化には共通しているものが多々あり、長い歴史の中でお互いに影響しあい、ともに両者の文化を育んできたように見えた。両者は切っても切ることのできない関係にあり、なくてはならない存在であるのに、現在日本においては日韓関係の冷え切った関係しか報道されない。そしてこのマスコミの報道を完全に信じ切っていた私は韓国では反日感情が沸き上がっていてこの関係を改善しようとする姿勢はないと決めつけてしまっていた。しかし、この国際フォーラムでの両国の学生による発表を聞いて、その考え方はひどい偏見であったと反省した。みんながこの冷え切った関係を少しでも良いものにしようと一生懸命に取り組む姿がそこにあったからだ。“過去”を考える時にはどうにかしてこの苦い過去を乗り越えることはできないかと試行錯誤し、“お互いの文化”を学ぶ時には、純粋に互いの文化を楽しんでいた。そして“未来”について話し合った時には、両国の明るい未来のためにその交流を促進させる素晴らしい案が提案された。両国が冷え切った関係にあり、韓国は友好的に接しようとはしていないと勝手に決めつけていたのはこの私であり、きちんとこの問題に向き合っていなかったのは自分自身であったのだ。私は、自分がいかに軽率な考えを持っていたかを思い知り、それと同時に韓国にはこの問題に対して一生懸命取り組もうとしている学生がいたということに感銘を受け、そして刺激を受けた。日本の過去を無視してそこから逃げるのではなく、きちんと見つめ、それを人々にも共有していきたい。フォーラム中に学んだことをこれからの人生で実践していきたいと強く思った。

2. 韓国人学生との交流からの学び

韓国の学生との交流を通して最も印象に残っていることはその人柄である。正直あんなにも人懐っこく、そして交流における壁をなくしてあんなにも嬉しそうに迎え入れてくれるとは思ってもいなかった。自分たちの文化を惜しげもなく紹介してくれて、日本文化についてはどんどん質問してくれた。そしてそのような会話をしている中で私が感じたことはその好奇心と向上心の強さである。日本についてこんなにも知りたいと突進するような勢いで接してくれる人たちとは今まで出会ったことがない。グローバル化という文字が当たり前に使われるようになった今日、私も外に目を向けようと努力していたのだが、一番大事な隣国に目を向けるのを忘れてしまっていたような気がする。もちろん様々な場所に目を向けることは大切であるが、こんなにも近くで好意のまなざしを向けてくれる人がいる場所と交流することは何よりも大切であると痛感した。そして彼らとの交流を通して自分もさらに韓国の文化を知りたいと強く感じたのである。

日本との文化の相違に関して感じたことは、社会において男性優位が日本よりも少し強いということである。また結婚する際、それまでは家事を分担しようと言っていた夫が、結婚後になると、その約束を守らず一切家事はやらないという傾向があるのも、未だ男性優位という儒教的価値観が残っているのだと感じた。

3. 観光からの学び

フォーラム中は都心部や古代の遺跡など様々な場所を観光する機会があった。都心部ではハングルだけでなく日本語や中国語、英語の文字も飛び交い様々な文化がそこにはあった。一方で、慶州という古都を見物した際は、韓国の伝統的な文化がそこには存在しており、文化が守られているような気がした。歴史あるものは守られ、そこからその国の文化や歴史を学び、先進的な都心部では欧米やアジア諸国の文化を感じることができる。私は、なんだか“日本”という国を客観的に見ているような気がした。都心部はもちろんのこと、古代遺跡は日本のそれと共通点が多い。私は今回の観光を通して、韓国という国がいかに日本と近い存在であり、影響を及ぼしあってきたかということを再認識できたように思える。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回の国際フォーラムにおいて最もよかった点は韓国学生と親密な交流をすることができた点であると私は思う。出発前に自分のバディを知ることができたおかげで、現地で顔を合わせる前からお連絡を取ることができたし、またそのおかげで実際に会った際にはぎこちない会話をする必要もなくすぐにとけこむことができた。そしてこの現地学生との深い交流からは学ぶことが多かった。特に現地の文化を学ぶということに関しては彼女たちとの交流から最も学ぶことができたと私は考えている。そして交流後も連絡を取り合えるという一時的な交流で終わらなかったことはこの交流に大きな意味があったことを示していると思う。

次に改善点であるが、今回の国際フォーラムでは生徒が受け身になる機会が多かったために次回このような交流を行う際はより生徒の主体的な行動がみられるフォーラムにするのがよいのではないかと私は考える。今回のフォーラムでは特に観光の時間の際に生徒の受け身の姿が多く見られたために、出発前に時間の余裕があるのであれば、観光の行程も学生たち主体で考えた方がよいと私は考える。知識が深まるだけでなく、日本人同士の交流もさらに深めることができると思うからだ。またフォーラムの運営なども生徒主導で行い、事前に両国の学生同士でスカイプなどを使用して打ち合わせすることができればさらに両学生の交流も深まるし、生徒主体のフォーラムを作ることができると思った。

韓国と日本の現在と未来について

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私たちのグループは釜山外国語大学において、『日韓の共生に向けて　―都市間交流の推進』というテーマで発表を行った。結論としては、日韓の関係は政治的には良くないが、経済・教育などの民間交流は比較的良好に進めることができるため、関係改善には草の根レベルの民間交流が重要になるということ、その取り組みの例として都市間交流がふさわしいのではないかということを述べた。質疑応答の中では日本人の韓国に対するイメージや、それを形作る大きな要因となるメディアについての質問が出た。私たちの考えた結論に対しての言及はほぼなかった。このことから、日本と韓国の学生はどちらも、関係改善には民間交流が必要であるという認識を共通して持っているということが推察できる。その後、少人数で議論した結果、このように交流を経験してお互いに良い印象を持った世代が続いてゆけば、いずれ政治にも良い影響を与えられるはずだという考えに至った。関係を良好にしたいのはどちらも同じであるから、このままいけば未来に希望が持てるし、同じような考えで、このようなプロジェクトが行われているのであろうから、その意図は成功していると言ってよいのだろうと思う。

また、韓国人学生との議論の中で、両国の歴史認識についての話が出た。被征服者である韓国の学生の知っている歴史と、征服者である日本の知っている歴史は異なっていた。そこから、私たちには日本の植民地化の被害者である国々についての知識が足りないという気づきを得た。私は歴史の授業で、また日常生活の中で、「戦争はいけないことだ」という認識が自分の内に育まれてきたと考えているが、その根拠が「植民地化した国々をはじめとする他国を傷つけたから」ではなく、「『政府・軍部』の起こした戦争により、『我々国民』が傷ついたから」というものであるのではないかと考えた。私たちの戦争に対する反省は国の内部で完結しており、他の国の事情を顧みられていないのではないか。自国の歴史が正しいと思うことの危うさを認識はできたが、何が「正しい歴史」なのかということについては答えを出すのは難しい。

2. 韓国人学生との交流からの学び

韓国人学生と交流してまず気づいたことが、日本人の「本音と建前」の習性・文化が韓国人の間に知れ渡っているということだった。私はそれまで日本人として、本音と建前について意識したことがあまりなかった。おそらく、あって当然のものであると考えていたからであろう。しかし、韓国について学んでゆくにつれ、日本人の特徴としてそれが挙げられていることを知り、気にかけるようになった。そして、実際に韓国人学生との会話の中で気になったのは、「日本人は感情をよく顔に出すから、いい意味で子供っぽい」と言われたことである。日本人が感情をよく表情に出しているとしたら、その表情は本音か建前か、興味深いと感じた。更に交流をして印象的だったのは、日本について学んでいる韓国の学生にとって、彼らの持つ日本人のイメージと私たちの実態が多少異なっていたということである。例えば、かき氷を日韓の女子学生数人で分け合って食べようとした時に、「私たちはみんなスプーンで食べてしまうけど、大丈夫？」と聞かれた。聞かれてすぐは何について心配してくれているのか分からなかったが、それは口に入れたスプーンで一つの食べ物をつつくので、唾液が気にならないかという懸念だった。日本でも仲が良ければよくすることだから大丈夫と言うと、彼女たちは日本人はもっと潔癖なのかと思っていた、と

驚いていた。また、別の韓国人学生に質問されたのが、「日本人は初対面の人を『○○さん』と呼んで距離を取ると教わったけど、日本の学生と交流してみると、みんな下の名前で良いよと言う」が、それは一体なぜかということだった。私はその時、学生同士が下の名前で呼び合いたがるのは仲良くなることを目的として交流しているので、最初からフレンドリーに接しようとしているからではないのかと思う、と答えた。このように、これまで自分の認識していなかった日本人としての性質を理解することができた。そして、日本人は一般的にパーソナルスペースが広く、仲良くなりにくいと思われていること、そしてその一部は事実であることを、韓国人の友人間の接し方の違い、距離の近さなどを目の当たりにして確認できた。

3. 観光からの学び

観光をして韓国のソウルや釜山の市内を歩いて、日本の存在を思っていたよりもあちこちに感じた。本屋へ行った際には日本の漫画が並べられていたし、店の看板やメニューに日本語が使用されているところ、店員が簡単な日本語を話せるところもあった。韓国人のバディと入った店で、隣の席に座っていたお客さんが、私たちが日本人だと気づくと「自分が若い頃に流行っていた」と言って『ブルーライトヨコハマ』を歌ってくれたこともあった。実際に韓国へ行き韓国の学生や、(回数は少ないが) 現地の人たちと交流するまでは、慰安婦問題や教科書問題の影響から、韓国は日本に対し良い印象を抱いていないのではないかという懸念があったが、必ずしもそうではないと気づくことができた。彼らは日本を日本だからといって丸ごと嫌っているわけではなく、日本の政治に不満があるとか、日本の教育に疑問を抱いているとかで、現実的に日本という国を見ていた。現在日本で、日本人としか接していない場合、他国についての情報は新聞やテレビなどのマスメディアに頼るところが大きい。そして、マスメディアは対象の実態を正しく報道するとは限らない。私はその弊害を自分の身をもって体験することができた。

同様に、自分の思い込みに気づいたという点で印象的だったのは、釜山で国連墓地を訪れた際にちょうどすれ違ったおばあさんとのほんの少し会話である。「韓国では、年配の人の方が反日の感情が強い」という話を耳にしていたので、彼女が日本人である私と笑顔でハイタッチをしてくれたことは、私に大きな衝撃を与えた。何事にもステレオタイプというものは存在するが、それはあくまで物事を一般化した結果であり、すべてに当てはまるわけではないという事実を自分の経験として実感できた。韓国に対する日本人の印象、日本に対する韓国人の印象も、もちろん一つに定められたものではない。その多様性を考慮することは、交流の際に不可欠であるだろう。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムでは、日本人の学生一人一人に韓国人の学生がバディとして付き、フォーラム中は行動を共にすることになっていた。それに先立って、韓国の三大学とお茶の水女子大学のフォーラム参加者で Facebook 上にグループを作り、そこで交流をした。この制度で良かった点は、バディ制によって自分をサポートしてくれる存在が必ずいるという点、そして Facebook 上であらかじめその相手とやり取りできる点である。ただ、バディとは常に一緒に行動し親しくなれる一方、決められたバディがいることで、他の学生と仲良くなりづらい側面もあったのではないかと思う。また、フォーラムでは学生がそれぞれのテーマについて発表したが、それについての質疑応答の時間はあったが、ディスカッションの時間はなかった。折角仲良くなり、気安く話せるようになったバディがいるのだから、意見を交換し合う時間があっても良かったのではと惜しく感じた。更に、根本的なことかもしれないが、このフォーラムの時期はもっと考慮すべきだったのではないかと思う。な

ぜなら、韓国の大学のテスト期間と被り、フォーラムの発表準備が韓国の大学生にとって負担だったと聞いたからである。実際に、テスト期間であるために発表を課されなかった大学もあり、双方の発表があると予想していたためにやや残念だった。我々は２か月ほど前から準備を始め、推敲や練習を重ねてから発表に臨むことができたため、忙しくさせてしまった韓国の学生には申し訳なく感じた。次回があるとしたら、双方が余裕をもって準備のできるような日程であると良いと思う。

日韓の共生に向けて

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

＜同徳女子大学＞

同徳女子大学では、日韓関係を阻んできたものとして過去に焦点をあてて討論した。加害国である日本と被害国である韓国の関係が、学校での歴史教育やメディア、慰安婦問題や領土問題といった未解決問題によって冷え込み、国民の反日・反韓感情を増大させていることがわかるプレゼンだった。しかし私がそれ以上に注目したのは韓国学生側から出た靖国神社参拝の是非や日本の戦争ドラマや映画に対する意見だった。首相の靖国神社参拝は確かに一国の首相の行動としてふさわしいのか疑問だが、それがそんなに大きな関心を呼んでいるとはあまり考えていなかった。勉強不足のために靖国神社にＡ級戦犯の他に他の兵士たちが眠っていることを知らず、韓国でもそのように教えられていないということを聞き、日韓両国ともに正しい情報を知る必要があることを痛感した。また、日本の戦争ドラマや映画についてだが、日本が被害者であるかのように描かれているために違和感や嫌悪感を感じるという意見があった。しかしこれについては日本も被害国としての一面も持っていることは事実であり、その描き方の善し悪しはわからないが日本に限ったことではないのではないかと批判的に考えた。ただ日韓関係にしぼって考えれば日本は加害国であることは確かであるため、日本側が過去に向き合って非を認め、韓国側もそれを受け入れる姿勢が必要だろう。特に慰安婦問題で韓国が言う誠意とは何なのか、過去から逃げがちの日本と拒絶し続ける韓国の両国のそうした曖昧な姿勢が「誠意」という抽象的な言葉に込められているように感じた。

＜啓明大学＞

啓明大学ではお互いの文化を理解しあう目的で交流した。韓国の仮面踊りは非常に日本の狂言に似ていて、親近感がわいた。日本と異なり、仮面踊りの仮面が上下に分かれていて、野外で多くの民衆が取り囲んで観劇し、役者の即興が入る点は非常に興味深かった。こうした特徴のために仮面踊りにはより生き生きとした劇を観客とともに作り上げていっているような印象を受けた。韓服の体験もさせていただき、実際に文化を体験できたことは貴重だった。

＜釜山外国語大学＞

釜山外国語大学では、日韓の過去をふまえこれから共生していく未来にテーマを設定し討論した。私たちは都市間交流の提案を軸にプレゼンを行った。プレゼンでは私のチームも含め３チームが様々な形の交流を提案していたことが印象的だった。特に今までの民間交流の限界点として広報などのアクセシビリティ、コンテンツの画一性が挙げられていたのは興味深かった。私たちも自分たちのプレゼンで民間交流を提案する際に一番議論の中心となったのが、どうやって関心のないひとや良い感情を持っていない人を交流に取り込むかという課題だったからだ。交流に参加したい人を募るという従来の形では、相手国に対して関心がある人しか集まらない。できるだけ多くの人を巻き込みたいという思いから私たちは都市間交流に焦点をあてたが、他チームの提案であるメディアコラボや中高大生の交流、音楽イベントなどは、日韓の不理解による誤解を解き様々なひとが共通なものを通じて一緒になるという画期的な取り組みだった。今後は資金やコンテンツなど現実的な課題と向き合うことが必要になる。

2. 韓国人学生との交流からの学び

私とバディを組んでくれた３人のバディはいずれも非常に心優しく、彼らと話していた時間はとても有意義なものだった。文化の違いを感じるところとしては、時間に対する姿勢、奢りの文化、整形への考え方、積極性を挙げたい。まず時間に対する姿勢だが、日本人が時間前行動、５分前行動が多くの場合求められるのに対して、私のバディは多少遅れても大丈夫、または時間ぎりぎりに行けばいいと言っていた。時間に間に合わないと人に迷惑がかかるから、と説得して早めの行動を心がけたが、こうした習慣の差はお互いに当たり前だと考えていることが食い違うため理解は難しいのかもしれないと思った。奢りの文化は、彼らが必ずカフェなどで飲み物やらお菓子をプレゼントしてくれたことから感じたことだ。歓迎してくれているのが十分伝わってきて非常に嬉しかった。整形への考え方については、目の整形は整形ではない、早いと中学生くらいで二重にするという韓国の整形事情を聞いて驚いたからである。どちらも日本では考えられないが、文化に優劣はないし、それも一つの文化だと捉えることができた。積極性というのは韓国人学生の発言の多さを受けて感じたことである。日本人学生は普段の授業ではなかなか発言しないし、ましてや母語でない英語などになるとなおさらその傾向が強い。しかし今回韓国人学生は使用言語が日本語にもかかわらず、間違いを恐れずに発言していたように思う。謙虚さ、沈黙は日本人の美学のひとつだが、そうした積極性も見習ってよいのではないだろうか。しかし何よりも、彼らに出会い行動をともにしたことで韓国を枠組みでなく目の前にいる個人一人一人の集合体なのだと再確認できたことが一番大きかった。

3. 観光からの学び

ソウル、慶州、釜山の三都市で観光を行った。ソウルでは韓国の観光地として有名な景福宮を実際に見ることができたうえ、式典も見ることができた。また、ガイドの方の詳しい説明で景福宮の真ん中の道がどうしてでこぼこなのかなど興味深い話を聞くことができた。韓国の王様と日本の天皇という絶対的な存在がいたことに共通点を見いだした。慶州では天馬塚や石窟庵、仏国寺といった観光地を巡り古都を思った。景福宮も含めてだが、赤と緑が鮮やかに使われていたのが印象的だった。釜山では韓国人学生に案内してもらい市内観光を行ったが、ただの観光ではなく普段の皆の日常生活を垣間見ることができて親近感がわいた。また、国際市場で見た、生の魚介類を野外でそのまま並べて販売する、普段から路上に屋台が並ぶといった光景は日本とは異なってはいるものの非常に活気があり一つの魅力となっていた。また、市内を歩いていて目に飛びこんでくる日本語は、韓国への旅行者に日本人が多く、韓国側もそれをひとつの産業にしていることをよく示していた。店員には日本語を片言ながらも話せる人もおり、隣国であることを再確認した瞬間だった。ソウルでは中国語併記の看板が多かったのに対し、釜山では日本語の方が圧倒的に多かったことも地理的な影響が考えられて印象的だった。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムで私が一番強く感じたのは月並みだが交流の大切さである。しかし、相手を理解しようとするときに交流しようと提案することはとても簡単だし言うことは誰にでもできる。本当に意味をなすのはその交流がどのように、どのレベルで実行に移されどれほどの持続性を持つかである。国を超えることは、以前に比べたらハードルは下がったかもしれないが、距離は近くとも海を越えるという物理的障害や言語の壁はそうした民間レベルの交流を多少しにくくすることは確かだ。いつでも今回のように韓国側が日本語を話してくれるわけではないし、むしろ稀だ。そうした中でこのようなフォーラムに参加することができたのは幸運だった。今回得ることができたこの交流を持続していくことは

私たちの使命だし、今後の課題として先ほど述べたような障害を越えるためにどうすればよいかを考えていく必要がある。そうした障害の困難さを見えにくくするという意味では、改善すべき点を挙げるとしたらフォーラムでの使用言語なのかもしれない。両国ともに英語を使うことは一つの案として挙げられる。しかし私は使用言語が日本語だと聞いて安心したし、韓国の学生が一生懸命日本語を勉強し話してくれるのを見ていて本当に嬉しかったのも事実である。相手が言語を通じて歩み寄ってくれたことで、今フォーラムで深い交流ができたのだと考える。次に良かった点としては今までタブー視されてきた日韓間の問題を取り上げて思っていること、考えていることを正直にぶつけあえたことが挙げられる。特に１人１人にバディがついてくれたことで、大勢では本音を出しにくくても一緒にいる時間が長く打ち解けた相手にはお互い話しやすく、非常に良い形で意見交換できたように思う。全体を通して、これ以上ないほど貴重な体験をさせていただいたフォーラムだった。

未来を担う韓国人学生との交流から見えたもの

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

今回の日韓フォーラムではソウル・大邱・釜山の三拠点にある大学との交流を行った。ソウルでは過去を、大邱では現在を、釜山では未来を見つめたが、それぞれの大学の学生との交流や発表から様々な学びがあった。

私がソウルで得た一番の学びは『程度』についてである。よく私たちは「日本人は～」、または「韓国人は～」というふうに国別で人の性格を認識づけようとする傾向がある。しかし、本当にそれですべての人間を言い表すことが出来るのだろうか。例えば、一般的には韓国人は気性が激しくて、日本人はそこまで気性が激しくないと言われる。しかし、韓国人の中にも物静かな人はいるし、日本人の中にも気性が激しい人はいる。また韓国人のカップルは記念日をよく祝ったり、連絡を頻繁にとったり、愛情表現がストレートだと言われる一方、日本人カップルはそこまでではない場合が多い。しかし、記念日を祝うことや連絡頻度、愛情表現の大きさはカップルそれぞれであるし、どんなに見えづらくても何かしらの表現があるからこそ「愛されている」という感覚があるのだろう。つまり、カップルによって、より細かく言えば個人によってそれぞれ表現などの『程度』が違うのだ。ここから、韓国人は日本人よりも気性が荒いのではなく、日本人よりも感情をストレートに表現する『程度』が大きい傾向があるということが言える。この『程度』は全てにおいて言えることであり、この『程度』を知っておくことで、私たちはより韓国人ないしは海外の人を国が違うから理解出来ないというところから、「この人はこの感情においては程度が自分の感覚値より大きい／小さい」ということで理解することが出来る。全ての人がこの『程度』について納得出来れば、「韓国人はなんでもストレートに言う。だから嫌だ。」というところからは抜け出せるのではないだろうか。さらに言えば、国別ではなくよりミクロな単位で相手を見ることができるのではないか。

大邱では得た学びは、コミュニケーションツールは言葉だけではないこと、そして国を越えて仲良くなるためには時間は関係ないということだ。大邱の学生とは他の二つの大学と比較して一緒に交流出来る時間が少なかった。また、他の大学よりも日本語を器用に使いこなせる学生も少なかった。その中で大邱では現在を見つめるということで文化体験や文化紹介をする機会が多く、韓国の伝統衣装、チマチョゴリやチマパジを着る体験の時間があった。その時間では、うまく言葉を使ったコミュニケーションが取れなくとも、お互い着付けし合ったり、一緒に写真を撮ることで急速に親密度が高めることが出来た。言葉ではうまく言いたいことを伝えることが出来ないからこそ、より丁寧に、そして分かりやすいように話したり、アイコンタクトを自然と意識した交流になったと思う。私は個人的に、ソウルや釜山の大学よりも大邱の大学での交流の方が仲良くなれたと思っている。

最後の釜山では、韓国の若く、そしてこれからの未来を担っていく世代がどのような未来を築き上げたいのかを知ることが出来た。かつて日本が韓国を植民地化し、韓国側がひどい扱いを受けたという事実は変わらない。しかし、今の大学生の世代が経験していないからこそ言えることではあるが、そのような過去に捉われるのではなく、未来を向いて共に歩んでいきたいという言葉には大変感動した。韓国の学生は日本よりも日韓の歴史を深く学ぶことが多いそうだ。学校だけではなく、家でも両親や祖父母に聞かされることは多い。その中にはおそらく中立になって述べられることよりも日本を批判することの方が多いのではないかと思う。メディアも同じである。例えば靖国神社に関してだが、靖国神社

では戦争に行って遺体が戻ってこなかった兵士も祀られているということを多くの韓国人学生は知らないようだった。メディアでは靖国神社ではＡ級戦犯が祀られている＝戦争を先導した人たちを祀っている＝彼らを英雄だと思い、反省していないというところだけがピックアップされていて、その他多くのことを放送することはない。日常の様々なところでは日本に対してあまり良くないイメージを持ちやすくなる情報があふれている。しかし、その中でも日本の良いところを発見し、興味を持ち、そしていずれは韓国人からの自分（韓国で日本に対して友好的な学生）の見方も変わればいい、偏見がなくなればいいと私たちに話してくれた。自信をもって日本が好きだと言いたいという言葉には、まだまだ全ての人と良い関係を結ぶのは難しいということを再認識するとともに、彼らがいるからこそ築ける未来があると心強く感じた。

全ての大学で共通していたことは、皆私たち日本人に愛をもって接してくれたことだ。私たちの体調を気遣い、好みを気遣い、私たちが韓国滞在中気持ちよく過ごせるよう様々なことを配慮してくれた。先程の『程度』の話にも通じるが、韓国人は本当に愛を見せてくれる程度が日本人よりも大きいと思う。もし、彼らが日本に遊びに来たとき同じようなもてなしを出来るかどうか不安になるくらいだ。お店などの対応は日本の方が洗練されている場合が多いが、個人個人で見ると韓国人の気遣いなどは本当に素晴らしいと感じた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

日韓フォーラムではそれぞれの大学で日本人一人につき韓国人一人のバディがついてくれた。個人間の交流で一番大変だったのはやはり言語である。私はほとんど韓国語が話せず、バディの子たちに日本語で話してもらうことしか出来ず本当に苦労をかけた。仲良くなることは出来たが、日本人同士で対話するような難しい内容はなんとなくな雰囲気ではお互い理解できるには限度があり、そこでやはり言語の壁は厚くて高いと感じた。そこで私たちがお互いコミュニケーションを取るためにＳＮＳの機能を使ってお互いが言いたいことを翻訳し合った。時間はかかったがお互いが言いたいことを一つずつ確認し合うことで難しい話題でも深い話し合いをすることが出来た。正直、慰安婦問題や領土問題、日韓の歴史問題はお互いにとって、とてもセンシティブな内容であったため、違和感なく伝え合うのは難しいと思っていた。どこかでお互いにその気がなくとも嫌な気持ちにさせたりしてしまうのではないかと思っていた。しかし、お互いを気遣いながら使えるものを使うことによって言語の壁は完璧にとは言わないまでも薄くしたり低くすることは可能だと感じた。

３．観光からの学び

韓国での観光では歴史問題やその街それぞれの雰囲気を味わうことが出来た。特に印象的だったのがタプコル公園である。タプコル公園には 3.1 独立運動の変遷がモニュメントで説明されている。そこには独立を叫びながら全国各地を回った人たちが描かれていた。途中ではその運動を鎮圧しようとする場面もあり、そこで描かれているのは日本人対韓国人なのかと思ったが、話を聞いてみると、日本政府側に回った韓国人もいるということだった。その背景には一体何があって、日本側に回った韓国人やその周りはどのような心境だったのかもとても気になった。また、ＵＮ記念公園もとても記憶に残っている。ＵＮ記念公園には朝鮮戦争で戦った多くの兵士たちが埋葬されている。お墓といえども、とてもきれいに整備されており、韓国側からの敬意が払われているのがすごく分かった。また、私の中では世界中の集まりがあると日本は必ず参加しているイメージがあったので、ＵＮ記念公園には日本の墓がないのに驚いた。確かに第二次世界大戦後、すぐに始まった朝鮮戦争に当時の日本にはコミットする余裕はなかった。むしろ、朝鮮特需と言われるほど、

朝鮮戦争があって日本は復興した。しかし、日本に帰ってから調べてみると、日本からもＵＮの指令を受けて『日本特別掃海隊』として日本人が朝鮮半島に赴いている。56 名の日本人も亡くなったそうだ。彼らはどのような気持ちで派遣され、どのような気持ちで任務をこなし、どのような扱いを受けたのかがとても気になる。また、日本政府の認識やなぜＵＮ記念公園には日の丸の旗がないのかも気になるところだ。

4. フォーラムに対する総合的評価

全体的に今回の日韓フォーラムにはすごく満足している。夏も森山先生の指揮のもと韓国で日韓交流を行う機会があったが、今回はそのときより金銭面でも融通がきく部分が多かったのか、様々な都市を回ることが出来た。さらに多くの大学生とも交流出来たので様々な視点を増やすことも出来た。ただ、今回は日本人に合った辛さの食べ物やバス移動が多かった。五感を使って韓国を知るならば、多くの韓国人が食べている辛さの食べ物を食べ、自分の足で歩いて視覚・嗅覚から情報を得ることでより韓国という国を頭だけではないフェーズから知ることが出来たのではないかと思う。また、今回は時間の都合もあり、日本人学生は日本語しか話せないという事態だったので、事前学習として韓国語を少しでも学べたらもっと対等な関係で学び合えたのではないかと思う。それだけではなく、日韓の歴史をもう一度日本人・韓国人が自国で学んだあと、共同でディスカッションしたり、お互いが学んだことを教え合うことで、差異を知ることが出来たり、そこに対して自分の考えをもってフォーラムに臨めたのではないだろうか。

初めての訪韓で学んだ多くのこと

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私にとって得たものが大きかったのは慰安婦問題についての議論です。今まで慰安婦問題について深く考えたことがなかった私にとってとても刺激的でした。異なる視点から教育を受けてきて、歴史観が違う両国の学生が、１つの事柄について包み隠さず意見を述べる姿を見て、今後の日韓関係の在り方もこういう風に、お互いを尊重しつつ過去の壁を乗り越えていければ良いのに、と強く感じました。過去に日本が韓国に深い傷を負わしてしまったのは事実です。しかし、だからといって今回の訪韓中私たちを冷たい目で見ることもせず温かく迎えてくださった韓国学生の皆様。韓国は執拗に過去にこだわっているという日本側の意見もあるようですが、そういう態度ではやはりいけないと思いました。韓国が負った傷を韓国の方が忘れたときに、初めて傷を負わせてしまった日本も解放される権利があるのではないでしょうか。今までの私もそうだったように、日本国民はこの問題について関心が低いということに気づかされました。家族や学校の友人と話題にあがることも無かったですし、恥ずかしながら私たちとはかけ離れた政治問題としての認識しかありませんでした。しかし、韓国でこの討論をしている際、バディの方が私に「今、生きている元慰安婦の方が少なくなってきています。日本側の一刻も早い心からの謝罪を私たち韓国民は待っています。」と語ってくれました。韓国側の傷が癒えてないうちに日本側はこの出来事を忘れようとしている、という事がはっきり分かりました。今回のフォーラムで、今後の両国の関係改善にはこの事実を改善することが最も重要であると考えました。

自身の発表である日本の伝統文化についての紹介は、韓国の先生からおせち料理について新しい発見があったと言っていただけたので良かったです。また、味の違いや文化遺産指定の経緯についての質問もあり、日本の食文化に関心を持っている方がいるのだなと実感できました。今回は自分の専攻分野でもあり、誇れる日本食の魅力を少しですが韓国に発信できたということで大きな自信になりました。

2. 韓国人学生との交流からの学び

今回、韓国人学生のバディが１人１人に付き、自由研修も多かったため、韓国人学生と一緒に行動する中で日本人の国民性のようなものを改めて認識しました。特に、韓国には伝える文化があるからこそ、日本の言わない文化をより強く感じました。これは、同徳女子大学での先生の講義や、バディ・韓国人学生との交流の中で何度も実感したことです。韓国人から見て、日本人は何を考えているのか分からない、と講義で紹介された時、バディの子もそうそうと言った感じでしたし、日本の男子学生と付き合った韓国女子学生の、日本男子学生の連絡の少なさやシャイさに物足りなさを感じている、という話も聞きました。このカップルの話をよく聞くと、日本学生の行動は、私たちの感覚としては特に何も問題のないような、常識的なものに感じました。しかし、韓国人の方としては、その行動がわがままと感じてしまうようでした。これが文化の違いかと、身近な例を聞いてとても強く感じました。日本には秘するが華という言葉があります。すべてを相手に見せたり伝えたりせず、自分の思考や長所を秘めることを美とする考えです。これは韓国だけでなく、多くの外国の方からも指摘される日本人特有の性格ですが、私はこういう文化が悪いとは思いません。しかし、国際化が進み、他国とのコミュニケーションが広がる中で、自分の意見をはっきり表現できなかったり謙虚になりすぎてしまうのは大きな障害となるでしょ

う。実際に今回の交流の中でも、韓国学生のグイグイくる感じに初めは圧倒されてしまいましたし、歓迎の気持ちをストレートに伝えて下さることに少し照れ臭くなってしまい、自分も嬉しいという感情を素直に表現できなくなってしまった場面もありました。しかし、韓国に数日いるとなんとなくその距離感が掴めてきました。そして自分も少しずつ韓国人学生の流れやノリについていけるようになりました。大切なのは、韓国人はこう、日本人はこう、と差を付けたまま交流するのではなく、これが文化の違いなんだな、と理解し受け入れることだと思います。自分が育ってきた文化や習慣（無意識なものも含めて）をアイデンティティとしてしっかり持ちつつも、郷に従えるような柔軟さ・余裕を持つことで、慣れない外国の方との関係もスムーズになると思います。初めての環境で違和感を感じることが悪いのではなく、お互いの民族性を理解し受け止める努力をしてその壁を超えていくことが重要なのだと学びました。

3. 観光からの学び

釜山では大淵洞の国連墓地を訪問しました。この公園には朝鮮戦争に国連軍として参加した韓国の兵士を含め、世界 21 カ国の戦士が祀られています。日本にも戦争の兵士が眠っている神社や記念公園はたくさんありますが、このように自国だけではなく他国の戦死者をも祀られているという場所は初めて訪れました。とてもきれいに整備された園内、命日に国旗と花を供える習慣、遠くの国からお参りにくるという親族の方、過去の過ちに向き合い自国の兵士も他国の兵士も最大の敬意を表する姿勢を見ることができました。戦争は決して１対１という対図ではなく、世界的な問題で、何人とも無関係な人はいないということを改めて強く感じた場所でした。朝鮮半島で起きた（そして今も続いている）悲劇と、それに関わった世界各国の人々の人生について学ぶことができました。

4. フォーラムに対する総合的評価

私は今回のフォーラムで初めて韓国に行きましたが、訪韓前はメディアから受ける“韓国人は反日”のイメージが強くありました。同じように日本でも嫌韓ムードやヘイトスピーチがあったりと、どうして両国の関係は良くないのだろう... と、あまり明るいイメージをもっていませんでした。しかしこのプロジェクトで事前準備をし、実際に訪韓、現地の人々との交流する中で、自分の視野の狭さに気がつきました。関係改善のために精力的に活動している人や自分なりの考えをしっかりと持っている人、日本人や日本の文化が大好きな韓国人（またはその逆も）、否定的な考えばかりではないということを、メディアを通してではなく自分の目で見ることができました。今回のフォーラムは大学の全学部対象に応募がかけられたこともあり、韓国の歴史や文化を専門としていない私でも参加することができました。韓国について漠然的なイメージしかなかった私にとって、このフォーラムで実際に韓国人と交流でき、その中で超えなければならない壁について学べたことはとても貴重な体験になりました。ただ、今回は韓国学生が日本語専攻だったということで、そこに頼りっぱなしになってしまったことが心残りです。もっと韓国語を勉強して臨んでいれば、より密な交流ができたはずだと思います。韓国語を学ぶことでその背景や文化も知り、今回できた新しい友達と国際交流を続けていきたいです。そしてそれが今後の両国の関係発展に繋がればと強く願います。

第５回国際学生フォーラムを通して

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

３大学ではそれぞれ過去、現在、未来という視点から日韓関係についての討論を行い、それぞれの相互理解を深めることができた。同徳女子大学では過去の日韓関係について日韓の交流を阻んできたものという視点から討論を行い、啓明大学では現在という視点から伝統文化を紹介し合い、釜山外国語大学ではこれからの日韓関係という未来志向の意見交換を行ったが、日韓における諸問題について当事者同士が直接話し合うというのは敬遠されがちであるが、こうした草の根の交流こそが重要であると考えられる。日韓間にある問題には双方の歴史認識の違いや思想の違いが深く関わっていることを実感したため、過去という視点においては一概にどちらが悪くどちらが良いとは言えないものであるが、未来志向の視点において互いの歩み寄りによる状況の回復が重要であると考える。我々は政治家ではないが、互いに議論し合うことは日韓交流の発展にとって必要なことであると考えられる。しかしながら言葉の壁も大きく、日本語のわずかなニュアンスの違いが誤解を招いたり、十分に伝わらなかったりする可能性があることも痛感した。

また、私が発表を行った啓明大学での伝統文化の紹介においては、韓国文化を学ぶことはもちろんであるが、発表する至り自国の文化である日本の伝統文化についてあらためて学ぶことができた。文化の紹介というとただ紹介に留まってしまいがちだが、文化の起源や国内での発展、現代への伝わり方と現代における捉え方など、比較文化の観点から日韓の文化を比較して考察することができたと考える。

2. 韓国人学生との交流からの学び

今回の研修を通し、３人のバディと行動をともにする中で韓国人の思想や生活を垣間見ることができ、日本との比較という観点から様々な違いを発見できたのが興味深かった。これまで事前学習やメディアによって韓国人の国民性というものや性格はある程度理解していたつもりだったが、実際に韓国の地で話し合ったり交流したりすることで様々な発見があった。

まず今回我々が交流した韓国人学生は日本語専攻の学生であり、日本に好意的で積極的に我々日本人学生と交流してくれる姿勢であった。そのため私のバディは日本文化にも詳しく、前提として日本人に波長を合わせてくれており、韓国での滞在を楽しんでもらいたいというホスピタリティーが感じられた。訪問以前から積極的に連絡をくれ、こまめにコンタクトを取るなど、自分がどういう人物で何が好きで何に興味があるのかということを知ってほしいという姿勢が見受けられたがそれは実際に交流するまで知らなかった性格であり、日韓の文化の違いであると考える。日本人は自ら自分のことを話すというよりも会話や交流の中で少しずつ打ち解けていくという性格が強いと考えるが、韓国人はまずお互いについて知るところからスタートし自分のことを知ってほしいし相手のことを教えて欲しいという積極性があると考える。私は普段初対面の人に自分のことを話すのは苦手なのだが、バディが自ら自分のことを話してくれる姿勢を受けて積極的に話すように心がけたことでお互いへの理解や関心が高まり、距離が縮まったと感じた。

加えて、韓国人は人との心理的な距離が近く、交友関係も密であると考える。バディ同士での行動においても韓国人学生同士の交友関係が関わり、日本人学生よりも比較的友人本位・恋人本位な性格があると考えられる。例えば、自由時間になると恋人同士でしゃべ

っていたり、市内視察・大学構内見学の際に韓国人学生の友人同士と合流してグループになったりと、人との距離が近く密であるという韓国の国民性が顕著であると感じる。

3. 観光からの学び

今回の研修において滞在したソウル、大邱、慶州、釜山での観光はどれも雰囲気が異なり興味深いものであった。韓国人学生曰く「日本の都市で例えるならソウルは東京、大邱は名古屋、慶州は京都、釜山は大阪」というような印象だそうで、実際に訪れて私もそのように感じられた。

ソウルでは景福宮の視察や明洞観光、ＭＢＣワールドの見学、タプコル公園視察などを行った。近代的な高層ビルが立ち並ぶ街の中に伝統的な建造物である景福宮がある様子は日本における皇居とも通ずるものがあると考えられるが、古来の姿をそのまま残しつつ近代的な街並みと共存している点が韓国の特徴であると考える。景福宮は朝鮮時代の正宮として建設されたものであるがその構造は日本の城跡などとは異なっており、建造物や守門軍の衣装の独特な配色や、塀・建築様式が中国風とも日本風とも琉球風とも違っていて興味深かった。またＭＢＣワールドの見学においては国内で人気のテレビドラマやバラエティ番組について知ることができ、ＭＢＣ社の設立の歴史や実際の報道現場を視察することで韓国のメディア事情が窺えたと感じる。やはり日本のそれとは似て非なるものであり、ＭＢＣワールドは日本のテレビ局に比べエンターテインメント性が高いと考える。タプコル公園においては、地域の人々が休憩に利用しているのどかな雰囲気の中に、独立宣言の刻まれた記念碑と並んで日本軍の朝鮮侵攻の様子が描かれた三・一独立運動の石碑があり、韓国の日本に対する遺恨が感じられた。

慶州では大陵苑の天馬塚を視察、国立慶州博物館を見学し、石窟庵や仏国寺といった国立公園を視察した。とりわけ国立慶州博物館では聖徳大王神鐘を観察し、日本が韓国から出土品を持ち出したという歴史的事実が痛切に感じられる展示内容であったと感じる。

そして釜山では国連連合記念墓地の視察、自主研修による南浦洞と四面観光、海雲台や映画の殿堂などを視察した。朝鮮戦争における戦没者のために造られた国際連合記念墓地は敷地が大変広く、現代的で静かな佇まいに朝鮮戦争の犠牲の大きさと国連の犠牲者に対する責任が感じられたが、その歴史認識には北朝鮮側の視点が欠けており、朝鮮戦争の歴史を国連・韓国側の一方的な視点からのみ捉えていると考えられる内容であった。

4. フォーラムに対する総合的評価

私は今回の研修が初めての韓国訪問であったが、10 日間という日程のおかげで主要箇所を広くまわることができ、大変充実した濃い内容の研修であったと考える。一度の研修で４都市をまわり３つの大学の学生と交流することができたというのはなかなか経験できないことであるし、日韓関係について考えるという点においては十分に要点を網羅できた研修内容であったと考える。

交流した３大学ではそれぞれ異なるテーマをもって議論を行い、お互いに対する意見を発表し合うことができたが、現在進行形で議論されている日韓の諸問題について当事者である我々が話し合うというのはセンシティブであり難しい要素もあったのではないかと思われるので、その点について大変貴重な経験であったと考える。また、４都市をまわりそれぞれの都市の歴史的建造物や韓国経済の現場を網羅して視察できたという点が良かったと考える。一度にまわることで都市ごとの違いを考察しやすく、観光地にも訪れることで韓国についての理解が深まった。加えて、朝から夜までのとても充実したスケジュールであったために効率的に訪問・見学することができ、食事においても韓国文化を体感できた点が良かったと考える。

改善点としては、韓国人学生との交流において我々日本人学生が受動的になってしまった点が挙げられる。日本語での討論であり韓国側の大学が迎えるという環境であるために日本人学生側が受け身になりがちになってしまったため、事前学習などによる主体的な取り組みが必要であったと考える。また大人数での団体行動であったため、行動が散漫になってしまう場面があった点が挙げられる。韓国人学生と日本人学生が合同で行動すると 70 人以上の大所帯となるため統率がとりにくくなってしまったため、個別行動やグループごとに分かれての行動が効果的であったと考える。

より良い未来のために

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

まず、グループの発表では日韓の教科書比較を取り入れたため、自分がどのように歴史を学んできたのかを改めて考える機会になった。ほとんどの人にとって最初に歴史について学ぶ場は学校である場合が多いため、教科書の内容や教え方が今後より多角的で優れたものになっていくことは欠かせない。今回はそれに加えて、自ら本を読んだり周りの人の話を聞いたりといった授業以外での学びを取り入れることの重要性を強く感じた。そういった自主的な学びを習慣づけることによって、たとえ教科書やテレビ番組などに偏った情報が載っていたとしても自分でその偏りを修正できるのではないかと考えた。また釜山での「未来」を考えるプレゼンテーションでは、日本と韓国の経済面での協力が友好関係に繋がるという肯定的な考え方を知ることができた。発表を聞くまで私は経済面での繋がりは各国の利益のためのものであり、損得によって左右される冷たい関係だと考えていた。しかし、韓国の大学生にとって「将来日本で働く」という選択肢が珍しいものではなくなっていることや、経済面での協力がお互いの技術や会社運営を学び合ってより良い社会を作ろうとする動きに繋がる可能性を知ることができ、今後の関係に期待したいと考えるようになった。企業見学にて韓国で働く方々の話を伺ったことも相俟って、自分の将来の進路についても日本だけに制限することなく、幅広く考えていきたいと思った。

2. 韓国人学生との交流からの学び

私は韓国の学生との交流に参加するのが今回で２回目だったため「こういうときは大抵の場合こうする」という方程式が頭の中にあった。そのため、例えば自分の箸で大皿から食べ物を取るといったことは自然に受け入れ、いつの間にか自分からするようにもなっていた。お茶大生だけでの食事も今回は多かったが、そのときも皆特に自分の箸で取ることを気にする様子はなかった。しかし、日本に帰ってから韓国料理屋で所属しているサークルの新年会をしたとき「自分の箸で取ってもいいですか？」と聞いたり、口をつけていない方で取ったりという様子が多く見られたのが印象的だった。またそのときは自分も遠慮して自分の箸を使うことはできず、韓国にいたときには感じなかった抵抗感を日本に帰って初めて感じた。それは、友達同士で腕を組むといったことでも同様である。韓国でバディと腕を組むことには抵抗がなく、自ら積極的に近づいていくことも多かった。韓国にいるときは韓国の文化に自分が溶け込み、日本にいるときは日本の文化に溶け込んでいるのだな、と実感した。相手が当たり前だと思っている行動をとることには心理的な負担はないが、例えば日本で自分の箸を使うことに対しては「どう思われるのだろう」「相手に嫌がられるのではないか」と想像してしまう。もちろんこれはある意味ではプロトタイプ的であって、個々人に聞いてみたら全く違う考えを持っていることもあるということは、実際に韓国の学生と過ごす上でかえってよく理解できた点である。日本でも仲の良い間柄では回し飲みに抵抗がない、という例もあるように、実際に相手に確認してみれば特に問題はない場合が多いだろう。相手の中にある文化と自分の中にある文化をどう擦り合わせていくべきか、またそもそも擦り合わせていくべきなのかという問いについて、新たに考えさせられるきっかけであった。

3. 観光からの学び

ＭＢＣワールドのようなＩＴ技術を駆使した現代的な施設と慶州の歴史の古い建造物など、かけ離れているように見えてどちらも韓国の特徴的な部分と言える文化を同時に見ることができた点が良かった。また景観を楽しむ場所と、歴史について考えることのできる場所をどちらも回ることができたように思う。見学した時間自体は短く、しかもお茶大生だけでの見学ではあったがパゴダ公園やＵＮ記念公園は見学中いろいろなことを考えたこともあり、特に印象に残っている。他に私が注目した点は物価である。出発前、韓国に行くことを周りの人に伝えると「韓国は物価が安いからいいね」とよく言われた。しかし実際に来てみると地下鉄やタクシーなどの交通費は比較的安いものの食品などの生活必需品の値段はそこまで日本との差を感じず、むしろ日本より高いと感じることも多かった。例えば若者が多いカフェなどの価格は確実に日本より高かった。バディとの会話の中で日本よりアルバイトの賃金が安いということを聞き、この物価の中で韓国の学生たちはどのようにやりくりしているのだろうかと気になった。さらに換金のレートなどを見ていると、簡単に「ゼロを一つとればいい」とは考えられなくなってきたと感じる。これは日本と韓国の経済面でのつながりを模索する上でも重要な気づきだと思うので、さらに調べていきたい。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムは参加した学生の数が多く、密接に関わるバディも３大学それぞれで各３名いたため、色々な相手と関わることになった点が良かった。またソウルだけでなく各都市を回ることによって、韓国を多様な面から見ることができたと思う。東京だけが日本ではないように、韓国もまたソウルだけが韓国ではないということは頭では分かるが、実際に行ってみるまでは想像がつかなかった。それぞれの都市で過ごす期間が違ったため、バディや他の学生と交流できた時間に差が生じてしまった点は多少心残りではあるが、その分今後連絡を取り合い、旅行などで行き来することでさらに仲を深められたら良いと思う。発表と質疑応答については、ディスカッションのようにどんどん意見が発展していった点が良かった。これは参加者に自分の意見をはっきりと言える人が多くいたおかげでもあるだろう。しかし、発言者とそれ以外とで温度差があったようにも思う。そのため、適度な人数のグループに分かれて同じテーマで話し合うような企画があればさらに良かったと思う。また、お互いの発表内容を聞いた後で日韓両校の学生がともに一つの提言を作り上げるといった企画もできればもっと感動のあるものになったのではないか。時間の制限があるため難しい部分も多いだろうが、そのような企画が今後あれば是非参加してみたい。

歴史を見つめ、未来につなぐ

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

今回の日韓フォーラムに参加したことは、私にとって単に初めて韓国に行ったというだけのものではなく、現在ある日韓関係をつくった歴史や、日韓関係の在り方についての自分の考えを大きく変化させるものとなった。また、今回のフォーラムでは発表テーマの「日韓関係を阻むもの」として人々の日韓関係に対するイメージや関心について考え、自分自身の態度にも問題意識を芽生えさせるものとなった。

このフォーラムに参加する以前、私は、韓国と日本の文化交流が昔より盛んになり、歴史や政治に関わる日韓関係の問題は、時間が経てば薄れて解決するのではないだろうかという考えをもっていた。実際に韓国に行き、韓国の学生と交流する中で、それぞれの文化の話題について盛り上がることも多く、関心や好感を抱き合うきっかけになるという点で文化交流のもつ日韓友好への役割は大きいものであると感じた。しかしながらその一方で、文化間の交流だけでは人々のもつイメージが政治やメディアの報道によって大きく左右されてしまうことは避けられず、やはり長期的な友好関係を築きあげていくためには、これまでの歴史を忘れて文化面での交流を進めようとするのではなく、歴史を学び歴史に向き合っていく必要性があると強く感じた。このように韓国、そして日韓関係問題に対する無関心からの脱却には、国民の個人レベルの意識を変化させる必要があり、簡単なことではないが、これまでの歴史や事実を知ることで自分自身がメディアに「なんとなく」流されたり、日韓の人々意見の違いをむやみに否定ししたりのするではなく、互いの立場に立って考え相手の意見に耳を傾けることにつながる。そして特に今回のフォーラムでは、たとえ日韓で意見が対立していて、どちらかの意見を変えることは難しいものであったとしても議論を行い、本音で話し合うことで心の距離が縮まり、互いに対しての不信感や嫌悪感が薄らいでいくということを実感した。根本的な解決をすることはできないにも関わらず話し合うことで何か変わるのだろうかと心配な気持ちもあったが、フォーラムを終えてみるとどちらの意見も理解でき、人種や国という違いは思っていたよりも大きいものではなく、このような交流を通して越えていけるのではないかと感じた。このようなステップを超えてこそ本当の友好関係が生まれるのだと思った。私自身も、文化面での交流ばかりを考え歴史・政治について軽視したと気付かされたので、今後は日韓関係について関心を持ち理解を深め、その関心を周囲の人々にも広めていきたいと思う。

また今回のフォーラムでは隣国としての関係の難しさについても学ぶことができた。韓国の先生の「隣国とは愛憎の関係にあり、かつ運命共同体である」という言葉はまさに日韓関係を示しているようで印象に残った。隣国だからこそ超えなければならない壁は多いが、日本と韓国というように違いや国境を強調していがみ合うのではなく、アジアという大きい枠組みの中で共に発展していくことを目標に、サポートしあい高め合う良きライバルのような関係を培っていくことが今後の課題であると感じた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

今回私が出会った韓国人の学生たちは、みな自分と同じ年代で、日韓関係のこと、日常生活のこと、自分自身のことなど多くのことについて話すことができた。また、３大学でのそれぞれのバディとは、わずかな時間しか一緒に過ごすことはできなかったが、彼らと共に学ぶことで韓国人の「普通」について知ることができた。特に韓国の男子学生から聞

いた軍隊の話は、日本では馴染みのないことであり、実際にバディが来年から兵役が始まると知り、戦争についても改めて考えるきっかけになった。また、あるバディとは家族や周囲の人、自分が日韓のことをどう考えているのかについて話し、自分の中にあった韓国人のイメージと一般の人々の考えのギャップに驚くこと多かった。このような彼らとの交流は直接会ってみないと知ることができないことであり、自分にとってとてもいい経験になった。文化面や考え方の違いへの理解を深められたと感じた。

しかし、その一方でその違い以上に日韓の人々の持つ共通点はとても多いとも感じた。日本人だから、韓国人だからどうだというのではなく、同じ世代の韓国の学生が私たちと同じようなことに喜び、悲しみ、怒り、悩みを抱いており、国籍が違ってもこれほどにも共感できるのかととても嬉しく感じ、むしろ、ただ国籍が違うだけだと感じるようになった。日本人も韓国人も一人一人が違い様々な人がいるというということはごく当たり前のことであるが、今回改めて国というフィルターを外し、その人として相手を知ること、知ろうとすることの大切さを実感した。そして、いつかこの当たり前のことが本当に当たり前になり、その国に対してもっているイメージや偏見を捨てて違いを尊重しようとする人や、その偏見が間違っている時には正すことができるような人が増えたら、より良い関係を築き上げられると考える。

日韓関係は、日本人が同じ国民としての結びつきがあるように、日韓がアジアの仲間としての意識を抱き、国境や違いに対する心の壁を低め、互いを認め尊重し支えあっていく関係こそ理想なのではないかと感じた。

3. 観光からの学び

今回のフォーラムでは、韓国の今を知ることができる明洞やチャガルチ市場などの街に行き韓国の人々生活の一部を体験できた。そして、個人旅行ではなかなか行かない場所にも訪れることもできた。景福宮や仏国寺では日本にある建造物と形や雰囲気などに似ているところもあれば、美しい色使いなど異なる点もあり、日本との比較や共通点を見つけることはとても興味深かった。また今回訪れた景福宮や仏国寺といった観光地はかつて日本との関係の中で残された傷をもつ地でもあると知り、心が痛んだ。しかし、日本人としてそのような歴史を知り、心から深く日韓の過去を見つめることにつながり、自分自身多くのことを考え、学ぶことのできる場所であった。

また、慶州博物館で行われていた日本の古墳の展示の最後に、遺跡とはその当時の人々の文化、生活、考えを盛り込んだものであり、そのような文化や遺産を理解することが人を理解することでありお互いをより近くに感じさせるのだというメッセージがあったが、これは過去の遺産についてのみ言えることではなく、今にも当てはまると感じた。そして今回のフォーラムを通し、歴史の中の韓国と現代の韓国両方の文化や生活を知ることができ、韓国、韓国人への理解を深めることができた。

4. フォーラムに対する総合的評価

今回のフォーラムでは私たちと同じ年齢の学生、日韓関係について知識の深い大学の先生方、そして私たちの両親世代であるバスガイドさんなど、年齢や立場を超えて多くの方と出会い、普段であれば避けるような事柄に対し率直に意見を述べ合うことができとても良い機会になった。このように多くの方々と話にくい話題について考えるということ自体めったに得ることができないし、韓国だけではなく日本について学びを深めることに繋がった。そして、やはりＴＶ、本、メディアからは知ることができない本当の韓国の姿というのは韓国に来てみてこそわかるものであると感じたので、ぜひ今度は日本に招き日本人や日本のことを知ってほしいと思う。また、今回の討論会はとても中身の濃い充実したも

のであったので次回このような機会があればより少人数のグループで討論したいと感じたし、発表を通して出た日韓交流のアイディアなどはとても良く考えられていたので、なんらかの形でそれを実現させたり、生かしたりする場があればいいと感じた。

日韓フォーラムにおける学び

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私はソウルＡチームとして、同徳女子大学で発表を行った。テーマは「教育」に設定し、中でも学校教育に着目した。発表の中では、これまでの学校教育や教科書の内容につい触れ、そこから私たちはどのような教育を受けたいと考えるのか、また学校教育では補うことができない直接的な交流の実施のためにはどのようなことができるかを考え、交流計画を提示した。夏の日韓フォーラムでも感じたことだったが、韓国の学生と日本の学生の慰安婦問題や植民地時代の歴史についての知識の深さには差があることを改めて実感した。その一方、私たちが発表で提案した日韓カップルのウェディングプランのインターンシップ企画に対し、そのような企画があれば参加してみたいという学生もいて、共同企画を通した日韓交流、・国際交流というものに可能性を感じた。また、同徳女子大の学生とは質疑応答の時間に慰安婦問題や靖国神社のことについて意見が飛び交い、普段は話しにくいような率直気持ちを聞けた気がした。学生同士はこのようにお互いの主張を聞き合って、ではお互いの国が納得するにはどのようにしたらいいと思うのかと解決の道を見出すことができるのに、それが国家レベルとなると難しいという現実にもどかしさも覚えた。

続いて訪れた啓明大学では両国の文化についてそれぞれ発表を行った。バディの友達に日本の文化について教えてあげて、また韓国の文化についても教えてもらい、ただそれだけなのにお互いの国のことを少しでも多くわかったような気持ちになることを不思議に思った。日本の生徒だけで夕食をとったときにも、アリランをみんなで歌ってみたことで、その歌の文化が自分の一部になった気がした。

最後に訪れた釜山外国語大学では、未来を見つめたテーマでの発表を行った。そのテーマのせいもあって未来志向の明るい雰囲気が強かったと感じた。日本の技術力と韓国の交渉力を合わせることで互いの強みを生かしたビジネスを展開できるのではないかという話もあり、そのような視点から日韓の関係を改善する道が拓ける可能性もあるだろうと考えた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

私の話した韓国の学生の中には、祖父母が植民地時代に日本に連れて行かれたという人だという子や、祖父母が植民地時代を知る人であったという子が何人かいて、そのせいで祖父母や両親は日本に良い印象を抱いていないという子が多かった。しかしその学生達は、日本の歌手や日本の漫画やアニメに触れてから日本に興味を持ち、実際に日本を訪れた経験からも日本を好きになったと言っていた。同様に、日本の学生の中でも韓国に対し良いイメージを抱いていなかったという人からも、今回のフォーラムを経て韓国に対する印象が変わった、好きになった、という話を聞いた。お互いが最初はマイナスからのイメージで始まったとしても、実際に日本や韓国を訪れ、また人と交流したことによってそのような気持ちの変化が生まれたということは、やはり直接人と交流をして国を訪れることが有意義で意味のあることなのだろうと改めて感じた。

また、今回は啓明大学と釜山外国語大学も訪れたことで男子学生との交流も行うことができた。その際に、兵役を終えたという人もいればこれから行くという学生もいて、韓国に兵役があることは知っていたはずなのに実際にそのような話を直接、しかも知り合った人から聞いたことで改めて生々しく感じた。あるバディの子から、兵役は肉体的にも精神

的にも厳しいものであるため、除隊後も後遺症で指が動かなくなったりすることがあるという話を聞いた。実際にその子の父親や叔父もそのような経験をしたと言っていて、兵役に対する自分の認識の軽さを感じた。北朝鮮との関係もあり、いつ戦争が始まってもおかしくないと思う、とも話していて、危険と隣り合わせで生きているという意識が自分よりも強く、また日常的であることにも驚いた。

3. 観光からの学び

今回フォーラムで私の中で印象に残っている観光は、国連墓地とパゴダ公園だった。国連墓地には韓国だけでなく世界中の人々の墓地があり、中には遺体が見つかっていない人のもの、また名前の分からない人ものなども多くあった。この墓地が韓国に作られた意義や韓国の世界における立ち位置、また戦争の悲惨さというものを改めて感じた時間だった。

パゴダ公園については、周りを見たら一見普通の街中で、人もたくさんいるようなにぎやかな場所だと思っていたのに、中に入ると壁のレリーフには悲惨な日本の侵略の様子が描かれており、またツアーガイドの金さんが懸命に訳してくださった銘文も非常に重い内容だった。そのような公園が街中の一角にあるということが、私の中では衝撃だった上に、この日本の侵略に関する気持ちというのが韓国の人々の日常に当たり前に溶け込んでいるものなのかと、少し暗い気持ちになった。公園の中には寒い中集まっている老人の方が多くいらっしゃった。何故こんなに集まっているのかと森山先生に尋ねた際にもこの場所が落ち着く場所であり、懐かしさを感じる憩いの場所であるのだろうというお話を聞いた。やはり被害国と加害国の歴史への意識の違いが現れているのかな、と感じた。

4. フォーラムに対する総合的評価

私は夏の日韓セミナーにも参加したが、今回のフォーラムもまた新しい発見や新しい友達に恵まれたものになった。韓国の友達が増えるほど、韓国に対する気持ちが強くなってゆくのを感じた。発表に関して、時間が短かったこともあり議論の時間が少なかったことが少し残念だった。しかしそのような状況の中だからこそ少しでも自分から韓国のバディや友達と話をしよう、質問してみよう、という積極的な気持ちを持つべきだったとも思う。こういう話をしてもいいのだろうか、デリケートな質問なのだろうか、と考えて話しかけることをためらうのは、日本人の良くないところだという先生から受けた指摘も、その通りだと受け止めた。今回一緒にフォーラムに参加した先輩方の話を聞いていると、自分と同じフォーラムに参加していてもより多くのことを考え、感じ取っている部分があるように感じた。そのような意見を聞き、お話をする機会もぜひ作りたいと思った。金さん含め、多くの人がこのフォーラムをより良いものにしようと奔走してくださっていたのが本当にありがたかった。その一方で自分が受け身になりすぎているようにも感じ、優しさに甘えすぎるのは良くないと思った。もう少し自分たちの足でバディの子たちとプランを練って訪れるという時間があっても良かったと感じた。また、パワーポイントを使った発表は議題の提示には効果的かもしれないが、その発表を聞いているときよりも質疑応答の際の方が活発で面白い議論ができたように思うので、話し合いの時間、それも少人数のグループで議論をする時間を増やすのも良いと思う。

改善すべきだと思う点はあったけれど、フォーラムによって感じたことは自分の貴重な体験になっており、また自分から動くことの重要さにも気づくことができた。このフォーラムをきっかけと捉えて、このフォーラムで感じたことや得たことを、どのようにこれからに活かすのかを大切にしたい。

交流をとおして変わった韓国への意識

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

私たちのグループは「日韓交流を阻んできたもの」というテーマで安倍談話についての日韓の各新聞社比較をして発表しました。新聞社を比較対象としたのは一般の人が日常的に目にする情報源であり、それにより世論が形成されると思ったからです。談話の内容から派生した慰安婦問題のディスカッションでは、そもそもの日韓の認識がずれていることを放置したままの解決は難しいのではと思いました。まず加害者である日本では近代史の分野は受験の知識だけを詰め込むのでその背景などは流されてしまうことが多い、一方の韓国では教科書とは別に補助教材まで用いて教育をする。また、首相の靖国神社参拝問題も韓国ではＡ級戦犯を英霊として崇め、戦争自体を肯定しているという認識が一般的であると感じました。日本人の私からすると、首相の参拝はむしろ戦死者や遺族への追悼や二度と戦争を起こしてはいけないという決意のように感じ、なぜそんなに問題視するのかと疑問に思っていました。しかし今回のディスカッションでは、まず神社にはＡ級戦犯以外にも戦争の犠牲者も祀られているということが韓国側の視点にはなく、ひとつの出来事は国が違えば、出来事の背景が違えばこんなにも受け取り方に偏りが出てしまうのだと実感しました。

2. 韓国人学生との交流からの学び

私は外国人との交流ははじめから積極的にいくべきだと感じました。最初のバディの女の子は私が想像していた「積極的で感情をストレートに表に出す韓国人」というイメージとは異なりとても控えめな人でした。日本人だと初対面であれこれ質問攻めすると「詮索好きだ」と思われてしまいがちなため、様子見で相手を探ることが多いと思います。私も普段は聞かれたら答える程度だったので観光名所についての話はしたけれども、積極的に会話をすることができませんでした。しかし、言語はリードしてもらっているぶん交流のアプローチは自分から積極的にいかなければと思い次のバディの２人とは進んで話しかけるようにしました。その中で感じたのは、受け身の姿勢のときには感じられなかった言語の壁であり、そのもどかしさを超えた交流の楽しさでした。

日本人と韓国人の国民性は対照的と考えられていますが、今回実際に交流してみて日本人と近いと思う点もあり、とても親しみやすいなと感じました。消極的とされる日本人もみなそういうわけではないので、一概に固定的なイメージは交流の妨げになると感じました。「違い」というよりも表現の「程度」が違うと考えると、両極端にあるものがより近づくことができると思いました。

3. 観光からの学び

ソウルでは MBC WORLD で映像技術やＫ－ＰＯＰカルチャーに触れ、慶州では博物館や仏国寺に行き芸術・歴史を感じることができました。釜山では日本と一番近い都市として、特に日韓関係にかかわる朝鮮通信使博物館や独立運動がおこったパゴダ公園などを訪れました。パゴダ公園には当時の様子の文字が彫られた銅板があり、ガイドの方が翻訳してくださいました。日韓のあいだで大きな確執となっている歴史問題ではありますが、実際に韓国ではどのように描写されているのかを自分の目で確かめることができました。日本にいながら韓国の立場で考えるということはとても難しいことであり、今回韓国で日本から

の視点でしか見ていなかったことを逆の視点からも見るという経験ができました。このことは諸外国の問題を考えていくときに、日本からの視点を絶対とするのではなく別視点から捉えることはできないかと考えることに役立つと思います。

世界で唯一の国連墓地では、今まで見てきた日本―韓国という関係ではなく世界の中の韓国について知ることができとても印象に残っています。朝鮮戦争には多国籍軍が派遣されたことは知っていましたが、こんなにもたくさんの国が参加して死者がでた戦争だったのだと掲揚されている国旗と一面に並ぶお墓の数を見て驚きました。またお墓に彫られている名前などを見ると若者の数がかなり見られてとても痛ましい気持ちになり、韓国で平和について改めて考えるきっかけとなりました。

韓国の観光で感じたことは自分の目で見ること、体験することが何より大事であるということです。特に国連墓地では今までの教科書上の知識が本当にちっぽけなもので、知った気になってしまいそれ以上考えなくなってしまっていたと感じました。実際に立ってみると雰囲気や墓地の景観から感じるものがあり、これは日本にいては得られない貴重な経験をすることができました。

4. フォーラムに対する総合的評価

このフォーラムで一番大切にしたい思い出は学生との交流でした。個人旅行だとなかなかその機会がないので韓国に友人が出来たことで、韓国により親近感がわきましたし、相手国の言語や歴史についてもっと勉強したいと思えました。日本と外国の問題を私たちは学校でも習ってきてニュースなどで日常的に目にしますが、やはり実際にその国に行って友人ができると出来事の感じ方が全く違うと感じました。実際に私はこのフォーラムに参加する前はニュースで流れる「韓国」というワードを聞き、また日本と何かあったのかと流す程度でした。しかし私たちが帰国してすぐに日韓の慰安婦合意の報道がでたときはやはり無意識に引き寄せられるような感じがしました。ひとりひとりにバディがつくことで素朴な疑問も気兼ねなく聞くことができ、観光をして一緒にご飯を食べることでより仲を深めることができたなと思います。今回のフォーラムでは大部分の時間を韓国のバディと過ごすことができた日程でとても満足しています。今回は韓国の日本語学科の学生ということで言語の面ではかなり韓国の学生にリードしてもらいました。あいさつや自己紹介程度は自主学習しましたが、やはり言語は数か月で取得できるというわけではないので相手が日本語を話せるということでディスカッションや交流が成立したと思います。一方で言語の違いから意思疎通が難しいときや、伝わらなくてもどかしい思いもしましたがそれは今後の語学学習や韓国についてもっと知りたいという意欲になりました。フォーラムに参加することが決定してから出発までの準備期間が短かったため、時間は取れなかったのですが韓国の歴史・文化について学習することができればより深いディスカッションになったのではと思いました。私自身、慰安婦問題と靖国参拝問題は発表内容とは違っていたのであまり詳しく調べることがありませんでした。ディスカッションでは専門用語がでてくるなど難しい内容のときもあり、意見を発表する前の「理解」の部分に時間がかかってしまいました。この悔しさも次の日韓の交流までの課題として勉強していきます。

歩み寄ること

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

「文化を理解することはできない。できるのは、お互いが歩み寄り協働することだけだ。」この言葉は、最後に訪れた大学、釜山外国語大学の〇〇教授の言葉で、特に印象に残っている。普段私たちは、大学生活でも日常生活においても、「多文化理解」「異文化理解」などと「理解」という言葉をよく口にする。しかし、一体理解するとはどういうことなのだろうか。言葉の意味を改めて考えてみると、私がこれまで使っていた「理解」というのは、ただきれいな言葉でまとめただけで、理論的で現実味のないものだったと感じた。より実生活に落とし込み、歩み寄るという姿勢を大切にしなければならない。歩み寄るためにまず必要なことは、相手を尊重する心。そして、知ろうとする姿勢ではないだろうか。このフォーラムでは、韓国人学生とともに様々な経験をし、いろんな角度から相手のことを知ることができた。歩み寄ることが実践としてできたと感じる。

私のチームは最後に訪れた釜山外国語大学で、日韓の未来に向けて「日韓音楽フェスティバル」開催の提案をした。発表を終え、質疑応答を進めるなかで、自分たちが考えてきた企画案がどんどんブラッシュアップされ、現実味の帯びたものになっていく。異なるバックグラウンドを有する人たちとの協働は私にとってとても興味深く、また、そこから生み出されるものは可能性に満ちており、このような経験を積むことでより広い視野が持てると思った。

2. 韓国人学生と交流からの学び

韓国ではお茶碗を持ってはいけないと聞いたことがあったのだが、食事をしている時にそのことについてバディの子に聞いてみると、最近では持っても行儀が悪いということはない、と言っていた。時が経つにつれて風習や人々の考え方は変化していくもので、それは当たり前のように思えるけれど、そのことに気づかず、ステレオタイプ的な考えに囚われてしまうことがある。ネットや本で読んだことを、自分の目で確かめることの大切さを学んだ。

ある大学では、私もバディもそれぞれ韓国語、日本語があまり分からず、私たちはネットの翻訳機能を使いながらコミュニケーションをしていた。もちろん話せるに越したことはないけれど、こうした方法で乗り越えることもできる。これまでは言葉がネックで、大学などでの国際交流の場に参加する勇気が出ないこともあったが、多少回り道でもいろんな手段を使えば必ず相手に伝わるもので、そこから得られるものは非常に大きいと感じた。

フォーラムでは、韓国人男性と話す機会も多く、兵役に関する話をたくさん聞くことができた。彼らの率直な思いが聞けたのは良かったが、冬の訓練や上下関係などは、想像以上に過酷なもので驚いた。韓国の抱える外交問題や国際平和について考えるきっかけとなった。

3. 観光からの学び

観光で訪れた景福宮や仏国寺は、その建物の色使いがとても鮮やかで日本との違いを感じるものの、一方で造りや雰囲気において共通点も見られ、朝鮮通信使がかつて日本を何度も訪れたように、古くから交流があったことを肌で感じた。当時は海路での日本往来はひどく険しいものであり、危険を伴うことだったはずである。そんな中でも、そうした困

難を乗り越えて築き上げた両国の関係が今現在このようになっていることは非常に残念なことだと感じた。また、慶州にある仏国寺を訪れた際には、豊臣政権寺の文禄の役によって建物のほとんどが焼失してしまったと伺い、何も知らずに訪れたことを恥じるとともに、後に世界遺産となった仏国寺や石窟庵を、同じ文化の起源を持つアジアの一国として、ともに守っていく必要があると感じた。

また、韓国のＩＴ産業の発達はめざましいものであり、日本にもあればいいと思うような発見がたくさんあった一方で、路上のゴミや下水道の整備など、公衆衛生の面では遅れも感じた。それぞれ得意分野の異なる国であるからこそ、互いに協力する意味がある。歴史問題や政治問題ばかりが取りざたされがちだが、両国の未来のためにそうした分野での協力も考えていく必要があると感じた。

4. フォーラムに対する総合的評価

改善点として、フォーラムのテーマでもあった「過去・現在・未来」を最終的に３つの大学で共有できたら、より連続性のあるものになったのではないだろうか。また、日本に特別興味のない（日本語科に所属しない）学生や、あらゆる世代の人たちとの交流を取り入れることで、また違った視点からの意見を聞くことができたのではないだろうか。

しかし、総じて４都市３大学を巡った今回のフォーラムでは、交流はもちろん、観光や食事、自由時間など、非常に中身の濃い 10 日間であった。このような機会に恵まれたことを嬉しく思うとともに、今フォーラムに関わってくださった全ての人に感謝したい。

個人的な課題としては、事前知識の不足が挙げられる。日韓の政治的・歴史的問題の存在は知っていても、それに関する知識がほとんどない、また知識がないことにも気がついていなかったという場面が何度もあった。語学に関しても、事前学習が不十分であったことに加え、現地でも韓国側の学生が日本語を話せることに甘えてしまい、学ぶ姿勢が足りなかった。いつか再会できたときにはより充実した交流ができるよう、この後悔をこれからの学習にしっかりと活かしていきたい。

新しい韓国の発見

1. ３大学でのフォーラムにおける学び

今回のフォーラムではソウル・大邱・釜山でそれぞれ日韓関係における過去・日韓お互いの文化の魅力・日韓関係のこれからについて発表を行った。それぞれにおいて自分が学んだことや感じたことを書いていきたいと思う。

ソウル（日韓関係における過去）：私は今まで従軍慰安婦問題や靖国神社問題については私とは関係のないことだと思い、考えずにいた。しかし、このフォーラムに参加した日韓両方の私と同じ世代の学生たちは日韓関係における過去についてとても深く考えており、日韓の関係を良くしていくためには今を生きる私たち世代が日韓関係の過去についてもっとよく考え、お互いが納得するまで話し合うことが必要不可欠だと思った。また、発表を聞いて、メディアの意見を鵜呑みにしてしまうのは間違ったことであると改めて感じた。これからは、自分自身が韓国へ行き、現地の人と触れあって得た情報とメディアから発信される情報とを照らし合わせて正しい情報の取捨選択をしていきたいと思った。

大邱（日韓お互いの文化の魅力）：私は大邱の啓明大学で日本の衣食住についての発表を行った。私は衣食住の中の食について調べ、特にこの発表の時期がちょうど年末ということもあり日本のおせちについて発表をした。私が発表して驚いたことは韓国人学生の日本文化に対する知識の深さである。発表後の質疑応答では予想外の難しい質問をされて、韓国人学生が日本文化について日本人よりも知っている場合があるのではないかと感じた。また、啓明大学側の発表では韓国の文化である河回別神グッタルノリと韓服について紹介してくれた。また、韓国人学生は日本の漫才を披露までしてくれた。お互いがお互いの文化の良いところを理解し合い、認め合うことはこれからの日韓関係をさらに良くしていくためには避けては通ることのできないことではないかと思った。加えて、自国の文化を調べ、発表することで自分はまだ日本の良さを知ってはいないのだと自覚した。海外との交流においても自分の国をよく知っていることは必要条件であるのでこれからは他国の文化に触れるだけでなく、自国の文化にも積極的に触れていきたいと感じた。

釜山（日韓関係のこれから）：ソウルで日韓関係における過去、そして大邱で日韓お互いの文化を紹介し合い、最後に釜山で日韓関係のこれからについて発表をした。釜山外大のほとんどの学生たちは将来、日本で働くことを目標としており、何人かは日本での就職が決まっていた。そのため、釜山外大でのフォーラムでは日本と韓国を比較した経済や、韓国人学生が日本企業に望むことなどが話し合われた。私は韓国では職場の先輩から頼まれ事をした場合は有無を言わさず、「アルゲッスムニダ！！」（承知しました！！）と言うと聞いていたため、韓国は日本よりも縦社会が厳しいと思っていた。しかし、韓国学生は私たちとは全く逆のことを感じていて、日本の上下関係の方が厳しいと思っていたのだ。このことはとても私にとって驚きであった。また、韓国はモノだけではなく、芸能人やアイドルなども輸出品として海外に売り出すということを聞いてそれも関心が湧いた。確かに、韓国の芸能人やアイドルは日本にいても目にすることが多いが、韓国にいると日本人をテレビで見ることは無かった。韓国は日本に倣って経済成長してきたわけであるが、日本も韓国のそういった点を真似ることも必要なのではないかと感じた。

2. 韓国人学生との交流からの学び

韓国人学生との交流から驚いたことは韓国人の方々の厚いおもてなしの心だ。日本の評価されているおもてなしとは少し違う、少しおせっかいにも似たおもてなしの心だ。最初はその強引さに戸惑ったが、多くの韓国人学生と接していくうちにそれが段々と心地よくなっていき、自分の心境の変化にとても驚いた。

次に驚いたことはかん億人の愛情表現の仕方だ。韓国人は日本人に比べ、積極的に愛情表現してくる。私のバディをしてくれた学生は出会ってすぐに手をつないできた。これは韓国では普通のことのようだ。確かに周りを見てみると同性、異性関係なく手をつないでいる韓国人がたくさんいた。そう言った自分の感情を素直に表現するような文化は日本ではあまり見られないため、新鮮でとても良いことだと思った。

3. 観光からの学び

今回、私たちはソウル、大邱、慶州、釜山を巡ったが、ソウル以外の都市に行ったことの無かった私にとってはすべてが新鮮な観光となった。特に印象に残った都市は慶州と釜山である。

韓国の京都とも呼ばれる慶州は韓国ドラマに出てくるような古い造りの建物が多く、日本にもあるお店との比較をするのが楽しかった。また、古墳公園や博物館では韓国人ガイドさんが丁寧に説明してくださったため、昔の韓国も深く知ることができた。

釜山の朝鮮通信使歴史館では、歴史を学んでいなかった私でも簡単に理解できるような設備や説明があり、戦前の日本と韓国のつながりを楽しみながら知ることができた。

4. フォーラムに対する総合的評価

＜良かった点＞

・色々な韓国を発見できた点

私は以前から韓国の文化に興味を持っており、国際交流や旅行を通して何度か韓国へ訪れていたが、フォーラムでは初めての体験がたくさんあった。旅行目的で韓国へ行くとなるとどうしても日にちが限られてしまうため、今までソウルにしか訪れたことがなかった。しかし、今回は 10 日間という比較的長期での滞在であったため、ソウル、大邱、慶州、釜山の４都市で韓国の文化を体験できたことがとても良かった。同じ韓国内であっても、その土地で売っているものや食べ物が異なるのはもちろん、人間性までもが違うように感じた。このような発見はこのような大きなフォーラムだからできたことだと思う。

・日本人学生とも深く交流できた点

フォーラムへ参加するまでの授業＋10 日間の韓国滞在によって韓国人学生とだけではなく、普段は決して交流することのできない他学科、他学年の方々とも仲良くなることができた。

＜改善すべき点＞

・日本人学生が韓国語の勉強をせずフォーラムに参加してしまった点

実際の韓国の大学とのフォーラムでは韓国人学生も日本人学生も主に日本語を使って交流した。高校から韓国語に触れていなかった私にとってほとんど日本語だけで過ごすことができるのは助かったが、今回は日韓国交正常化 50 周年を記念したものであったため、少しは日本人学生側も事前に韓国語を学習する時間を取り、日本人として誠意を見せるべきであったように思った。

・具体的な日程が示されていなかった点
　フォーラムのしおりには大雑把なタイムスケジュールは記載されていたが、詳しくは書かれていなかったため、戸惑っている学生が多数いた。

＜総合的に＞
　私はバディに日本についてどう思うかを聞いたとき、「日本は近くて遠い国」と言われたのがとても印象に残っていた。昔から韓国が好きで韓国の文化にも関心のあった私にとってはそのような感覚は無かったが、それが歴史上支配した国・された国の感覚の違いなのではないかと考えた。このような感覚の違いは現在の日韓関係にも表れており、最終的な日韓関係正常化が実現するにはこの感覚の違いが解消されることが必要なのではないかと思った。このフォーラムによって私は日韓関係について、そしてこれから私たちの世代がどのような行動をとっていくべきかを深く考えることができた。それが日本に住む友達や家族に発信していきたいことであり、私にとって一番の収穫でもあった。

【フォーラムを終えて（韓国側学生）】

同徳女子大学校

今回、お茶の水女子大学国際交流会に参加することができて、本当に楽しかったです。二日間という短い時間でしたが、いろいろな経験、いろいろなことについてたくさん話し合えたので、本当に充実した二日だったと思います。一緒にソウルを観光しながら、日本と韓国の違うところや同じところなど、いろいろなことについて話し合ってみたら、意外と日本と韓国はあまり違わないと感じました。同じ大学生同士なので、そう感じたかもしれませんが、会話を通じてもう少しお互いについてわかるようになったと思います。また、お茶の水女子大学の皆さんの発表を見て、日韓関係についてもう少し深く考えられるようになりました。韓国と日本の間には、まださまざまな問題が残っていると思いますが、今回の国際交流会のように両国が話し合える機会が、ますます増えていくと、解決することもできると思います。今回の交流会を通して、日本のことはもちろん、日韓関係についてもいろいろなことを学ぶことができました。

セミナーに関するお知らせが出た際に、とても参加したいと思った。しかし、日本語でコミュニケーションをしなければならないことが少し負担だったので悩んだ。幸い、友達の助けで無事にセミナーを終えることができた。セミナーの最初の日には、寒い天気に景福宮とＭＢＣ放送局を見学したために少し大変だったけれど、すぐ別れるのはとても悲しくて日程が終わった後、友達と時間をもっとすごすことにした。あちこち歩き回ったり、話もたくさんしたりして友達たちともっと親しくなれた時間だった。二日目には教授たちとお茶の水女子大学の友達の発表があった。さまざまな話題について理解して、互いの考えを交流できた意味のある時間だった。迷っていたが参加しなかったら、後悔する本当にいい時間だった。また機会があったら参加し、その時はもっと積極的に活動に参加したい。

私は今回のセミナーに参加していろいろなことを得ました。実は私、日本語が苦手なので「会話できるかな」と心配しました。ですが私のバディーが私を心配りをしてくれました。例えば会話する時、分かりやすい単語を選択してくれたし、ゆっくり話てくれました。そのおかげで私はもっと自信を持って話すことができました。そしてそのように会話をしながら、韓国と日本の文化の違うところも分かることができました。一緒に行った所もそうでした。私も行ったことがない所も、たとえばＭＢＣとか青瓦台とか、珍しい経験をして本当に楽しかったです。発表も日本から来た友達、みんなが本当に頑張って準備したことも、先生の授業も本当に勉強になりました。一つ驚いたことは日本の友達はみんな自分の意見をうまく話していたことです。私はセミナーに参加して本当に大切な経験をしたと思います。初めての日本の友達も、新しく知った知識も、でもその中でもやはり一番はもっと日本に親近感を感じることができたことと日本の観点から韓日関係の中で起こった事件を理解することができるようになったことです。それで今年の夏のセミナーも参加したいです。

私は国際交流に参加したのは初めてなのでちょっと緊張しましたが、お茶大の学生と先生のみなさんがあまりにも親切にしてくださって本当に楽しい思い出を作ることができました。本当にありがとうございました。すこし残念だったのは、うちの学生たちもいろいろ準備してをして発表したらもっと積極的に参加することができたんじゃないかということです。それ以外はとても楽しかったです。日本のネイティブと話す機会がなかなかないから一対一でいっぱいおしゃべりをして日本で多く使われている単語を知ったり間違った表現を直すことが出来ました。それでもっと日本語を話すことに自信を持つようになりました。それに先生の講演を聞いて、こんな考え方をもっている日本人もいるんだって偏見を捨てる、いい機会になってうれしかったです。次もこんないい行事があったら、ぜひ参加したいです。

２日間、寒かったが皆と楽しい時間を過ごすことができて本当によかったです。バディーと一緒に韓国の料理を食べたこと、ミョンドンでショッピングをしたこと、韓国語を教えたり、日本語で頑張って話したことなど、色々忘れられないことでいっぱいです。でも一番心に残っているのはやっぱりお茶大の学生たちの発表でした。現在の韓日関係の問題についてメディアの刺激的な話ではなく、実際に日本人は、特に同時代の日本人はどう思っているのかにいつも私は気になっていたんですが、皆の意見を聞けてとてもよかったです。韓国にあまり興味がなかった人も発表の準備をしながら韓国が分かるようになって、私たちと一緒に過ごしながら韓国が好きになったと聞いて嬉しかったです。もちろん、セミナーに参加した私たちは何の国際的な力も政治的な力もないですが小さな集まりだとしてもお茶大の皆には私たちが韓国代表だからそんないい話を聞いて小さいけど重要な役割を担うことができたと思います。確かに今の韓日関係には様々な問題があります。しかし、このセミナーで私はこれからもっと二国間の交流が深められるし、距離が近くなる可能性があるかもしれないと思いました。短い時間でしたが時間の何倍もいい経験ができて私にとって忘れられない思い出になったと思います。

韓日交流会は本当に有益だった。日本人の友達は初めて会ったのだからすこし緊張したが、活動を通じてたくさん親しくなった。交流会の時の天気は本当に寒かった。しかし、古宮と明洞の見物は本当に面白かった。ＭＢＣの放送局体験も本当に面白かった。また、お茶の水女子大の学生が準備した発表は本当に有益だった。日本人学生と様々な意見を分かち合う機会が初めてだったからもっと良かった。また、日本人友達とおいしい韓国料理を食べたのも本当によかった。韓国食べ物を食べながらその食べ物について紹介もしてくれて日本の食べ物についての話もたくさん交わした。日本文化と韓国文化の違いについて対話を交わしたことも本当に興味深かった。二日間だったが、本当に面白かった。

まず、最初にバディーに会う前、Facebook で自己紹介をした時からちょっとドキドキしていた。だから、はじめて会う日に遅刻をするミスを犯してしまったが、それでも幸いなことに、バディーが良い人で、私が日本語がよく話せなくても、よくコミュニケーションができてよかった。しかし、確かに初日に話をすることができる時間が比較的多く、日本語をたくさんすることができたので、良かった。二日目には、先生とお茶の水女子大学の学生が講演と発表をする時間を持った。始めは比較的敏感ではないテーマだったが、後半部に行けば行くほど敏感で、深刻な話がたくさん出てきて、ますます楽しみではなく、涙

が多くなる事態となった。しかし、確かにそのようなテーマを、日本人と一緒に話してみると、お互いに知らなかった部分も知って、私は悪いと思っていた部分やそのような事の価値観が変わる感じを受けた。二日目には、講演だけでバディーと多くの話ができなくて残念だった。もし、このような行事を、またもう一度どすることになったら必ずしてみたい。いい時間で、いい経験になって幸せだ。

去年 12 月 20 日と 21 日、同徳女大学生とお茶の水女大学生の国際交流会に参加した。私のバディーに会う前にはバディーの名前だけしか知らなかったから一人で「私のバディーはどんな人かな」って考えてみた。20 日に景福宮で私のバディーの草刈沙季ちゃんに会った。さきちゃんは優しくてかわいかった。私の日本語が下手だからゆっくり話してくれたことと韓国語で手紙を書いてくれたことに本当に感動した。一緒に買い物をしたり写真を撮ったりした後でご飯を食べながらさきちゃんといい思い出を作った。次の日は学校で先生と学生の発表を聞いた。発表が終わった後でいろいろ考えた。韓国と日本の違いと共通点について理解できた。発表が終わった後で私が準備した韓国のお菓子とラーメンをさきちゃんにあげた。さきちゃんが感動したと言ってくれてわたしもうれしかった。短い時間だったけどさきちゃんと大切な思い出を作った 20 日と 21 日は忘れられない時間になった。

私のバディーは中川舞子さんでした。私は高校時代、ユネスコ会で参加した交流会の以来、大学に来てからは初めて参加したお茶大との交流会は、私にとってとても素晴らしい思い出と経験になりました。景福宮も小さい頃行っていましたが、ＭＢＣワールドは私も初めてだったので観光客の気持ちで観覧しました。景福宮ではガイドさんの分かりやすい説明で私にもとても勉強になりました。ＭＢＣワールドで放送局のいろいろなことを体験しながら一緒に写真をたくさんとりました。とても楽しかったです。二日目の発表では普通はけっこう話し合いにくい敏感なテーマで両国の大学生たちが持っている価値観とか認識が少しは分かる気がしました。短い間だったけど、いろいろ楽しかったです。また交流会に参加できる機会ができたら参加したいと思います。

２日間、お茶の水女子大との交流会を通していろいろな経験をした。特に私の日本人のバディーと話し合ったことが一番思い出す。交流会が始まる以前からＳＮＳで様々な話をしましたが、これがもっと身近になる機会になってよかったと思う。実際に日本人と話す機会は授業しかなかったということが、この交流会に参加する理由だった。２日という短い時間だけど、この交流会を通じて日本人と最大限にたくさんの話をすることが私の目標だった。もちろん私が話したいことは 100%話すことはできなかった。でも、私の知っている単語を最大限に使おうと努力した。もし私が間違ったらバディーが直してくれた。でも、私が話すより相手の話すことを理解するのがもっと難しく感じた。私が知っている単語だけど、どうして難しく感じるかなって思った。たぶん「アクセント」と「イントネーション」が原因じゃないかなと思った。で、日本のドラマとか映画をたくさん接するのが大切だと思ってバディーにいろんなものを勧めてもらった。また、印象的なのは「日本人の積極的な態度」だった。私は普通「日本人は消極的だ」と思っていた。でも、今回の交流会の発表時間に自身の意見を落ち着いて話す日本人の様子を見てから私の考え方が変わった。来年、交流会にまた参加したい。そしてより積極的な私を発見したい。

韓国でお茶大の学生たちと 2015 年 12 月 20 日から 21 日まで二日間、韓日交流プログラムに参加しました。初日には景福宮と上岩（サンアム）ＭＢＣを見学して、明洞でショッピングをしました。ガイドの詳しい解説を聞きながら、景福宮を学ぶことができて良かったし、国籍を離れて女子大生らしく、共に化粧品も購入して幸せな時間でした。二日目には私たち、同徳女子大学でお茶大の学生達が準備した学術発表を聞きました。慰安婦、独島、神社参拝など敏感で具体的なテーマの韓日問題について両方の意見をすべて出し合って見られたから良かったです。プログラムの内容も良かったけど、日本人の友達と会えたことが一番記憶に残っています。私のパートナーは私達が出会った初日、お会いできて嬉しいと言い、私に鏡と化粧品、贈り物をくれました。反面、私は何も準備しなくて、すまないと思い、またありがたく思いました。そしてまた、他の日本人の友達は初日に私がお酒が好きという話を聞いて、次の日に私に日本のお酒をプレゼントしてくれました。同じクラスの友達もいなかった友達が私のことを考えてくれて感動でした。今回の交流会に参加し、韓日双方の意見を聞いて正しい歴史観を確立できたし、日本の学生たちの温かい情を感じることができて幸せでした。

参加する前にはすこし軽い気持ちで参加を決めました。セミナーの日がどんどん近づくと私が会話ができるかなとかで不安になりました。景福宮ではじめて会ったバディーはとても親切でした。韓国に関心があって初対面だったけど話題がたくさんありました。会話の実力が足りなくて変な日本語を使ったり、文法が違ったりしても良く理解してくれてありがたかったです。一日中体験したり見たりしてずっと一緒にいる時間にいろいろな話をしてもっともっと親しくなりました。

次の日に韓国と日本の国際的な問題を一緒に考える時間はよかったです。両国の立場を理解できたし政治家ではなく一般市民の意見を聞くことができました。日本の友だちの発表を聞いていろいろなことを考えました。お茶大のみんながやさしくてすこし日本の人に持っていた偏見をすてました。今度の経験で夏休みのセミナーにも参加したくなりました。日本語の勉強を頑張って会話が上手になるように努力するつもりです。

参加を申し込む時はただ面白そうに見えて参加を決めました。日本の女子大生に会うのは生まれて初めての経験ですごく楽しみにしていました。そして、運悪く集中講義の中間テストは国際交流会の次の日でした。それでとても大変な交流会でした。国際交流会の初めの日も終わりの日も寝られずテストの準備をしながら参加しました。それで、私のバディーさんにもとても申し訳ないです。一緒に遊びたかったんですが両日間家に早く帰ってしまいました。でも短い時間でしたが、今年あった事の中で一番記憶に残ることになりました。二日間日本語でたくさん話しました。生まれてこんなに日本語でしゃべった事は初めてでした。家に帰る時も我知らず日本語で話しました（笑）。討論の時もお茶大の皆はすごかったです。その国際交流会の影響を受けて次の夏の国際交流会にも、諦めた国際交流の件も考え直して申し込みたくなりました。私も日本で日本の勉強をしてみたくなりました。短い二日でしたが、とても印象に残っている経験でした。

私にとっては学校でセミナーに参加するのは今回が初めてでした。夏にも参加したかったですが、サークル活動のせいでできませんでした。日本人の友達に初めて会うわけではなかったのに、すごくドキドキしました。私のバディーは柳下あかりさんでした。最初、

景福宮で会った時は人見知りの私なのですごく気まずい時間でした。でも、あかりさんはすごくいい人で私が日本語を間違えでも私の気分が悪くないように優しく直してくれました。それに、私の言う事を笑って聞いてくれました。本当に嬉しかったです。二日目にお茶の水女子大学のみんなの発表を聞きました。お互いにとってかなり敏感な問題になるのにみんな一生懸命準備してくれて感動しました。また、あかりさんにはかなり興味深い時間だったそうです。いろいろ質問を聞かれて答えて、楽しい時間でした。最後に一緒にサムギョプサルを食べました。同じテーブルに座った小山さんとも楽しく話して、二人とも美味しくサムギョプサルを食べてくれて嬉しかったです。また、会える機会があればいいと思います。

この国際交流会は私が同徳女子大学校に入学してから初めて行うことだった。この国際交流会を通して学校で１年間学んだ私の日本語の水準を確認できた。初めてだから心配になりました。でも、バディーに会えて心配より喜びが多かった。私のバディーは韓国の文化にかなり関心があった。おかげですぐ親しくなれた。国際交流会で一番心に残ったことはバディーと一緒にフリータイムを過ごしたことだった。日本人と話すことはまだ私に難しかったけど、今度の交流を通してたくさん習った。直接日本人の言語の抑揚を聞いていい経験になった。

２学期が終わって冬休みを迎えて、数日が過ぎたある日、日本での友達が韓国に来た。お茶の水女子大学の人々の中では、韓国に来るのが初めてだった人はもちろん、何度も韓国に来たことがあった人もいた。その中で私のバディーは中村江里子という名前の友達で、今年の夏に行った韓日大学生国際交流セミナーでも一緒に参加したことのあった同じ年の友達だった。えりこちゃんの積極的な連絡で、韓国で会う前に、ＳＮＳを通じて、話もできたし、より多くのことを知る機会になった。今年の夏には、見学することが出来なかった景福宮や上岩ＭＢＣ放送局を訪問することになって、とてもおもしろくて、楽しいと言われてやりがいがあると感じた。特に、えりこちゃんは韓国の文化にとても関心を持っていて、会話をするたびに、「どうしてこのようなこともを知っているんだろう。」と感じるほど、私を驚かせた。一日中、ソウルのあちこちを回って見た時がすごく短く感じられ、すべての日程が終わった後も、一緒にいたい気持ちで、明洞を歩き回ってみたけれど、名残は消えなかった。韓国が好きで、愛する心があまりにもよく感じられるえりこちゃんに、韓国人としてありがたい気持ちがいっぱいになった。そして、上手ではない私の日本語をじっくり聞いてくれて、理解してくれる、えりこちゃんの姿がとてもきれいに見えた。二日という、本当に短い時間だったけど、着実に連絡しながら、今後も、この縁を続けていく、良い友達を作ったと思っている。

まず、生まれて初めて学校で行われる国際交流会に参加することができて、期待する一方で、すごく緊張した。今まで「私と日本人との交流」といえば、先生との関係が主になっていて、またはペンパルを通して知り合った日本人や、高校時代「知り合いの友だち」の形で何回ぐらいしか一緒に付き合ったことしかなかった。なので「私と日本人との交流」と言えば、ほとんど私より年上のケースが多かった。それで、今回の国際交流会を通して一番いい経験になったのは、まず、同じ年の日本人の学生たちとのコミュニケーションができたことだった。私のバディーもすごく親切だったし、お茶の水女子大学のみんながす

ごく親切だった。また、バディーと両国の「芸能人」という共通の関心事があったため、短時間だったがたくさんの話し合いができて、すごく楽しかったし、また、どんなテーマについても気軽に話すことができて楽しかった。二番目は、日本の学生さんたちの発表がすごく印象的だった。敏感なテーマにもかかわらず、お茶の水女子大学の学生さんたちが真心を込めた発表をしてくれてすごく印象的だった。また機会があれば是非参加させていただきたいです。お疲れ様でした。ありがどうこざいます。

20 日と 21 日の二日間、とても　貴重な経験をしました。まず、20 日はソウル観光をしました。ソウルのいろんな所を観光しながら、私のバディーとたくさん話しました。同じ年ごろの日本人とこんなにたくさん話すのは初めてだったので、ちょっと心配しましたが、私のバディーがとてもやさしくて不安な気持ちはいつの間にか消えました。また、色々な日本語の表現を教えてくれたり、一緒に写真もいっぱいとって　忘れられない思い出になりました。本当に楽しかったです。そして、21 日にはセミナーが行われました。先生たちの講義とお茶の水女子大学の学生たちの発表がありました。その時、もっとも良い経験になったことは交流会の司会をつとめたことです。緊張もしたけど、みんなが集中して良く聞いてくれてとても嬉しかったです。私の日本語の実力向上にも役に立った気がしました。またこんな機会があったら、もう一度参加したいです。

今回の交流会で学んだことはたくさんあります。私のバディーのしずこちゃんと初めて出会って話しながらいろいろなことを考えるようになりました。私はもともとしずこちゃん以外に他の日本のお友達がたくさんいたけど一度もまともに歴史とか経済について話したことがありませんでした。でも今度は違いました。お互いの国の問題についてちゃんとした会話をしました。この会話をしながら本当に心から熱い何かを感じました。それはこんな事になってしまった現実を変えよう！とお互い感じたからだと思います。それと似たように見えるが、実はちょっと違う文化を比較しながら話したことも記憶に残ります。韓国ではサムと言う、付き合うまでの関係を説明する言葉がありますが、しずこちゃんはこれについて不思議そうで日本はそんな概念がないと言っていました。それからも他の単語も比較したりしました。ただこんな小さい単語でもいっぱい話せる事ができるなんて嬉しくてますます日本が知りたくて早くも日本に留学したいと心から思いました。これからもこのような機会があったら絶対参加するしもっと深い会話ができるように日本語を頑張って勉強したいと思います。

12 月 20 日に景福宮で初めて会った。初めてであったので言葉は交わさなかった。実はどんな言葉を話すべきなのかわからなかった。景福宮のいろいろなところを見物したり、写真も取ってからちょっと親しくなった。あとで、趣味や専攻や好きな歌手など色々なことについて聞いた。そしてわたしがその週に大阪に旅行した時にもっとたのしく話すことができた。明洞に一緒に買い物もしたり化粧品も見物しながら韓国と日本の大学生のスタイルについて話した。それから次の日の学生たちの発表は上手だった。私は一度も考えたことがなかった主題について発表していろいろな学生の意見について知ることができる機会であったため意味のある時間だった。日程が終わる時は本当に名残惜しかった。でもいろいろな　　ＳＮＳを通して連絡するつもりだ。これからもこの交流に参加していろいろな日本の友だちと付き会いたい。

最初の日にはお茶大の学生たちと一緒にソウルの各所を見物した。まず景福宮に行った。ガイドの案内を受け、景福宮を見ながら写真も撮った。昼食を食べて上岩（サンアム）ＭＢＣに行った。私も、放送局に行ってみたのは初めてだから目新しい、色々な体験をしながらバディーともっと親しくなれた。その後、明洞に行って見物とショッピングをしながら晩御飯を食べて家に帰った。二日目の行事はうちの学校で行われた。まず教授たちの講演を聴いた。そして学生食堂で昼食を食べてお茶大の学生たちの発表を聞いて質疑応答をした。私のバディーは釜山で発表をする予定であったため、バディーの発表を聞くことができなかったのが少し残念だった。まだ日本に行ってみた事がない私としては日本人の先生方を除いて日本人と会話する機会がなかったが、短い時間だったが、日本の学生たちと対話できる機会が出来てよかった。そして今回の国際交流会を通じ、韓日両国の問題について韓国の学生たちと日本の学生たちの意見を聞いて、その違いについて知って対話できるよいチャンスだったと思う。

初めて参加しましたから、楽しみでドキドキしました。私のパートナーは私より１才上のお姉さんでしたが、韓国語をぜんぜん知らなかったので、私達の言語は日本語でした。実は私はもっと日本語の勉強ができると思いましたから、悪いとは考えず不便じゃありませんでした。難しい単語があれば、私達は辞書を利用しました。この時は私のパートナーにすまないと思いました。他の韓国の学生がパートナーであったらもっと楽だったであろうからです。そのため、もっと優しくしようと思いました。景福宮とＭＢＣに行き、様々な体験をしました。明洞で買い物をしましたが、私が友達と日本に行った時、何を買うのかがわからなかったようにパートナーも私と同じだと思いました。それから有名な製品を紹介しました。２日目はセミナーをしましたが、日韓問題が主題でした。韓国と日本と一緒にいる席で難しい歴史や慰安婦の問題について話しました。それに日本の学生が涙したり悲しむ姿を見ましたが、日本の学生の韓国と日本と関係を改善したいのだと思いました。また、ニュースの日本はただ政府の姿だと思いました。今度の交流会は、私に日本人の友達を作ってくれました。また、日本の偏見も消すことができる時を過ごすことができました。

日本人の友達と遊ぶのははじめてだったからすごく楽しみにしていたけどドキドキもしました。今回の交流を通じて自分で色々なことを確認することができました。第一に、今まで私が勉強したことをどのくらいはなせるか、どのくらいしぜんにはなせるかを確認することができてよかったです。私のバディーは韓国語ができて私が日本語でわからない時は韓国語で言えば私のバディーが日本語を教えてくれて色々な実生活の表現も勉強することができてすごくうれしかったです。私のバディーは韓国語の勉強がとてもおもしろいそうですので私がバディーに「どうして韓国語がすき？」と聞いてみました。バディーはこんな返事をしました。昔韓国語の詩を読んだことがあって、その時すごく感動的だったそうです。そして韓国語で読めるように勉強していると答えました。今度私が日本へ行く時には、必ず韓国語の詩集を持って行くと約束しました。今回の交流を通じて日本と韓国の歴史的問題について討論もしながらお互いの考え方を知ることができたし、私たちもこのような問題の解決に向けてもっと努力しなければならないと考えました。もしこのような交流がまたあればもう一度参加したいです。

12 月 20 日と 21 日の両日間、お茶の水女子大学の学生と交流しながらたくさんのことを学びました。私のバディーは同じ年の 21 歳で、高橋佐和さんというかわいい子でした。20 日の初めの日程は景福宮だったんですけど、日本の学生たちは不思議なように建物をみていて、写真もたくさん撮りました。私も日本の建物が好きなので、その姿に共感をしました。それから明洞に行ってお昼を食べました。クッパを食べましたが、私のバディーはおかずのキムチが辛くて水で洗って食べていました。そんな日本の人が多くて、韓国と日本の食文化の差を感じました。それから、ＭＢＣ放送局の見学にも行って、韓国のドラマ、芸能、アイドルなどを体験しました。夕飯を食べてから、私の友達とバディーたちが一緒にカフェで語り尽くせないくらい話をしました。次の日は私たちの大学で日本の学生の発表を聞きました。いつも考えていることなんですけど、日本人は本当に論理的で理性的だと思います。今回の発表と質問を通じてまた感じました。本当に有益な時間だったので、また今度お茶の水女子大学と交流の機会があったらいいと思います。

今回の交流会は夏休みに参加したセミナーと違ってわずか二日間の短い交流会でしたが、時間が短いからといって、学んだことがなかったわけではありません。短い間だったけれど私たちは親しくなることができ、私たちが下手な日本語で話しても日本の学生たちはずっと話しかけてくれて、プレゼントまでくれました。実は、プレゼントは全然思っていなかったことなので私たちも二日目に急いで準備したため、この点が今でも残念です。交流会の初日はソウルの観光をして二日目はお茶の水女子大学の学生たちの発表があり、初日の観光の自由時間が少なかったことが残念でした。景福宮も一時間程度しか時間がなくて、明洞でも時間がなくてあまり見ることができませんでした。次にまた交流会があったら、そのときは一箇所を抜きにしても場所ごとに少しずつ時間を増やす方がいいと思います。それでも、短い間日本人の友だちと親しくなるいい経験でした。また機会があったら是非参加したいです。

今回初めての国際学生フォーラムであり、２日間という短い日程であったが、自分にとっていろいろ考えさせられる時間になり、たくさんの経験を積むことができたと思っている。初日は、バディーと一緒に景福宮や明洞を見回ったり韓国の食べ物をたくさん食べてりしてソウルを満喫した。特に、放送局で最新技術で作られた３Ｄホログラムの経験はとても楽しかった。二日目は、日本人の学生たちの発表を聞きながら学生同士に意見を交わしたり、話し合ったりして、韓日関係をめぐる歴史と政治的問題に対する自分の意見を改めて考えることができてよかった。普段、このような問題を日本人と話し合える機会がなかったので、私にとってもフォーラムに参加した学生のみんなにとっても大切な時間になったと思う。国際学生フォーラムを通じていろいろ経験を積んだが、何よりもいい友達に出会えたことを嬉しく思い、これからもこの絆を大事にしていきたい。

12 月 20～21 日、二日間の冬のフォーラムでした。私は８月の夏のセミナーにも参加して、夏のセミナーの友達も参加したと聞いて参加しようと思いました。新しい顔と懐かしい顔と皆で楽しかったフォーラムだったと思います。短い期間中に、私たちは景福宮、テレビ局と明洞などで一生懸命遊びました。お茶大の皆さんの発表も印象的でした。韓日関係について色々な意見を聴いたり、先生の講演を聴いたり、友達と話したり、私たちの中で国境という壁がなくなるような感じでした。お茶大の皆さんは言いにくいことも自分の個人

的な意見も自由に話してくれて、本当にありがとうございました。今は私も勇気を持って皆ともっと話したらよかったと思いました。後悔とは違いますが、皆の正直な意見を聞くだけであったことがちょっと申し訳なかったです。フォーラムの最後には森山先生からフォーラムの後でも連絡して関係を終わらないようにすることが大切だと学んで、今もフォーラムで会った友達とは連絡して、また会う約束もしました。最後の日の最後まで新しい友達に付き合って何物にも変えられない縁となりました。それでこの冬のフォーラムは私にとってよい青春の思い出になると思います。

交流会の初日に、私のバディーに会う前はあまり緊張しなかった。しかし、バディーに会った後は、日本語のみで話さなければならないと思って大変だったけど、翻訳機を使って会話の多くの部分を解決することができた。二日目もまだ会話に不便さがあったが、バディーとたくさん親しくなって楽しく活動できた。二日間は短い時間だと思っていたのに、その時間の間にお互いに多くの話を交わすことができた。私は日本語をもっとよく話せたら良かったのにという物足りなさが残った。しかし、本当に良い経験だったと思う。

普段日本の友達をつくる機会がなかったのですが、交流会を通してミクという素敵な友人に出会うことができました。はじめは、言葉の壁や文化の違いのせいで二日間という短い時間の中で仲良くなれるかとても不安でしたが、ミクが日本語を聞き取ろうと努力してくれたり、韓国の文化に興味を持ってくれたおかげですぐに仲良くなることができました。また、二日目に行われたお茶の水女子大学の学生による発表は、デリケートな問題に対する日本の学生の意見を聞く良い機会であったと共に、それについて討論できたことも貴重な経験だったと感じています。発表のために一生懸命に準備してくれたというのも伝わり、提起された問題について改めて深く考えることができました。交流会を通して今まで学んできた日本語を使ったことで、自分の実力もまた再確認することができただけでなく、素敵な友人にも出会えてとても嬉しいです。またこのような機会があれば、積極的に参加したいと思います。

夏に参加した交流セミナーに続き、冬季フォーラムに参加した。夏には慰安婦、神社参拝、独島など、韓日の間に未解決なまま残っている案件について話を交わし、共同声明を作成した。これに続いて今回のセミナーでもお茶の水女子大生たちの発表を聞いていろんな話を交わした。二度のセミナーに参加して思ったのは、韓日両国の間に解決しなければならない問題が残っていて、私たちはこれを解決するために絶えず努力しなければならないということだ。政府は一貫した態度を維持しなければならず、またこのような大学生たちの交流が頻繁になり、両国が協力的で未来志向的な関係を維持できるようにしなければならない。夏に同じグループだった友人たちにまた会うことができてとても意味深く、深い話を交わすことができて良かった。残念だったのは夏のセミナーの時のバディーだった友達がパスポートを失くして今回のセミナーに来られなかった点だ。必ずまた会おうと約束したが、バディーも来られなかったのを惜しんでいた。短い時間だったが、日本の友達と楽しい思い出が積もったようで、胸がいっぱいだ。夏にまたセミナーに参加したい。

2015 年 12 月 20 日から 21 日まで、同徳女子大学とお茶の水女子大学の国際学生フォーラムがありました。私は日本語が下手なんですけど日本の学生と会話をしたり色々活動を一緒にしたかったので、参加しようと思いました。はじめて会った時には、意思疎通がうまくいかなくて大変だったけど、景福宮と明洞など、色々な韓国の名所を一緒に見物しながら親しくなりました。特に、バディーと明洞のフリータイムがいちばん面白かったです。日本の学生に韓国の文化を紹介してあげて満ち足りた思いになりました。そして 21 日には日本の教授と韓国の教授の講演と日本の学生の発表がありました。日本の学生が韓国語でＰＰＴを発表した時には、本当に感動的でした。今度、お茶の水女子大学の国際フォーラムがあったら、参加したいです。

啓明大学校

今回、お茶の水女子大学の学生との交流会は私にとって本当にいい経験になりました。実際会って、話し合いながらお互いの文化を触れてみるのは本当に大事なことだと思いました。現在、韓国と日本は冷たい空気が流れていますが、この時こそ、両国の青年たちの交流会は必要だと思いました。交流会で韓国の伝統音楽について発表させていただきましたが、皆さんが興味を持って聞いてくださり質問も多くしてくださって本当にうれしかったです。また、日本の文化の発表も韓国との差異は面白かったですし、また新しいことも知って大変勉強になりました。短い時間でしたが皆さんと、すぐ友達になって楽しい一日でした。実際、私たちは共通点も多くお互いの文化を尊重しながら学べることができました。小さい動きかもしれませんが、こういう交流会を通じて両国の間にできた壁を崩すことができると信じています。

発表を始める前に両国の参加者の前でこれまでの日韓関係、そしてこれからの日韓関係についておっしゃった森山先生にとても深い感銘を受けました。韓国の伝統文化であるパンソリ、タル、韓服についての啓明大学の発表、日本の衣食住、日本と韓国における相違点と共通点についてのお茶の水女子大学の発表、両方とも興味深いテーマで、素晴らしい発表でした。

私のバディーの発表も聞くことができて良かったです！私のバディーの発表は一番面白い内容だったので、勇気を出して気になっていたことを質問しました。

朝 10 時くらいにバディーと会って、バディーは韓国語ができなくて、発表会の時にもずっとお昼の時間にもバスの中でもチャペルででも夕食の時にも止まっていたホテルででも一日中ずっと日本語で話しました。これが私にはとても嬉しいことで、韓国ではなかなか日本語だけ使ってずっと話す場がないので、良い機会だと感謝しながら、たくさん日本語で話しました。

バディーはとても優しくて話が上手な方でした！私が一番なりたい性格と考え方の持ち主でした！たった１日しか会えなかったけれど、とても良い人だということが分かるくらいでした！私が東京に行ったらまた会いたいです！

バンゴゲ駅の前のホテルについては、バディーの他の何人かとホテルの一階の方にチメックを食べに行って、２次会は近くのスーパーマケットに行ってとても弱いお酒とお菓子を買って部屋でまた話しました。韓国ではお酒のゲームがあって、私はそれを教えました。いくつかのゲームでとても盛り上がりました。夜 11 時になって、私が地下鉄に乗りに行こうとしたら皆がホテルの前まで出てずっと手を振ってくれました。バディーには「ユナが私のバディーで本当に良かった」と言われたのでとても嬉しかったです。

交流会に参加して良い友達と付き合えて大切な思い出を作れました。またお茶の水女子大学との交流会があったら参加したいです！

12 月 23 日に行われたお茶の水女子大学との韓日フォーラムに参加しました。発表を聞きながら今まで知らなかったことについて勉強になったりバディーと一緒にチマチョゴリを着たりしてとても楽しかったです。晩御飯を食べてから日本人の参加者が泊まっていたホテルに行ってたくさん話したりゲームをしたりしました。みんなの明るくて人懐こい性格

で、すぐ親しくなれたし最後にホテルの１階まで私を見送ってくれたことが忘れられません。短い時間でしたが、日本と韓国は文化が全然違うのにこんなに仲良くなれるってことを改めて思うようになりました。今からも韓国と日本が今よりもっと仲良くなれるように努力したいと思います。楽しかったこの機会を作ってくださった先生方に感謝しております。

吉川絢子さんのバディーになりました。絢子に初めて会ったときはすごく緊張し、挨拶も普通にできなかったのですが、絢子からお土産をもらい、年齢も同じだと知って、下の名前で呼ぶことになりました。そして一緒にご飯を食べたり、散歩したりしながらいろんな話をしました。お互いの好きな歌手を共有しつつ、韓国と日本の違うところなどの話を続きながらもっと親しくなったと思います。日本語が下手で話したいことがあってもどうやって話したらいいのかも分からなかった私に「どんな話がしたいの？ゆっくり説明してみて」と言いながら優しくしてくれました。絢子のおかげで私は日本がもっと好きになりました。そして知らなかった日本のこともたくさん知りました。本当にこの交流会に参加して良かったと思います。本当にありがとうございました。

私は今回お茶の水女子大学の友達と会えて本当に良かったと思います。実際、日本の友達と一緒にご飯を食べたり長い間話をしたりする機会はあまりないのに、今回お茶の水女子大学との交流のおかげで親しい友達ができてとても嬉しいです。本当に短い間でしたが一緒に韓国の文化について話したり伝統衣装を着てみることができて楽しかったです。また、お茶の水女子大学の方で準備して来た発表を見て、「韓国と日本は似た文化が結構あるんだ」と感じました。さらに、ただ日本とか韓国の国籍を持ったことだけでお互いを憎んでいる人たちに「日本は韓国とこんなに近いし似ていますよ」と教えてあげたい気分になりました。これは私たちがこれから解決して行く大事な道だと思います。短い時間でしたがお茶の水女子大学の学生たちと良い思い出を作ることが出来て本当に嬉しいです。これからもこんな交流はどんどん増えたらいいと思っています。

お茶の水女子大学との交流会を行った後、私のバディーがパスポートを失ってしまって来ることができなくなって会えなかったことを知りとても残念でした。しかし、朝山優さんと実奈さん、他の友達にたくさん会ってみることができてとても楽しかったです。そして多くの話はできなかったが、他の日本人たちも、自分のせいでもないのに、私の気持ちを考えてくれる姿を見て思いやりが全く深いんだな、他の人をこんなに考えてくれるんだなと感じてとてもありがたいと思いました。ＰＰＴも勉強になったしお笑いもすごく楽しかってたです。短かったが、本当に楽しくて良い時間を過ごすことができて、本当に良かったです。

お茶の水女子大学と交流をして色々なことを感じ、経験することが出来ました。韓国と日本の違いがあって人との交流がお互いにそれぞれに異なった思いやりをするのが印象に残りました。そしてお茶の水の学生の皆様が積極的に発表していたのが印象に残りました。また学生の皆様が韓服を気に入ってくださったようで嬉しかったです。１年生の１学期の時に日本文化の授業で日本の衣食住に対して少し習ったことがありました。それでもっと

衣食住の発表を楽しく聞くことが出来ました。元々日本という国に興味を持っていました。今度の交流会を通じてもっと日本に対して興味深くなり、また肯定的な視線で一歩ずつ日本に近づいたような気がします。次にまたこんな機会があったらもう一度参加したくなる交流会でした。

12 月 23 日に日本のお茶の水女子大学の学生たちが韓国のデグに来ました。その中の一人が私のバディーの宮島葵さんでした。最初はお互い始めて会ったので少し緊張しましたが、葵さんがとてもいい人でしたのですぐ仲よくなりました。葵さんと会って韓国の色んな文化を知りました。私は韓国人だから韓国の文化をほとんど知ってると思いましたが、この機会に韓国の文化をもっと詳しく知っていい経験になりました。そして日本の友だちもできて本当にすばらしい経験にもなりました。最初はこの交流会は日本の生徒だけにいい影響があると思いましたが、この交流会が終わって私が得たものは想像以上に私にいい影響をもたらしたと思います。もう一度お茶の水女子大学のみんなにまた会える機会があったらいいと思います。お茶の水女子大学の皆さん！韓国で残った交流会も楽しんでいただいたらありがとうございます！

韓国伝統文化について発表することができて、とてもいい経験になりました。また発表の他に漫才も準備したけど、みんな本当に楽しんでくれて、とても嬉しかったです。バディーの原田美緒さんとも短い時間だったけどいろんなことのお話ができて楽しかったです。これからも交流を続け、またお会いする日を楽しみにします。ありがとうございます！！

交流会は私にとって心に残る時間でした。私は日本語をあまり上手ではないので「私ができるかな」と思いました。でも、日本人バディーの中村江里子さんが先にメッセージを送ってくれました。会う前に色々話をして、知らない単語を辞書で探して、日本語の勉強をしました。そうして江里子さんは元々からのしりあいのようでした。江里子さんにもう一度感謝していると言いたいです。交流会も韓国の伝統文化を紹介して私も嬉しかったです。日本語でたくさん話すことはできませんでしたが、これから一所懸命に日本語の勉強をして江里子さんとまた、会う時は上手になります。いい機会を作ってくれたお茶の水女子大学、啓明大学の先生方に感謝します。

今回の交流会は本当に新鮮で興味深い体験でした。日本人生徒のバディーになって何かをすることが初めてでしたので交流会以前から期待しておりました。日本人のバディーも積極的でいろんなことを話し合って楽しかったです。今後こんな会がたくさんできて韓国と日本の間にいい発展があればいいと思います。本当に楽しい水曜日でした。来てくれてありがとうございます。

交流会で草刈沙季さんのバディーでした。私は思いもしなかったお土産を下さった沙季さんにまだ感謝とともに謝罪の気持ちを感じています。お茶の水女子大学の方々が発表して下さった内容は専攻の授業で勉強してたことですけれど日本人に詳しく聞いたのは初めだったのでおもしろかったです。そして、私が会話がへたでしたけれど優しく聞いてくれ

た沙季さんとお茶の水女子大学の他の人たちにも感謝しています。

こんにちは。私は一年生なのにこういう行事に参加が出来て本当にうれしいです。日本の友達と付き合ったのも本当に幸せで、いまも連絡しています。はじめはちょっと心配がたくさんありました。そして、その心配はリンと会ってもっと心配になって緊張してなにも話しませんでした。けれど、ずっとそばにいるから話かけたり、答えたりいろいろな話をして安心できるようになって、もっともっとなかよくなりたいなあと思いました。わずか一日で本当に残念だったんですけど、たくさんの思い出を作ってうれしかったです。

お茶の水女子大学との交流会は本当に有意義な時間でした。１日という短い時間でしたけれども、日本人の暖かさを感じることができました。韓国人の一人一人に御土産を準備してくださったり、素的な発表を準備してくださったり、誠にありがとうございます。来年、福岡大学に交換留学を行きますので、時間があればお茶の水女子大学にも行って交流したらいいなと思っております。最後に、お茶の水女子大学の皆さんも韓国人の暖かさを感じて帰ったらうれしいと思っております。ありがとうございました！

今回のお茶の水女子大学と交流ができて本当に嬉しかったです。日本人に韓国の伝統文化について紹介できてよかったです。そして日本と韓国の違いについて日本の学生達とお話できて嬉しいと思いました。機会があれば来年も交流したいです。ありがとうございました。

お茶の水女子大学の皆さんと会って本当に幸せでした。一日だけでしたが、今回の交流会で両国の文化について学んだり、話したりして勉強になりました。また、皆さんと忘れられない思い出を作ることができて嬉しかったです。本当にありがとうございました。また今回のようなプログラムがあったら、ぜひまた参加したいと思います。

交流会に参加した時、最初は日本語が下手な私がうまく交流することができるだろうか心配しましたが、日本人の友達の中で２人が知り合いだったし、幸いに私のバディーが今回の夏休みに会ったことがある友達だから安心し、また会えてうれしかったです。日本人の友だちの発表で日本人が韓国に対して持つ考え方、韓国と日本の違いを感じました。そして韓国人の友達の発表で韓国人ですが、知らなかったことについて知ることができました。また、韓国人もハンボクを着る機会があまりないですが、今回の交流会で着られて嬉しかったです。今回の日韓交流会に参加することができていい経験だったと思います。また、このような経験をする機会があれば参加したいです。

今回の交流会に参加できて嬉しかったです。一日だけで短かったですがとても楽しかったです！　発表の内容も面白かったし、バディーとの出会いもよかったです。最初にはどんな話をしたらいいか分からなくてちょっと戸惑いましたが、年も近いし、いろんな共通点があって話しやすかったです！　もし今度交流会があったらもっと時間が長かったらい

いなと思いました。とてもいい経験になったしずっと思い出になると思います！　またこんな交流会があったら参加したいと思います。

私は今回のお茶の水女子大学と啓明大学の交流会に参加しました。学校で初めて会った私のバディーは私より年上の先輩でした。初めて会いましたが私とバディーはいろいろな話をしながらすぐ親しくなりました。今回の交流会では韓国と日本お互いの文化について発表をして、日本の文化だけではなく普段に知らなかった韓国の伝統文化まで学ぶことができました。発表の後は韓国の伝統服のチマチョゴリを着てみたり学校を見物したりしながら楽しい時間を過ごしました。一日だけの短い時間でしたが今回の交流会に参加して本当にいい思い出をたくさん作りました。このような交流会が後にも続くといいと考えます。

志田沙央理さんとバディーになりました。お茶の水女子大の学生たちに初めて会った時心配が大きかったです。しかし、学生の両方が性格が良くてよかったと思いました。お互いにいい経験だったと思います。機会があればまた、このようなプログラムに参加したいです。

私は夏休みの時、サマープログラムに参加しましたからお茶の水女子大学の学生たちが来ることがとても楽しみでした。友達に会った時は本当に嬉しかったです。もちろん、私のバディーも優しくて良かったです。短い時間でしたが、韓国について紹介して一緒に体験しながら親しくなりました。日本の友達と話せる機会が多くなくてこれからこんな交流がたくさんあればいいと思います。ありがとうございました。

今回のプログラムは私にとって最初の経験だったので本当にすばらしいと思っています。私はあまりじゅうぶんではない実力だったけど、辞書を使って、友だちと先輩に聞いて私のバディーのミクと日本語で話すことができました。何分ミクは私と同じ年ですので通じることがたくさんありました。似ている悩みを話をすればするほど楽しくなりました。とても楽しかったです。今度またこんな機会があったら、日本の学生たちに韓国について上手に紹介できるように、一生懸命勉強します。

発表のおかげで、韓国の伝統衣装なのによく知らなかった韓服について分かるようになってよかったです。そして日本の学生たちの発表を聞きながらお互いの共通点と差異についてもっとたくさん分かるようになって良い時間だったと思いました。そして発表が終わった後、ご飯を一緒に食べながら話し合ったのも楽しかったし、日本と韓国の違いについてもっと多くの話がてきてて良かったです。自由時間に一緒にショッピングもしたりカフェで話したりしてもっと仲良くなることができて嬉しかったです。やはり化粧品と衣服は日本であれ韓国であれ、関心が深いなと感じました。プレゼントを準備してくれたお茶の水女子大学の友達にもう一度感謝の言葉を伝えたいです。また、このような交流の機会があれば参加したいと思います。

今回お茶の水女子大学との交流会でいろいろな思い出を作ることができて本当に楽しかったです。特に交流会が終わってからもみなさんと市内に行ってあちこち観光もできてよかったと思います。こういう機会があっていろいろと交流できて、嬉しいです。ソウルからテグそして釜山までの時間はいかがでしたか。皆さんから準備してくださった発表も本当にありがとうございました。そして、お土産もありがとうございました。またいつかどこかで会うことを楽しみにしていますので、またお越しください！

私は今回の交流会で司会をさせていただきました。まだ日本語の実力が上手ではないので、ミスも多かったですが、お茶の水女子大学の皆さんが応援してくれてありがたかったです。プログラムの中で一番楽しかったのはやはりチマチョゴリの体験でした。みんなチマチョゴリがよく似合ってとてもきれいでした。短い時間でしたが、バディーのゆりと友だちになれました。いつかまた会うことを楽しみにしています！

お茶の水女子大学の皆さん、こんにちは。啓明大学にお越しいただいて誠にありがとうございました。私のために発表準備をしてくださったこと有難く思っています。日本と韓国を比較する内容の発表は本当に楽しかったです。また、私たちのためにプレゼントまで用意していただき心より感謝申し上げます。これを機に、韓国に関心を持ち、たくさん遊びに来ていただければ嬉しいです

まず、この交流会を作ってくださってありがとうございます。お茶の水とは二回目の出会いだから本当にうれしかったです。バディーのプログラムを通じてお互いに微妙な文化の近いを理解する時間になって良かったです。私のバディーとプログラムが終わった後大邱の市内へ行って観光しながらお互いにいろいろな話をして楽しかったです。近いですが遠い国である日本をもっとわかって日本の友達を作って嬉しかったです。またこんな機会があったら参加したいと思います。この交流会は私として日本の文化も知って日本語に会話ができる意味があった時間でした。

お茶の水大との交流会をしながらいろいろな日本人の友達と付き合って日本語を本で学ぶのではなくて、話しながら直接日本人と韓国人の違うところとか日本と韓国のお互いの文化を学ぶことができて本当に良い時間を過ごしました。またこのような機会が会ったらぜひ参加して他の日本の友達にも韓国の文化を紹介したいです。

釜山外国語大学校

このフォーラムに参加してとても面白かったです。また参加したいです。難しいテーマだったけど、ハーフとしていろいろな情報を教えてもらい、よかったです。今年日本へ行くけど、日韓関係を回復させたいとおもいます。

初めてため口を使う、同じ年の日本人の友達が出来ました。私のバディーである高橋優さんが韓国に来る３日前からＬＩＮＥで話し始め今では呼び捨てをするほどになりました。今回の経験で感じたことが、ため口は難しいと言うことです。無意識に敬語や丁寧語が出たこともあります。それに、「そうですね」をため口として使えば、「そうだなぁ」なんですが、ただ「そう」を使いました。もちろん意味は通じますけどすべての言葉がこんな感じで変でした。最後の日にはずいぶん慣れたんですけれども口から言葉が出るのが妙に不自然でした。ＬＩＮＥではけっこう使ったんですけど実際に会って話すこととは違いがありました。

日本人の友達以外にもそれぞれ先輩たちにもいろいろ学ぶことはありました。もちろん先輩といっても完璧ではありませんがそこから良かった所だけ見習っていけば私も良い先輩、後輩、学生になれるかもしれません。

次からもこんなチャンスがあれば必ず参加いたします。てか、私も混ぜてください。

がんばります。ありがとございました。

私は 12 月 26 日から２日間行われたお茶の水女子大学主催の日韓国際学生交際フォーラムに参加しました。こんな大きい行事に参加したのは初めてで、勿論同じ年の日本人と何かをすることも初めてでした。簡単な挨拶からお互い韓国について教えてあげたり日本についても色々教えてもらったりしました。自分は人との触れ合いって実は苦手なことでしたので初めて皆で集まってお互いのバディーを確認したその瞬間にはすごく怖くて、逃げたいと一瞬思いました。でも、相手は私に優しくしてくれて、発表の時に自分は質疑応答の担当にも関わらず上がっちゃってちゃんと答えられなかった私に向かってお疲れ様と言ってくれました。発表の後、一緒にお面作って写真を撮りまくりました。いつの間にか二人は自然と手を繋ぐようになりました。最初の不安はまるで無かったかのように、むしろ逃げたいって思った自分が恥ずかしくなりました。お別れの時は既にこのプログラムに参加してよかったとまで思いました。

因みに私たちの発表テーマは民間交流についての内容でしたが、多分今回の国際交流も民間交流の一つなのでしょう。発表の時にも例を挙げたと思いますが、韓国と日本は距離的には本当に近いです。近いだけお互いは有史以来悠久な関係を結び続けて来ました。でも、それでも今の両国はお互いを近くて遠い存在として認識しています。これは地理的、文化的には近くても心理的には遠いと感じられているからだと思います。これは多分長い間築かれた認識（壁）から始まったと思います。認識というものは未来可変的ですが、決して簡単には変わりません。でも、このようなプログラム（民間交流）を通じて、互いを知ってそれで一人一人認識を変えていけば、何時かはその壁というものを乗り越えられるのではないか。と思います。

確かに、私もこのプログラムで日本がますます好きになりました。今後もこのような交

流になるべく参加していきたいと思います。
このようなプログラムを設けていただいて、本当にありがとうございました。
初めての思い出になったので一生忘れられません。本当に感謝します。

12 月 26 日。バディーと初めに会って韓国と日本の未来について話をしました。その後昼ご飯を食べてバディーと韓国の仮面を作りました。一緒に仮面を作りながらたくさん話をして初めて会うバディーと仲がよくなっていきました。学校の中の予定が終わった後バスに乗って夕ご飯を食べに行きました。夕ご飯を食べる時にはバディーの友達と一緒にご飯を食べました。本当に美味しいし面白い時でした。26 日の予定が終わったあと仲が良くなった友達と一緒に釜山タワーに行きました。そこで写真もたくさんとりながら遊びました。その後にかき氷を食べました。韓国のかき氷を食べながら話をしました。話をたくさんして日本語の勉強もたくさんして友達にも会って面白かったです。
27 日は釜山の観光をしました。五六島に行きました。そこはスカイウォークがあります。海もきれいでした。五六島に行ったあと石焼ビビンバを食べました。私も初めて食べましたけど美味しかったです。ヘウンデに行って私たちはデザートカフェに行きました。少し高いけど美味しいから大丈夫でした。ソミョンでみんなでカラオケでうたを歌いました。みんな楽しく遊んで面白かったです。夕ご飯を食べて今日の予定が終わってみんなでマッコリを飲みました。たくさんの味があってたくさん飲みました。今日が終わる時バディーがお土産もくれましたが今でもありがたいしもったいないのでたべていません。すてきな友達ができてうれしい２日間でした。

日本語を習う学生として、今回のフォーラムは非常に興味深い経験でした。名門と呼ばれる大学の学生とパートナーになり、２日間、いろいろお話してお互いに違う文化について知っていくのも楽しかったですが、何より両国の未来を考え、敏感な問題についても勇気を出して話せる場だったという点が私にとって新鮮で面白い経験でした。おかげで、私たちはこれからの交流のため、知っておくべき問題とそれに関してのお互いの考えについて知ることができました。これからもこんな機会があればいいと思います。２日間、ありがとうございました。

大学生になってはじめての交流、日本に行って日本人に出会ってはなすことは数多くしてみました。しかし、普通に出会って話すのと、交流と言うものは違いました。お互い同等な立場で、同じ思いを持って話し合うのは私が今までしてきたものとは話し方や、感じることがたしかに違いました。私とペアになった人は私より先輩でした。だからなのか、最初は話しかけるのが少し難しかったです。しかし、話したら話すほどどんな話でも話しやすくなって行きました。日本人と韓国人の発表でも大学生という感覚がちゃんと分かったのです。この交流に参加していろんなことを感じることができた私にとってとても有益な交流でした。

今年最後にこうして交流会に参加できて嬉しかったです。日本人の大学生と出会って話し合うことでお互いを理解することができて良かったと思います。こういう交流会がもっとあってたくさんの人が参加できたらいいと思います。これからも機会があればずっと参加したいと思います。

2015 年 25 日から 27 日までお茶大の皆さんと釜山ツアーと交流会をしました。私は今年入学した１年生で、こんな交流会は本当に初めてでした。それでちょっと心配がありましたが、時間が過ぎるにつれて、全部なくなってしまいました。大変なことも嬉しいことも全部幸せな思い出だと思ったからです。後でこんなプログラムがまたあったら、ぜひ参加したいです！３日間、本当に楽しかったですー！何か良い縁もできてとても嬉しいです！こんな機会を教えてくださった私の担当の先生方に感謝します。

今回の交流会に参加して本当に意味が通じる機会になりました。私は日本語が下手で様々な見解の話ができなくて少し残念ですが心の中深くに率直な話を留められたことを疑っていません。短い時間の交流会だったけど思い出として永遠に記憶します。私のパートナーと別れる前に詩を読んでくれました。「思い出は前には石でも、過ぎた後には金。」このような意味でお茶の水女子大学の交流会は私にとってまるで大きな金鉱を発見したようでした。

最初はまだ日本語の実力も下手なのでとても悩んでいました。「私の実力でちゃんと交流ができるかな。辞めようかな。」と。でも 26 日にお茶の水の皆さんと会って話し合って、私の下手な日本語も上手だと褒めて下さってそんな悩みはすぐなくなりました。でももう一つの悩みがありました。最近日韓関係が悪くなっていると聞いて、親しい関係でもなかなか話せないことを討論したら、「お互い意見が対立することになってしまうのではないのか。」と心配しましたが、お互いの意見を聞いて、質問と答えも聞いたらそれは私だけの勘違いだと気付きました。普段では良く話せないことを話し合えたのがとても良い経験だったと思います。交流会の皆さんにもっと色々な事をしてあげたかったのにしてあげられなかったのがすこしだけ残念でした。今回の交流会を作って下さった方々に本当にありがとうございました！色々な経験もできて、お互い国の関係などをもっと深く話し合えて理解できるいい交流会でした。

私にとって今回の交流会はとても大事な機会でした。授業で学んだ日本語は授業でしか使う機会がなかったので、こうして日常会話や、自由に自分の意見を話すのは難しいと思いました。今回の交流会はその、その日常会話を実戦でつかってみるチャンスだったのが一番良かったと思います。そして結構重い話題で発表をしてみることや発表を聞いてそれについて自分の意見や質問を考えてみるのも面白かったです。

お茶の水女子大学の学生たちとの交流会は本当に楽しかったと思います。２日間という短い時間でどのくらいの交流ができるか、少し肯定的な考えもありましたが、実際に彼女たちに会って、何かを一緒にしてから、その気持ちは完全に変わりました。お互いの文化

や考え方の違いを理解し、配慮しながら日韓関係の未来を考える良い時間でした。私はずっと前から日本人の友達が欲しかったのですが、日本人に会うと、目には見えない壁を作ってしまい、友達になるのがなかなかできませんでした。しかし、優しくて素晴らしいバディーに会って、いい友達になりましたので本当に良かったと思います。日本人に会って、お互いを理解するこの交流会のような機会があれば、また参加したいと思います。

今回の交流会に参加できてとてもよかったです。お互いの文化を交流し理解のできる場面だったのでまた機会あればぜひ参加したいと思っています。そして、みんな積極的に取り組んでいたので楽しかったですし、森山先生、諏訪先生がおっしゃっていた「ハーフ」ではなく両方の文化を持ち合わせているということでこれからは「ダブル」で呼ぶというのはとてもよかったです。これからはダブルとして誇りを持っていきたいと思います。

今度の交流会を申請した理由は、ただ「楽しそうだったから」だった。でも、３日間の交流会をしながら、私の考えが間違っていたと感じた。お茶の水女子大学の皆さんと話をするときに私は私の日本語能力の限界を感じたし、「今までした日本語の勉強は何のためだ。」とのことを真剣に考えることができた大切な経験でした。こんな交流会がまたあったら、友達や後輩にも教えたいくらいの本当に大切な経験でした。

今度の交流会は私にとって大切な経験になるだろうと思います。日本人の知り合いがあまりいなかったので、日本語を話す機会がほとんどなく、ただ本で勉強するだけでした。ですが、この交流会で日本の学生と３日間一緒に遊んだり、話したりしてとてもよかったです。少し敏感な領土問題や政治的な問題も交流会の途中話すこともよかったと思います。これからもこのような、互いに本音を出す機会をだんだん増やしていけばどうかなと思います。すごくよかったです。ありがとうございました。

今回、第５回国際学生フオーラムに参加しました。この前は東京学芸大学付属高校にも参加しました。でも今度は私と歳も似ているし、同じく大学生だからもっと色々な話をしました。日韓両国が、未来にどうしたら協力してもっといい国になるためにはどうしたらいいのか。私一人で考えた時には、本当に難しいと思いました。でもフオーラムでお茶の水女子大の学生と、外大の学生が力を合わせて考えたら本当にいいアイデアが出ました。ディスカッションの時じゃなくても、色々な大事な話もしました。でもそれじゃなくても、皆と友達になったことも重要です。今後学生フオーラムを行うときには、時間をもっと長くして今回よりももっとなかよくなれたらいいし、色々な話をしたらいいと思います。

様々な話ができました。特に、韓国に留学にきた学生ではなく、韓国に始めてきた日本の学生の意見を聞くことができてよかったです。その意見の中で今まで韓国に対するイメージが悪かったと言っている人もいました。でも、フォーラムの準備と発表しながら、そんなイメージがだいぶ変わったと言ってくれました。このように韓国と日本、両方の国が話し合える機会があれば、お互いを理解し、いい未来へ向けられると思うようになりました。

外国語を勉強するときに困ることは話をする相手がいないことです。専攻の授業の時も話ができる相手は先生や同じ授業を聞く人だけでした。お茶大との交流会は自分の日本語の実力がどのぐらいか教えてくれました。私には経験でもあり、いい思い出になりました。バディーの人ととも仲良くなったし、「韓国でのいい思い出になった」と言ってとてもうれしかったです。２日間とても楽しかったです。これかもこんな交流会があれば是非参加したいです。

今回、初めて学生フォーラムに参加しました。とても、ドキドキしながらお茶の水女子大学の学生さんたちを待ちました。最初は少し人見知りしましたが、一緒に発表を聞いて、韓国の伝統仮面も作りながら、段々親しくなったと思います。２日目はバディーだけじゃなく他の学生さんたちと話しながら、日本の文化も学び、私は韓国の文化を教えたりしました。とても楽しい時間でした！2015 年最後にとても記憶に残る体験ができた、と思っています。また、こういうプロジェクトやプログラムがあったら参加したいです。

初日の行事は、韓日関係の歴史、文化、政治問題などについての発表と討論がありました。今後、韓日関係の未来についてのフォーラムは楽しかったし、興味深い時間でした。第二の行事は韓国の伝統仮面を作る時間でした。安東河回仮面を作りながら韓国の伝統を少しでも体験をすることができて楽しかったです。特にお茶の水女子大の学生たちが楽しくて準備したことにやりがいを感じました。朝鮮通信使民族館に行って朝鮮通信使について見て、過去日韓関係について考えるようになりました。特に私のバディーの八木さんとあれこれ話をしながら親しくなることができて楽しかったです。そして、私たちは、ダイヤモンドブリッジに向かう写真を撮っていたずらもしながら親しくなりました。童心にかえってじゃれたりもして夜景も見て釜山の美しさと思い出を作りました。釜山の地下鉄も乗ってみたし、バスも乗ってみたし、あれこれ経験を作ってくれました。最後に、南浦洞で３日間の短い日程を終えながら、チキンとビールを食べました。物足りなさがたくさん残る時間でした。短い期間の間でしたが、多くの思い出を作ることができて楽しい時間でした。このような機会をいただきありがとうございます。そして最後に、ユウちゃんありがとう。

お茶の水女子大学校とは 25 日から 27 日まで交流をしました。わたしにとって今回の交流はとても特別な経験でした。今まで会話した日本人はペンパルで会った人と学校の先生しかなかったからです。交流のはじめの 25 日は緊張してよく話せるか心配しました。クリスマスだったので人が多かったです。でもプサン南浦洞のいろいろな場所を紹介してどんどん自然に話がつづけられました。下手な日本語でしたがよく聞いてくれました。そのせいでなによりわたしが日本語会話に自信を持つ機会だったと思います。

26 日は発表と韓国の伝統仮面を作ったことが印象的でした。発表の内容で「韓国と日本が共同でフェスティバルを開催して関係を改善する」そのアイデアが新鮮でした。特にわたしのパートナーは韓国語が上手なので発表の内容をもっと詳しく説明してくれました。それ以外に韓国と日本の慰安婦、独島、日本植民地支配期、歴史的問題などなど、両国で敏感なことについて会話しました。わたしの考えに多くの影響を与えました。

27 日最後の日でした。ほかの学生たちと親しくなりました。短い期間に親しくなったので意味深い出会いだったと思います。これは交流の長所でもあり短所だとおもいます。ま

た機会があればもっと積極的に参加したいです。このような交流に参加することにしてくださって本当にありがとうございます。

私は今回の交流を通して、日本は言語と歴史がちがって多くの葛藤がある国ですが、この時代は民族が国家よりは和合と平和が重要な時代であるため、努力を通して克服しなければならないと思いました。

日本の学生達と一緒に韓国と日本の関係について話すいい機会になりました。発表を通じて韓国と日本の関係についてもう一度考えてみる時間になりました。但し、発表の後それについて話し合う時間が少なかったのが残念でした。一日はただ発表を聞いているだけだという感じでした。二日目はフリータイムが分かれてバスに乗る時間が少しもったいなかったです。また一日目のスケジュールをもらえなっかたのが残念でした。もしスケジュールを分かっていたらフリータイムの時、前もって調べてもっといい案内ができたかもしれないと思います。

私は今回のファーラムに参加して日本語を勉強している学生としてではなく一人の韓国人として学んだり感じた事がすごくあります。日本の大学生と両国の問題や未来の事について話せる機会はなかなかなかったので本当に有益な時間でした。一緒にプサンを観光した時も両国の共通点や違う点について話ができてよかったです。そして一対一でバディーになってお互いについてもっと仲良くなることができる良い時間でした。そして私のバディーだけではなく本当にいい人々に会う事ができてうれしかったです。このようなフォーラムが続けて開催されて両国の関係に力になることを願います。

まず、日本の同じ年の大学生と交流する機会を下さった関係者の皆様へ感謝します。
政府の偉い人たちの国際会議とは違い、自分たちの意見や考えを思う存分ぶつける事ができて私を含めみんな楽しく交流できたと思います。議論だけのかたい雰囲気ではなく、韓国人と一緒に観光地を回り自由観光もして、いっぱいお互いの国の話をしながら文化の違いも知ることが出来ました。今まで持っていた偏見が全部なくなって、今度は自分が直接日本に行きたいと思うようになりました。お互いの国が仲良くなる為にどんな方法があるのかを一緒に考えるのを見ながらたぶんこの世代の若者たちの力があれば必ず日韓のよい関係が保障されるのではないかと思いました。次もこんな交流の機会があれば必ずまた参加したいと思いました。最後に、韓国に訪問してくださったお茶の水女子大学の皆様に心から感謝いたします。

教授と塾の先生を除いて初めて会う日本人だったため、少し心配を持って交流会に参加した。でもやっぱり教授や塾の先生のように優しくて親切だった。そしてみんな韓日関係をさらに改善させたい意志があった。私も日本語を学ぶことによって、日本に対する悪感情はなかったが、お茶の水女子大学の友達を見て傍観するのではなく、両国の関係を少しでも改善しうる様々な案を考えなければならないというのを感じた。そして韓日関係を悪化させる韓国と日本マスコミに出てくる様々な事件は実際の状況とは別に誇張される部分

が多いということを知ることができた。初めて日本人の友達と付き合った。本当に良い友達だった。短い２日間だったが、私に大きな影響を与えた。その友達に負けないために努力するのではなく、一緒に道を歩めるようにこれから一生懸命に努力しなければならない。韓国、日本の未来を導いて行く大学生たちが仲良く過ごすのを見ながら私たちが努力すれば確かに韓国と日本は同じ道を共に歩むことができる良い友達になれるという明るい未来を夢見ることができるようになった。本当にありがとうございます、お茶の水女子大学のみなさん！　次にまた会う日を期待しています。本当に幸せな時間でした！

お茶の水女子大学とのフォーラムに参加できて、とても良い経験だったと思います。考えもしなかった発表まですることになり、最初は戸惑い、諦めたい気分もありましたが、発表準備をしていく中で、普段思っていた日韓関係について真剣に向き合えるようになりました。発表以外にも、バディーとの交流の時、暇があったら、熱く語り合い、27 日も、13〜14 人ぐらい集まって日韓関係についてずっと話し合い、お互いについてもっと深く知ることができました。このように日韓の大学生が日韓関係に対して積極的に未来のために討論をする機会があまり無かったのですが、今回のフォーラムがこれからの明るい日韓関係を作れる良いきっかけになると思います。

フォーラムと言いますと少し近づき難い感じがしましたが、日本人の学生と交流できると聞いたので志願しました。知り合いが誰一人いないにも関わらず志願をしましたが、お茶の水女子大学側からの親切で明るい笑顔で迎えてくださり気楽に話が出来ました。当日の午前から、各学校の代表が発表をして質疑応答の時間を持ちました。お茶の水女子大も一生懸命準備してきたようでした。そして、質問も色々しながら討論もして答えを見つけていきました。学生寮の食堂で昼食も一緒に食べ、夕方には一緒に海鮮鍋を食べに行きました。フォーラムの中は静かで緊張した雰囲気でしたが、ご飯を食べるときにはそれまでできなかった話をしました。１年生から４年生まで年齢を問わず一つになることができたようです。2015 年度をかっこよく終わらせることができてとてもいい思い出でした。来年にはまたこうした機会があれば、発表者として参加したいです。

今回のフォーラムのテーマは日韓がこれから歩むべきの未来についてだった。日韓は隣国であり、歴史・文化・経済など何ひとつとしてお互いを抜きには語れない。だが、力、お金の流れによって動く企業間の交流は進んでいるが、小規模の民間レベルの交流以外の政府レベルの交流はまだ、そこまで進んでいないのが現実だ。政府レベルの交流が進むためには世論が必要だ。そのためには日韓両国がお互いをちゃんと認識して、理解を深めることが大切だ。

私が日本で働きたかった理由もそうである。自分から動いて日韓の関係を改善させる努力をする。これを少しずつ広めて、個人→組織→地域→国まで韓国に対する認識とイメージを変え仲良くしていきたい。今回のフォーラムを終えて、気が合う日本人学生と韓国人学生でお互いの文化やイシューなどを語り合えるフェイスブックページを作った。これが、今後の日韓の関係が改善するに少しでも役に立てればなと思っている。

３日間楽しかったです。お茶大の学生といろんな意見や文化を交換できました。日本の有名なことを直接聞くことができましたし、韓国の有名なことを教えてあげることができました。でも食事は人数のためだったのか美味しくはなかったです。韓国の美味しい食堂は多いが、紹介できなくて残念でした。それから、アレルギーがある人もいて食べない人もいました。食事するのは、選択できるのがいいと思います。もし可能であれば、パートナーが食堂を案内するのもいいと思います。

今回のプログラムは日本語を専攻している私にとてもいい経験でした。特に私が考えていた日韓の未来とその方法を日本の大学生たちと話し合えたことは本当にいい勉強になりました。
ただ、それに関する議論より観光のほうの時間が長かったため、まだ心に残っている話があることは残念です。でも私の後輩たちがそれを話せるよう、これからもこのようなプログラムを続けてほしいと思います。諏訪先生も三日間お疲れさまでした。ありがとうございます。

２日間のフォーラムの間、発表をさせていただいたり、素敵な友達に会ったりして思い出に深く刻まれるような時間でした。私は日本の大学生に会うことが初めてで、少し緊張しましたが、直接向き合ってからは韓国と変わらない普通の女の子だと思ってほっとしました。最初は、何も考えずに参加しました。でも、いろんな経験ができて私も勉強になりました。そして、ディベートや時事討論の授業を受けていたらもっと日韓の交流について話せるんじゃないかと感じました。短い時間でしたけど、お茶の水女子大学の皆さんにお会いできて大変うれしく思いました。

日本と一番近くにある都市であり、日本と似ているところが他の地域より多い釜山で、日韓の未来について話し合えてよかったと思います。最初はただの学生交流だと思って参加しましたが、日本語を専攻している者としてまじめな発表や討論ができ、自分にとっていろいろ振り返る機会になりました。私たちが会い、直接コミュニケーションをとることで、現在の日韓関係が変化するわけではありませんが、お互いの考え方を知り、これから私たちが持つべき考えや、どういう風にするべきかを知る機会になりました。他のプログラムもいいですが、やはり直接会ってコミュニケーションをとるのが一番良いと思います。これからもこういう場を広げれば、もっといいと思いますし、学生である私たちもできるだけ、こういう機会を作っていきます！本当にありがとうございました。

12 月 26 日、釜山外国語大学で国際学生フォーラムが開かれた。前日の 25 日、お茶大の学生たちとナムポドンで楽しい時間を過ごした後、うちのＢチームは発表の内容を加えるため遅い時間まで議論を続け、多くの人々の前で日本語で発表をするという負担と緊張感で私は他の人より少し遅く眠りについた。
鄭起永先生と森山先生、金ヨンガク先生の歓迎の辞でフォーラムは始まった。韓国のＡチームは経済的な協力について発表をしてくれたが、具体的な案がなかったことが残念なところだった。日本Ａチームは日韓都市間交流について発表をした。実際に韓国には、日本の都市と姉妹縁組を結んでいる都市が多くあるが、それらの交流が活性化していない気

がする。私の故郷のソサンも日本の天理市と姉妹都市になっているけれど、広報がよく出来ていないせいで、大学生になってから市役所のホームページに入った時、偶然知るようになった。日本のＡチームが発表してくれた「学生外交官」や「学生記者」などを利用し、都市間の交流を活性化すれば、両国の学生たちにおいても多様な活動が与えられ進路の決定にも役に立つと思う。

日本Ｂチームの発表のテーマは実現できる可能性は低いかもしれないが、韓国と日本の音楽が好きな私にとっては一番楽しくて期待される内容であった。音楽には個人の趣味があるだけ、勝敗も国境もない。だからこそ、韓国と日本の国民が政治的な目線から離れ、両国の距離を縮めるために最もいいのが「音楽」だと思う。日本側の学生が言ったとおり、いつかは本当に「夏と言ったら、日韓ミュージックフェスティバルだよね」と言える日が来たらいいなと思う。

27 日には発表会の時済ませられなかった討論の続きをやった。フォーラムでずっとタブーされている問題をちゃんと話し合うべきということを強調したおかげで、現在日韓の間で問題になっているテーマについて話すことができた。たとえば、韓国と日本の教科で植民地時代をどんなふうに、どこまで扱っているのか、韓国の学生たちがどうやって日本に対して反感を持つようになるのか、日本語を勉強したり、日本の文化が好きな人に対する認識、日本で生活している在日韓国人に対する日本の認識と待遇、東海併記のことや軍艦島の世界遺産登録についてのお互いの考え、そして韓国と日本両国において大きな社会問題になっている受験ストレスや自殺問題、韓国と北朝鮮の関係など幅広い分野に対して色々な考えのやり取りがあった。

実は、この交流会に申し込む時には、こんなに重い（？）フォーラムとは知らなかった。普段交流活動が好きで、１年生の時、ナムポドンの辺りを案内する交流会を思い出して、軽い気持で申請をしたのだ。それで、ＯＴでただの交流会ではなく、日韓関係の未来について発表したり、討論するフォーラムというのを聞いたときには少し驚いたが、少し喜んだ。その理由として今年の５月に日本で出会ったある友だちとの話をさせてもらいたい。彼が私に話してきたことの中で、日本人（観光客）に対するぼったくりやお菓子パクリなど韓国人としても恥ずかしくて否定できない話もあったが、東海併記や軍艦島のことなど敏感で同感しがたい話しを聞いて、日本人の歴史認識について本格的に関心が芽生え、８月のサミットのように聴衆ではなく、発表者として参加できるのが嬉しかったからだ。

今回のフォーラムに参加し、特に発表の準備をしながら、普段考えてきたことをみんなと共有する時間を持つことにができ、自分の意見を整えて言葉にすることで、改めて自分が何を考えているのかが分かる時間であった。そして、今回のフォーラムで付き合った人たちとＳＮＳでグループを作り、今回だけで済ませるのではなく、これから具体的な活動をしていくようになったのが、一番大きな収穫だった。

まずはものすごく楽しくかつ有意義な時間でした。自由研究の時間も楽しかったのですが、やはりディスカッションと発表の時間が一番楽しかったと思います。ただし、お茶大のメンバーが 36 人である分、実際に話せたのは数人しかいなかったので、それが残念です。